

向 田 遺 跡

沼田市立薄根中学校校舎等建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 3

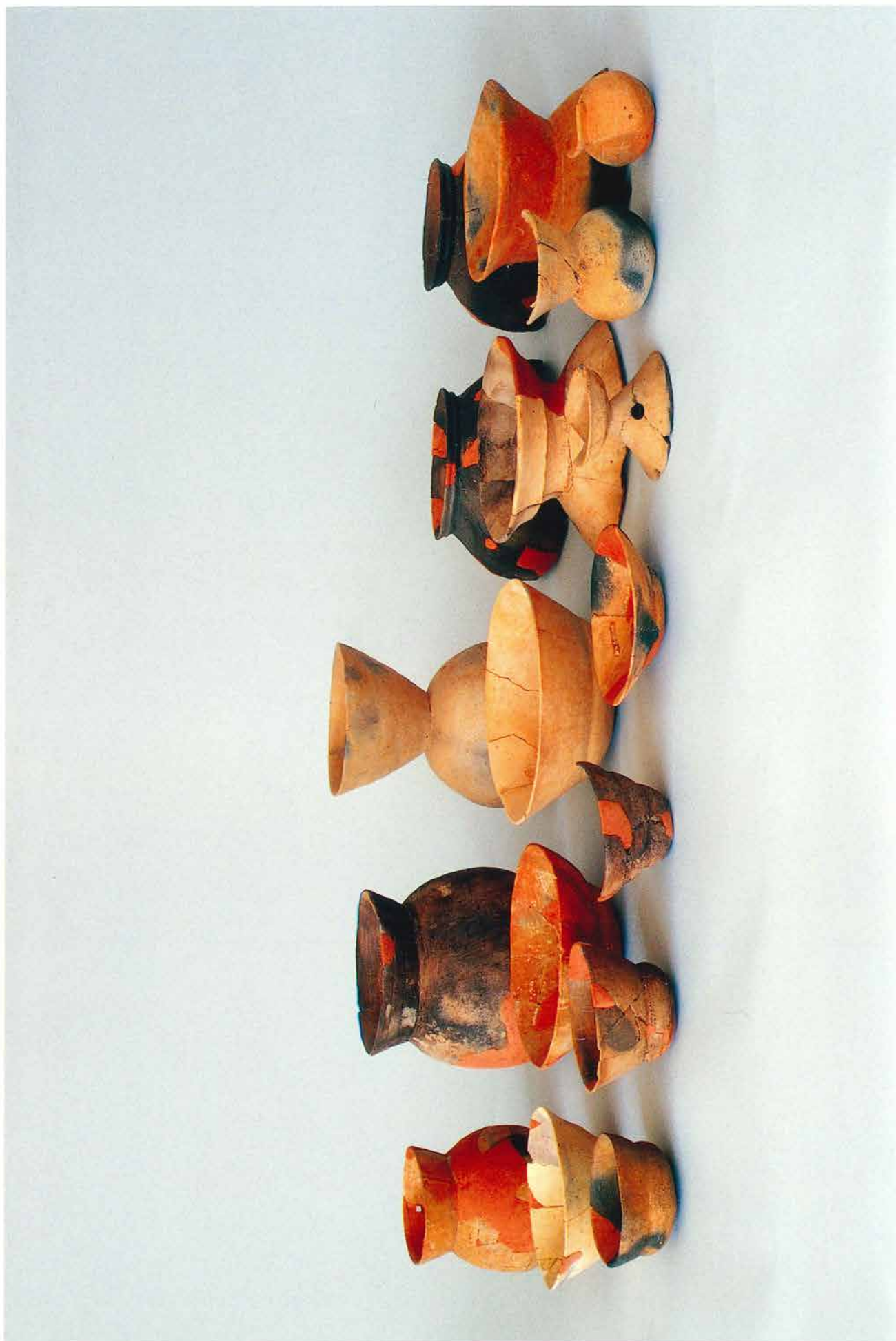
群馬県沼田市教育委員会



遺跡から戸神山を望む 南西から



三峰山から遺跡を望む 北北西から



向田遺跡出土遺物

序 文

県北に位置する沼田市は、沼田台地を中心とした盆地地形とそれを取り巻く山々に囲まれた地形から成っています。市内には、利根川をはじめその支流である片品川や薄根川などが流れ、川沿いには河岸段丘が非常に発達しています。

本市には、旧石器時代から現在まで連綿と継続して我々の祖先が生活し、その痕跡が年々発見されつつありますが、特に薄根地区には多くの遺跡が集中しており、古代から中世にかけてはこの地域における一つの中心地区であったと考えられています。

本報告書は、薄根中学校校舎等新築工事に伴い発掘調査された向田遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。古墳時代初頭から集落が営まれるようになり、多くの竪穴住居が発掘されました。特に平成14年度においては、薄根中学校の全校生徒が実際の発掘調査の様子を見学し、出土遺物についても間近に見ることができたことは非常に有意義なことであったといえるでしょう。

この貴重な調査の成果が今後さらに活用され、地域における歴史の再認識・文化財保護啓発の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり炎天下や小雪の舞う寒風の中で発掘作業に従事された方々をはじめ、本書をまとめるまでの間、多くのご指導とご協力をいただきました群馬県教育委員会並びに関係各位に心から感謝申し上げます。

平成15年 3 月

沼田市教育委員会
教育長 角田 利喜雄

例 言

- 1 本報告書は、薄根中学校普通教室棟建設及び屋内運動場等建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査地は、群馬県沼田市大釜町字向田746-1・747番地に所在する。
- 3 発掘調査は、普通教室棟部分が平成4年10月19日～同年11月24日まで実施し、屋内運動場等部分は平成14年8月6日から同年11月29日に実施した。整理調査は平成4年度調査分が同5年3月及び同14年1月～3月まで、平成14年度調査分が同3月まで実施した。
- 4 発掘調査及び整理調査は、平成4年度は市単費で、平成13年度は緊急地域雇用創出特別基金事業として、平成14年度も緊急地域雇用創出特別基金事業としての県補助金と市費にて実施した。なお、平成13年度の整理調査は株式会社測研（中之条町）に委託し、平成14年度の発掘調査・整理調査は、沼田市教育委員会の指導監督のもと、大部分を有限会社山武考古学研究所（本所：千葉県成田市）に委託して実施した。

- 5 教育委員会事務局及び委託先の発掘調査・整理調査体制は以下のとおりである。

	平成4年度(発掘・整理)	平成13年度(整理)	平成14年度(発掘・整理)
教 育 長	荻野 明正	角田利喜雄	角田利喜雄
教育部(次)長	小野里靖夫	角田 巻由	新井 康裕
社会教育課長	角田 巻由	増田 幸男	町田 哲男
文化財保護係長	鳥羽 昭男	小野 勝宏	小野 勝宏
主(事)任	小池 雅典(担当)	小池 雅典(担当)	小池 雅典(担当)
主(事)任	宮下 昌文	宮下 昌文	宮下 昌文
		測研:佐々木裕美	山武:大越 直樹(主担当)
		同 茂木 良子(主担当)	同 山崎 悟
			同 須田 宗孝
			同 土生 朗治

- 6 本書の編集・執筆は平成4年度分は小池が、平成14年分は大越が主として一部土生が行った。
- 7 平成14年度の調査におけるGPS・方眼杭打ち・水準の各測量は外山測量株式会社に委託して行った。
- 8 遺跡・遺構の空中写真撮影については、株式会社JT空撮に委託して実施した。
- 9 出土遺物の石材については飯島静男氏に同定を依頼した。
- 10 調査の資料は、沼田市教育委員会が沼田市教育委員会事務局及び同市文化財調査事務所で保管している。
- 11 発掘・整理調査において次の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。(敬称略)

群馬県教育委員会文化課 高山工業株式会社

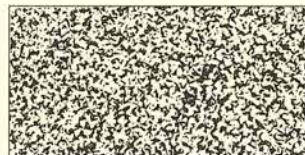
凡 例

- 1 第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1の地形図「沼田」「後閑」を使用した。
- 2 第2図は、沼田市発行の2千5百分の1の「都市計画図3」を使用し、第3図はこれを1千分の1に拡大したものである。
- 3 遺構図中の方位は世界測値座標北で表した。ただし、平成4年度調査の遺構図については、調査時に磁北で作図したものを世界測値座標北に補正して表示した。
- 4 図中に記載した断面基準線の数字は、海拔高である。平成14年度は一等水準点第3538号を原点とした水準測量により調査区BM（ベンチマーク）を設置した。
- 5 遺構図・遺物図は、原則として以下のように統一したが、それぞれで縮尺が異なる場合は別に表示した。
全体図 1/300 竪穴住居・掘立柱建物跡 1/60 土坑 1/30 (平成14年度は1/60)
出土遺物図 1/3
- 6 本文記述及び図面土層説明のFPは榛名山二ツ岳降下軽石堆積物を指し、堆積（噴火）年代は6世紀中頃とされている。
- 7 遺構図中の「網掛け」は焼土を、遺物図中の「網掛け」は以下を示す。

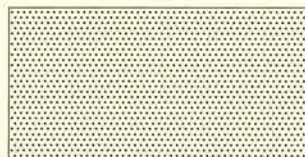
地 山……………



炭化物・煤付着……………



焼土・赤色塗彩……………



目 次

口 絵
序 文
例 言
凡 例
目 次

I 調査に至る経緯と遺跡の環境	1
1 調査に至る経緯	1
2 遺跡の位置と地理的環境	1
3 歴史的環境	1
II 調査の方法と遺跡の概要	3
1 調査の方法	3
2 遺跡の概要	5
3 基本層序	5
III 平成4年度の調査	7
1 縄文・弥生時代	7
2 古墳時代	9
3 奈良・平安時代以降	23
IV 平成14年度の調査	39
1 縄文・弥生時代	39
2 古墳時代	42
3 奈良・平安時代以降	61
4 時期不明	69

写真図版

挿 図 目 次

第1図	向田遺跡の位置と周辺の主な遺跡	2	第37図	24号住居跡・9号土坑実測図	39
第2図	遺跡と周辺の地形図	4	第38図	24号住居跡・9号土坑遺物実測図	40
第3図	調査範囲	4	第39図	縄文・弥生時代遺構外出土遺物実測図(1)	40
第4図	基本土層図	5	第40図	縄文・弥生時代遺構外出土遺物実測図(2)	41
平成4年度調査					
第5図	平成4年度調査区全体図	6	第41図	11号住居跡実測図	46
第6図	2～4号土坑実測図	7	第42図	13号住居跡実測図	47
第7図	3号土坑、縄文弥生時代遺構外出土遺物実測図	8	第43図	14号住居跡実測図	48
第8図	3号住居跡実測図	11	第44図	17号住居跡実測図	49
第9図	4号住居跡実測図	12	第45図	18号住居跡実測図(1)	49
第10図	4号住居跡貯蔵穴・炉実測図	13	第46図	18号住居跡実測図(2)	50
第11図	5号住居跡実測図	13	第47図	19号住居跡実測図	51
第12図	6号住居跡実測図	14	第48図	20号住居跡実測図	52
第13図	6号住居跡出土遺物分布図	15	第49図	21号住居跡実測図	52
第14図	7号住居跡実測図	15	第50図	22号住居跡実測図	53
第15図	8号住居跡実測図	16	第51図	23号住居跡実測図	53
第16図	9号住居跡実測図	17	第52図	25号住居跡実測図	54
第17図	10号住居跡実測図	17	第53図	26号住居跡実測図	54
第18図	3号住居跡出土遺物実測図	18	第54図	28号住居跡実測図	55
第19図	4号住居跡出土遺物実測図	19	第55図	11号住居跡出土遺物実測図(1)	56
第20図	5号住居跡出土遺物実測図	20	第56図	11号住居跡出土遺物実測図(2)	57
第21図	6号住居跡出土遺物実測図(1)	20	第57図	13号住居跡出土遺物実測図	57
第22図	6号住居跡出土遺物実測図(2)	21	第58図	14号住居跡出土遺物実測図	58
第23図	8号住居跡出土遺物実測図	21	第59図	17号住居跡出土遺物実測図	58
第24図	9号住居跡出土遺物実測図	22	第60図	18号住居跡出土遺物実測図	59
第25図	10号住居跡出土遺物実測図	22	第61図	19・20号住居跡出土遺物実測図	59
第26図	古墳時代遺構外出土遺物実測図	22	第62図	21号住居跡出土遺物実測図	60
第27図	1号住居跡実測図	25	第63図	25号住居跡出土遺物実測図	60
第28図	2号住居跡実測図	26	第64図	26号住居跡出土遺物実測図	60
第29図	1号掘立柱建物跡実測図	27	第65図	28号住居跡出土遺物実測図	61
第30図	2号掘立柱建物跡実測図	29	第66図	古墳時代遺構外出土遺物実測図	61
第31図	3～7号掘立柱建物跡実測図(1)	30	第67図	12号住居跡実測図	63
第32図	3～7号掘立柱建物跡実測図(2)	31	第68図	16号住居跡実測図	64
第33図	3～7号掘立柱建物跡実測図(3)	33	第69図	27号住居跡実測図	64
第34図	1号土坑実測図	34	第70図	29号住居跡実測図	65
第35図	1号住居跡遺物実測図	35	第71図	30号住居跡実測図	66
平成14年度調査					
第36図	平成14年度調査区全体図	38	第72図	8・9号掘立柱建物跡実測図	67
			第73図	12・16・27・29・30号住居跡出土遺物実測図	68
			第74図	15号住居跡実測図	71
			第75図	5～18号土坑実測図	71
			第76図	19～22号土坑実測図	72

写真図版目次

カラー口絵
遺跡から戸神山を望む
三峰山から遺跡を望む
向田遺跡出土遺物

モノクロ

遺跡遠景	図版 1
調査区域全景（遺構確認段階）	図版 2
調査区域全景（調査終了段階）	図版 2
3号住居跡遺物出土状況全景	図版 3
3号住居跡遺物出土状況部分	図版 3
3号住居跡炉全景	図版 3
3号住居跡全景	図版 3
4号住居跡遺物出土状況全景	図版 4
4号住居跡遺物出土状況部分	図版 4
4号住居跡炉全景	図版 4
4号住居跡全景	図版 4
5号住居跡遺物出土状況全景	図版 5
5号住居跡遺物出土状況部分	図版 5
5号住居跡炉全景	図版 5
5号住居跡全景	図版 5
6号住居跡遺物出土状況全景	図版 6
6号住居跡遺物出土状況部分	図版 6
6号住居跡全景	図版 6
6号住居跡覆土埋没状況	図版 6
7号住居跡全景	図版 6
8号住居跡遺物出土状況全景	図版 7
8号住居跡遺物出土状況部分	図版 7
8号住居跡貯蔵穴全景	図版 7
8号住居跡炉全景	図版 7
8号住居跡全景	図版 7
9号住居跡遺物出土状況全景	図版 8
9号住居跡遺物出土状況部分	図版 8
10号住居跡遺物出土状況全景	図版 8
10号住居跡全景	図版 8
1～4号土坑全景	図版 8
1号住居跡遺物出土状況全景	図版 9
1号住居跡カマド遺物出土状況	図版 9
1号住居跡全景	図版 9
2号住居跡遺物出土状況全景	図版 9
2号住居跡カマド全景	図版 9
2号住居跡全景	図版10
1号掘立柱建物跡全景	図版10
2号掘立柱建物跡全景	図版11
3～7号掘立柱建物跡全景	図版11
縄文・弥生遺構外出土遺物	図版12
3号住居跡出土遺物	図版13
4号住居跡出土遺物	図版14
5・6号住居跡出土遺物	図版15
6～8号住居跡出土遺物	図版16
8～10号住居跡・古墳時代遺構外出土遺物	図版17
1号住居跡出土遺物	図版18
遺跡全景（薄根中学校全景）	図版19
調査区域全景1（調査終了段階）	図版19
調査区域全景2・3（調査終了段階）	図版20
24号住居跡遺物出土状況全景	図版21
24号住居跡遺物出土状況部分	図版21
11号住居跡遺物出土状況全景	図版21
11号住居跡掘方全景	図版21
11号住居跡全景	図版21
13号住居跡遺物出土状況全景	図版22
13号住居跡遺物出土状況部分	図版22
13号住居跡炉全景	図版22
13号住居跡掘方全景	図版22

13号住居跡全景	図版22
14号住居跡1号炉全景	図版23
14号住居跡2号炉全景	図版23
14号住居跡3号炉全景	図版23
14号住居跡掘方全景	図版23
14号住居跡全景	図版23
17号住居跡全景	図版24
17号住居跡遺物出土状況近景	図版24
18号住居跡覆土埋没状況	図版24
18号住居跡遺物出土状況近景	図版24
18号住居跡炉近景	図版24
18号住居跡貯蔵穴全景	図版24
18号住居跡遺物出土状況近景	図版24
18号住居跡掘方全景	図版24
18号住居跡全景	図版25
19号住居跡覆土埋没状況	図版25
19号住居跡貯蔵穴全景	図版25
19号住居跡炉全景	図版25
19号住居跡掘方全景	図版25
19号住居跡全景	図版26
20号住居跡掘方全景	図版26
20号住居跡全景	図版26
21号住居跡全景	図版26
21号住居跡掘方全景	図版26
22号住居跡全景	図版27
22号住居跡掘方全景	図版27
23号住居跡掘方全景（西側）	図版27
23号住居跡掘方全景（東側）	図版27
25号住居跡全景	図版27
25号住居跡掘方全景	図版27
26号住居跡全景	図版27
26号住居跡掘方全景	図版27
28号住居跡全景	図版28
28号住居跡掘方全景	図版28
12号住居跡カマド全景	図版28
12号住居跡掘方全景	図版28
12号住居跡全景	図版28
16号住居跡全景	図版29
16号住居跡掘方全景	図版29
27号住居跡カマド全景	図版29
27号住居跡掘方全景	図版29
27号住居跡全景	図版29
29号住居跡カマド全景	図版30
29号住居跡覆土埋没状況	図版30
29号住居跡全景	図版30
29号住居跡掘方全景	図版30
30号住居跡カマド全景	図版30
30号住居跡遺物出土状況近景	図版30
30号住居跡全景	図版30
15号住居跡全景	図版30
8号掘立柱建物跡全景	図版31
9号掘立柱建物跡全景	図版31
5～10号土坑全景	図版32
11～16号土坑全景	図版33
17～22号土坑全景	図版34
24号住居跡・9号土坑・縄文・弥生遺構外出土遺物	図版35
縄文・弥生遺構外・11号住居跡出土遺物	図版36
11・13号住居跡出土遺物	図版37
13・14・17号住居跡出土遺物	図版38
18～21号住居跡出土遺物	図版39
25・26・28号住居跡・古墳時代遺構外出土遺物	図版40
12・16・27・29号住居跡出土遺物	図版41
29・30号住居跡出土遺物	図版42

表 目 次

表1 遺物観察表1 / 縄文・弥生時代（平成4年度調査）	36
表2 遺物観察表2 / 古墳時代（平成4年度調査）	36
表3 遺物観察表3 / 古墳時代（平成4年度調査）	37
表4 遺物観察表4 / 奈良・平安時代（平成4年度調査）	37
表5 遺物観察表5 / 縄文・弥生時代（平成14年度調査）	72
表6 遺物観察表6 / 古墳時代（平成14年度調査）	73
表7 遺物観察表7 / 奈良・平安時代（平成14年度調査）	74
表8 住居跡一覧表 / 1～30号住居跡（弥生～平安時代）	74

I 調査に至る経緯と遺跡の環境

1 調査に至る経緯

四釜川左岸の河岸段丘上段に位置する沼田市立薄根中学校は、校舎の老朽化により平成4年度に校舎新築工事が始まることとなった。この中学校は、校庭が他校と比較して非常に狭いことから、学校の北側に新校舎(普通教室棟)が建設される運びとなった。しかしながら、この地域一帯は市内においても遺跡の集中している地域であり、畑地となっている北側一帯は、周知の埋蔵文化財包蔵地となっていた。このことから新たに学校用地となった部分について遺跡の性格や範囲等を確認するため、10月12日から14日にかけて試掘調査を実施した。その結果、古墳時代から平安時代と考えられる複数の竪穴住居跡の存在が確認され、この地が集落遺跡であることが把握された。試掘調査結果を基に、当地の埋蔵文化財の取扱いについて、校舎建設事務担当の教育委員会庶務課と協議を重ねた結果、新校舎建設位置については変更できないとの結論に達し、校舎建設に先立ちその部分については発掘調査を実施して記録保存をすることで合意がなされ、10月19日から発掘調査が開始された。

普通教室棟建設後、平成13年に新たにこの建物の北側に屋内運動場等の建設計画が持ち上がった。すでに平成4年に実施した試掘調査及び普通教室棟部分の発掘調査の結果から、集落遺跡の範囲が当地に及んでいることはほぼ間違い無いため、その取扱いについて建設事務担当の教育委員会庶務課と協議を重ねた結果、屋内運動場建設位置については変更不可能との結論に達し、建設工事に先立ちその周辺部分についても発掘調査を実施して記録保存をすることで合意がなされた。この調査は県の緊急地域雇用創設事業として実施することから、有限会社山武考古学研究所に調査の大部分が委託され、当市教

育委員会の立合いのもと、平成14年8月6日から発掘調査が開始された。

2 遺跡の位置と地理的環境

向田遺跡は、沼田市中心部を関越自動車道が横断する南側に所在する。この地は、沼田市北西の山間部から南流する四釜川左岸の最上位段丘面端部の標高402m前後に位置し、川からは水平距離で約200m、比高差は50m弱を測る。当地は東から南側にかけては四釜川の支流である小沢川により隣の段丘と分断されていることから、この遺跡は両河川に挟まれ三角形に張り出した最上段丘部にあるとすることができる。

3 歴史的環境

本遺跡の所在する沼田市中心部の利根川とその支流である四釜川や薄根川に区画された地域において、人類の生活の痕跡が認められるようになるのは、旧石器時代後期になってからである。第1図の範囲においては戸神諏訪遺跡群(14)と、当市に隣接した月夜野町後田遺跡(5)の発掘調査において石器が出土している。後者からは、約2万5000年前の中部ローム上層からナイフ形石器等と多量の剥片が約4500点も確認され、この段階の代表的な遺跡となっている。前者の高速道部分西端からは剥片や石刃が確認されているもの10点にも満たず、碎片類も全く出土していない。

旧石器時代の寒冷期が終息して温暖化が進行し、土器や弓矢が発明・使用されるに至った縄文時代(約1万2000年前)を迎えると、密度は依然低いものの徐々に確認される遺跡数が増えて、前期から中期にかけて一つのピークがみられる。草創期・早期においてはまだ資料が限られるものの石墨遺跡(12)やそれと対岸するの戸神諏訪遺跡群から、黒曜石製の槍や早期の撚糸文・押



第1図 向田遺跡の位置と周辺の主な遺跡

- | | | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|------------|------------|
| 1 向田遺跡 | 2 諏訪平遺跡 | 3 薄根2号古墳 | 4 稲荷遺跡 | 5 後田遺跡 | 6 金山古墳群 |
| 7 大釜遺跡 | 8 大釜漏1号古墳 | 9 町田十二原遺跡 | 10 町田小沢遺跡 | 11 町田小沢Ⅱ遺跡 | 12 石墨遺跡 |
| 13 戸神吉田遺跡 | 14 戸神諏訪遺跡群 | 15 岡谷毛勝遺跡 | 16 岡谷十二遺跡 | 17 岡谷西原遺跡 | 18 町田手古又遺跡 |
| 19 下原Ⅰ遺跡 | 20 沼須地区遺跡群 | 21 下川田平井遺跡 | 22 滝遺跡 | 23 宮塚遺跡 | 24 背戸田Ⅱ遺跡 |
| 25 沼田城跡 | 26 沼須城跡 | 27 幕岩城 | 28 小沢城跡 | 29 道坂城跡 | 30 荘田城跡 |

型文系土器片や打製石器等が出土している。前期になると確認される遺跡数が多くなり本遺跡周辺では石墨遺跡・戸神諏訪遺跡群・岡谷十二遺跡(16)、利根川右岸では宮塚遺跡(23)・背戸田Ⅱ遺跡(24)・滝遺跡(22)から竪穴住居跡が検出され、定住生活の一端を知ることが可能である。中期では町田手古又乙遺跡(18)・岡谷西原遺跡(17)から多量の土器や石器が出土しており、前者からは、中央に石囲い炉を有する竪穴住居から構成された集落の一部が発掘されている。再び寒冷期が訪れ始めたと言われる後期になると、一般的に遺跡数が減少したとされており、この付近でも戸神諏訪遺跡群などから土器や石器がまばらに発見されるに過ぎない。さらに晩期には遺跡数が激減する傾向がみられ、周辺地では土器等もほとんどみられない。生業において狩猟・採取が主体を占めていた縄文時代においては、獣類を捕獲するための所謂「陥穴」が早期から前期の頃に使用され、石墨・戸神諏訪・岡谷十二・下原Ⅰ等(19)の各遺跡でその穴が確認されている。

水稻耕作が生業の主体となる弥生時代を迎えても、この周辺においては縄文時代終末からの停滞傾向は強く、ようやく再び遺跡が確認されるようになるのは中期になってからで、後期後半期に爆発的に遺跡数が増える傾向が認められる。第1図内では中期の遺跡はいまだ知られていないが、後期後半になると石墨遺跡・戸神諏訪遺跡群・戸神吉田遺跡(13)・町田小沢遺跡(10)・同Ⅱ遺跡(11)において集落跡が検出されている他、円形周溝墓や墓坑などの埋葬施設が発見されている。

古墳時代になると弥生後期の遺跡数よりやや減少傾向がみられるが、前時代に集落のあった石墨遺跡・戸神諏訪遺跡群の一部において引き続き前期の集落が認められている。しかし、本報告の向田遺跡(1)のように古墳時代前期になって本格的に集落が営まれる遺跡も存在している。

中期の遺跡は現段階ではほとんど確認されていないが、後期になると石墨遺跡・岡谷十二遺跡・稲荷遺跡・後田遺跡で集落が発掘調査されている。古墳は、前期の方形周溝墓が戸神諏訪遺跡群で発見されているのみであるが、集落と同様に後期後半以降になるとこの地域にも古墳が多く造営されるようになる。埴輪が樹立された古墳は、月夜野町金山古墳群(6)の一部等と比較的少なく、古墳の造営がピークを迎えるのは7世紀になってからである。大釜漏1号古墳(8)など一部を除き、他の周辺地で発掘調査された古墳から判断すると、この地域の古墳は多くが横穴式石室を埋葬主体部とする終末期の小円墳から成る群集墳の様相がみられる。

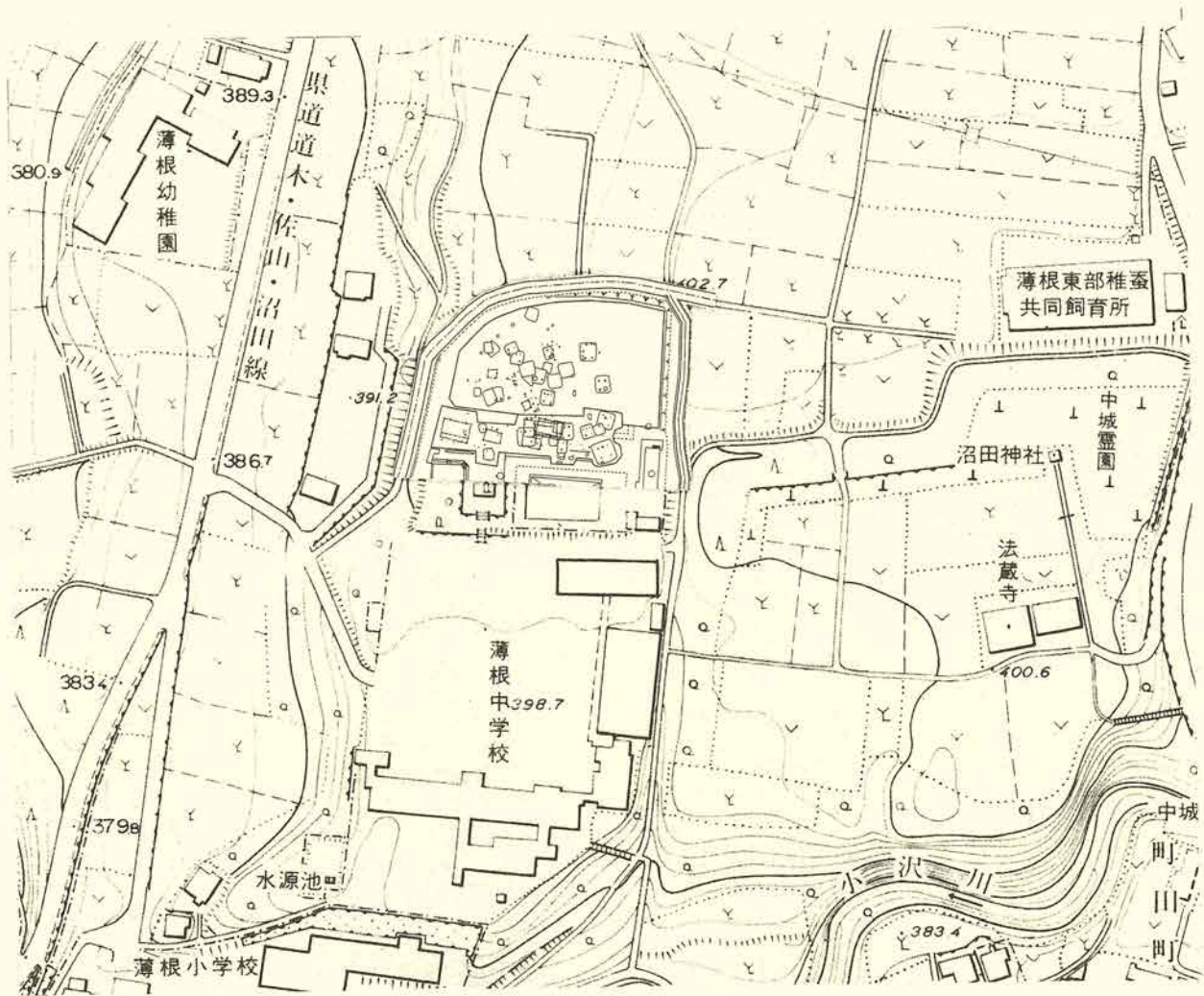
律令制が布かれた奈良・平安時代を迎えると集落が拡大・拡張し、この向田遺跡を始め町田十二原・町田小沢(9)・町田上原・石墨・戸神諏訪・大釜(7)等多数の遺跡で集落跡が調査されている。特に戸神諏訪遺跡群からは、2重の溝で区画された方1町(約109m)弱の寺域を有する村落内寺院(郷寺)跡が確認され、「宮田寺」「造佛」などの墨書土器や仏堂画が線刻された石製紡錘車や寺院関連資料が多く出土し、当地方への仏教の波及について貴重な発見となっている。

武士が政権を掌握するようになった中世では、当地域で大きな勢力を占めていた沼田氏が城館として築いた莊田城(30)・小沢城(28)・幕岩城(27)・沼田城(25)の他、関口氏の築いた道坂城(29)などの城跡が知られている。沼田城は近世を迎える頃、沼田藩主真田氏の居城として大規模に改修が行われ天守を有する近世的な城へと生まれ変わったのである。

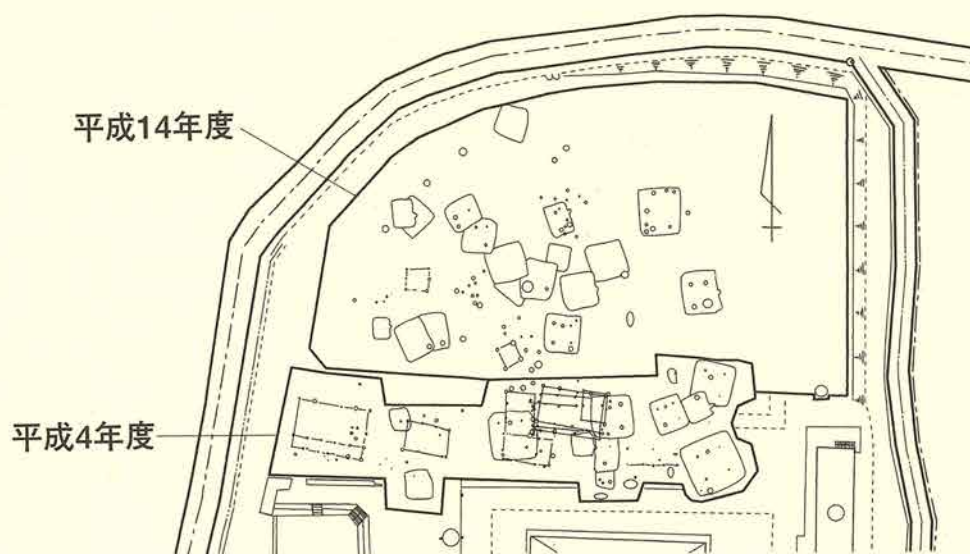
Ⅱ 調査の方法と遺跡の概要

1 調査の方法

平成4年度については、試掘調査によって竪穴住居の存在が確認できたため、工事により遺



第2図 遺跡と周辺の地形図



第3図 調査範囲

跡の破壊が予想される普通教室棟新築予定地を主として調査範囲を設定した。遺構確認面まではバックホウにより表土等を除去し、確認された竪穴住居等は十文字にセクションベルトを設定し、出土遺物を遺しながら覆土を掘り下げて調査を進行した。

図面作成は、平面図については平板測量で作図し、断面図も合わせ1/20を基本として行った。ベンチマークのみ測量会社に外注して設定したが、公共座標との確定は実施できなかった。

写真記録については、調査の進捗状況に合せて35mmモノクロ及びカラーリバーサルフィルムを使用し記録撮影を行った。

平成14年度調査は、調査対象面積がやや広く廃土も調査区内で処理しなければならないことや、学校のテニスコートとして使用していることを考慮して屋内運動場建設の主体となる中央部の発掘調査終了後に東西部分の調査を実施した。バックホウにより遺構確認面で掘下げ、遺構確認後は前回と同様に遺構を掘下げ調査を進行した。

測量についてはベンチマークの設定及び方眼杭打ち・GPSによる世界測地系の座標確定測量を外注により実施した。

写真記録については、調査の進捗状況に合せて35mmモノクロ及びカラーリバーサルフィルムを使用し、外注によりラジコンヘリの空撮記録も実施した。

2 遺跡の概要

本遺跡の発掘調査では縄文時代から平安時代または中世にかけての遺構・遺物が検出された。南側の平成4年度調査区からは、縄文時代の土坑3基、弥生時代の土坑1基、古墳時代前期の竪穴住居跡8軒、奈良時代の竪穴住居跡2軒の他、奈良時代以降の掘立柱建物跡7棟と土坑1基及び柵列?等が調査された。また、北側の平成14年度調査区からは弥生時代後期の竪穴住居

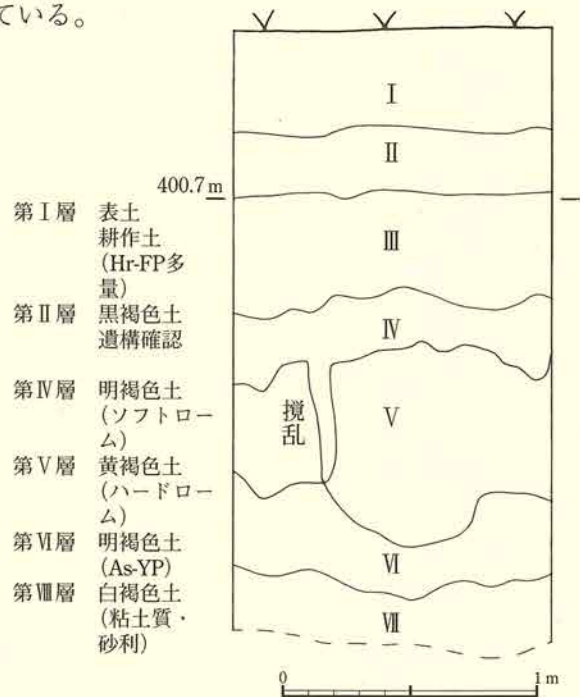
跡1軒、土坑1基、古墳時代前期の竪穴住居跡12軒、奈良時代・平安時代の竪穴住居跡が5軒、掘立柱建物跡2棟と時期不明の竪穴住居跡1軒、土坑17基と小ピット多数が調査された。総合的にみると古墳時代前期の住居が20軒と最も多く、続いて奈良・平安時代の住居が7軒、弥生時代後期の住居が1軒となる。集落遺跡としては古墳時代前期にピークを迎え、その後数世紀の断絶を経て奈良時代に至り再び集落が構成されたことが認められる。

掘立柱建物については、この集落構成の一部とすることもできるが、南東に隣接して中世に沼田氏が築いた小沢城跡(1405年から1519年)が存在していることから、それとの関連性も考慮する必要がある。

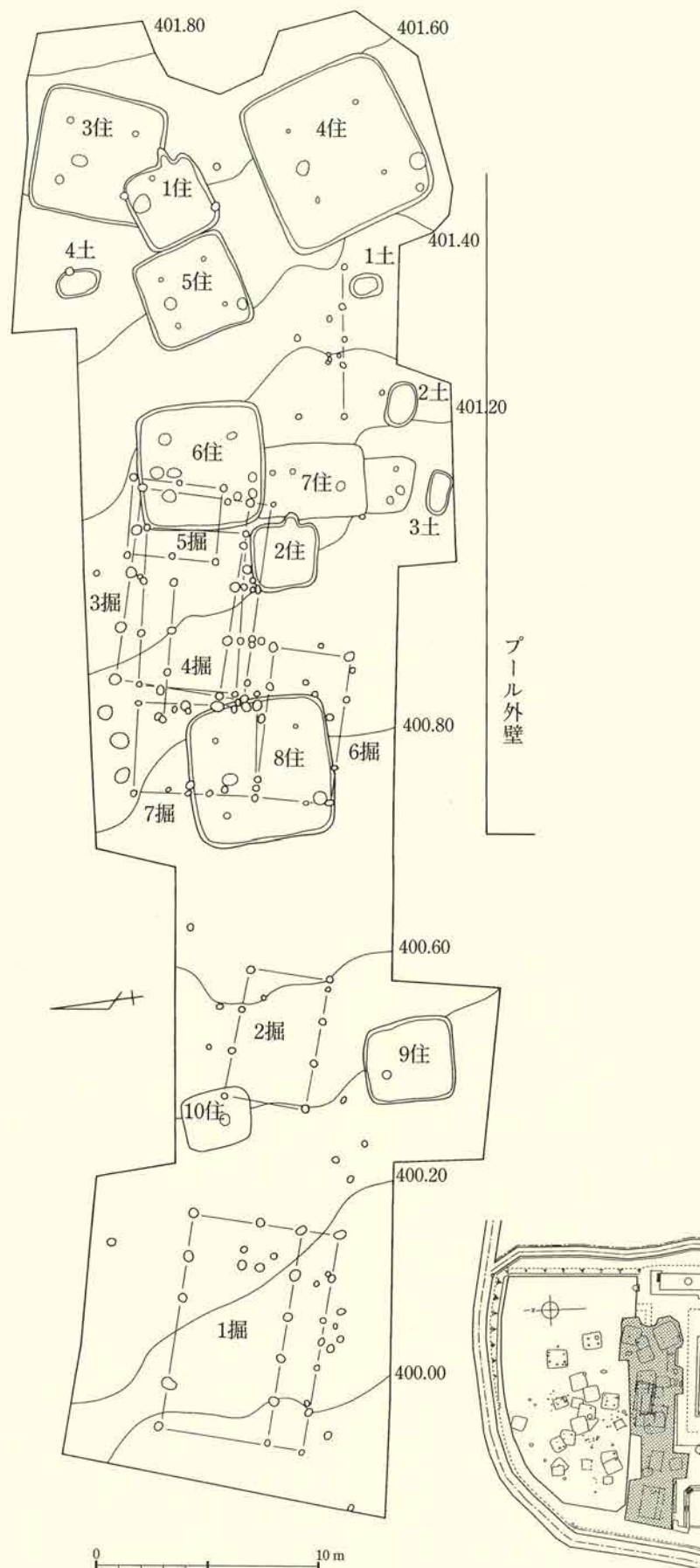
3 基本層序

表土から良好な層序の確認できた平成4年度調査区を基本層序として示した。

本地域では、6世紀中頃噴出したとされる榛名山二ツ岳軽石(Hr-FP)の堆積が認められるが、降下の中心からやや外れ堆積層が薄いため平地では後世の攪乱を受け、黒墨土に混入している。



第4図 基本土層図



第5図 平成4年度調査区全体図

Ⅲ 平成4年度の調査

1 縄文・弥生時代

縄文時代に該当する遺構は土坑3基であるが、縄文土器を出土したのは3号土坑のみであるため、他は覆土の状況等から判断したが、古墳時代前期までの幅を考える必要がある。

2号土坑（第6図 写図8）

位置 調査区南東側で、西側に3号土坑が存在する。

重複 無し。

形状 楕円形

規模 105×66cm 深さ11cm。

遺物 無し。

3号土坑（第6・7図 写図8・12）

位置 調査区南東側で、西側に2号土坑が存在する。

重複 無し。

形状 長楕円形

規模 100×48cm 深さ13cm。

遺物 尖底土器の破片出土。

4号土坑（第6図 写図8）

位置 調査区南東側に位置する。

重複 無し。

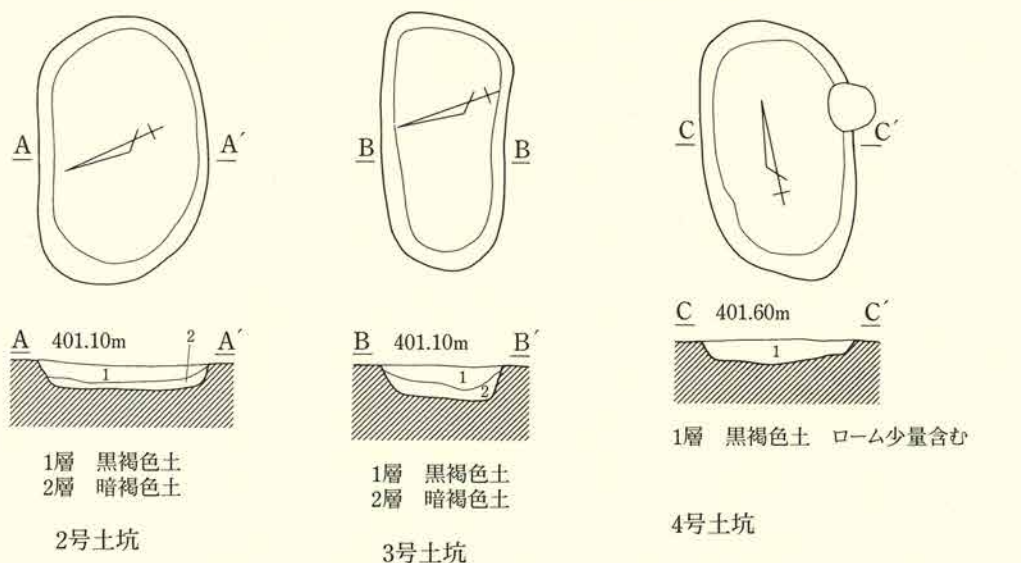
形状 楕円形

規模 104×59cm 深さ10cm。

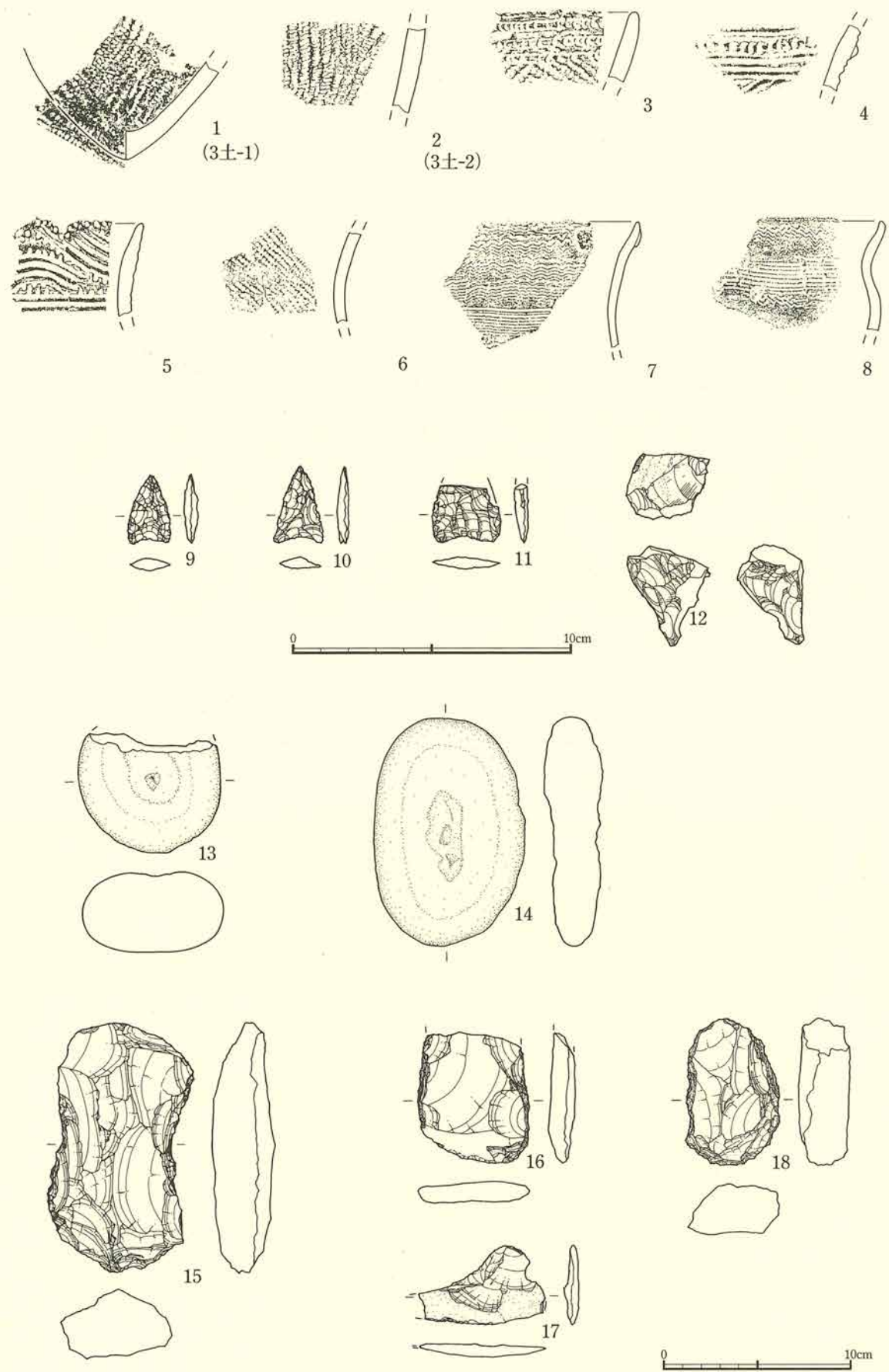
遺物 無し。

出土遺物のうち3号土坑に伴う資料は第7図1・2で同一個体である。胎土に繊維を含む尖底土器の破片で、多条の単節縄文を斜位に施文する。3～5は半截竹管文を施文し、3には胎土に繊維を含む。いずれも縄文時代前期の土器であろう。7・8は櫛描波状文・簾状文が施文された弥生時代後期の樽式土器である。6は単節縄文が施されるが、焼成・器厚等から同時期の赤井戸系土器と判断される。

9～18は縄文時代の石器と判断した。9～11は浅い凹基の石鏃で12は黒曜石の石核石器。13・14は凹石で15・16は打製石斧。18は石匙、17は搔器か。



第6図 2～4号土坑実測図



第7図 3号土坑、縄文・弥生時代遺構外出土遺物実測図

2 古墳時代

3号住居跡（第8・18図 写真3・13）

位置 調査区東端で、同時代の4・5号住居が南側に近接する。

重複 奈良時代の1号住居と重複。

規模 5.78×5.73m

形状 方形

方位 N-19° - E

床面 面積27.77m²。確認面からの深さ37cm。周辺部以外は平坦で硬質。明確な貼床は認められない。

柱穴 主柱穴は4本。径30~40cmで床面からの深さ70cm前後。

周溝 深さ8cm前後で全周する。

炉 中央やや北寄りに位置し、平面楕円形で皿状の地床炉

その他 南辺西側の壁際に平面楕円形の貯蔵穴

遺物 覆土中に土師器の小破片が多い。小型の石皿が出土。

4号住居跡（第9・10・19図 写真4・14）

位置 調査区東端で、同時代の3・5号住居が北側に近接する。

重複 なし

形状 隅丸方形

規模 7.28×7.32m

床面 面積48.82m²。確認面からの深さ66cm。周辺部以外は平坦で硬質。明確な貼床は認められない。

柱穴 主柱穴4本。径25~18cmで床面からの深さ65cm前後。

周溝 深さ8cm前後で全周する。

炉 北側主柱穴間にあり、平面不整楕円形の地床炉で南側縁側に枕石1石を有する。

その他 南辺西側の壁際に平面楕円形の貯蔵穴。南壁際中央に出入り口施設に伴うピット。

遺物 覆土中と床面上にまばらに出土。土師器埴・器台・S字甕や土製勾玉が出土。

5号住居跡（第11・20図 写真5・15）

位置 調査区東側で、同時代の3・4・6号住居が近接する。

重複 奈良時代の1号住居と接する。

形状 隅丸方形

規模 4.57×4.29m

方位 N-14° - W

床面 面積17.78m²。確認面からの深さ34cm。周辺部以外は平坦で硬質。

柱穴 主柱穴4本。径26~20cmで床面からの深さ50cm前後。

周溝 北壁から東西壁下にかけて深さ5cm前後で巡る。

炉 北側主柱穴間にあり、平面円形の地床炉。

その他 南辺西側の壁際に平面楕円形の貯蔵穴。

遺物 土師器の小破片が多い。住居北東隅に鉢、北西から大型土製紡錘車が出土。

6号住居跡（第12・21・22図 写真6・15・16）

位置 調査区中央東寄りで、同時代の5号住居と奈良時代の2号住居が近接する。

重複 同時代の7号住居、奈良時代以降の3・4・5号掘立柱建物と重複。

形状 隅丸方形

規模 5.83×5.67m

方位 N-8° - E

床面 面積29.22m²。確認面からの深さ60cm。周辺部以外は平坦で硬質。

柱穴 主柱穴4本。径64~24cmで床面からの深さ70cm前後。炉の北にも柱穴有り。

周溝 北西隅周辺を除き、深さ8cm前後で巡る。

炉 北側主柱穴間よりやや内側にあり、平面楕円形の地床炉。

その他 南辺中央壁付近に出入り口施設に伴う小ピット検出。

遺物 覆土中～上層中に土師器の小破片が多く出土。土師器甕・壺・埴の他、石鍬出土。

7号住居跡(第14図 写図6)

位置 調査区中央東寄りに位置する。

重複 同時代の6号住居、奈良時代の2号住居と重複。

形状 隅丸長方形(拡張部)不整隅丸方形

規模 5.70以上×3.40m(拡張部)2.14×2.45m。

方位 N-5°-E

床面 面積14.40m²。確認面からの深さ20cm。床面は平坦であるがやや軟弱。拡張部は深さ5cm。

柱穴 主柱穴は未確認。

周溝 なし。

炉 床面に焼土は存在したが、掘込みのある明確な地床炉とは異なる。

その他 特になし。

遺物 覆土中に土師器の小破片が僅かに出土。

8号住居跡(第15・23図 写図7・16・17)

位置 調査区中央に位置する。

重複 奈良時代以降の6・7号掘立柱建物と重複。

形状 隅丸方形

規模 6.57×6.32m

方位 ほぼ磁北

床面 面積36.35m²。確認面からの深さ54cm。周辺部以外は平坦で硬質。

柱穴 主柱穴4本。径37～18cmで床面からの深さ60cm前後。

周溝 深さ8cm前後で全周する。

炉 床面に焼土は存在するが、掘込みのある明確な地床炉とは異なる。

その他 南辺西側の壁寄りに径63cm深さ34cmの円形貯蔵穴を検出。

遺物 覆土中に土師器の小破片が少量出土。甕・壺の口縁部片を図示した。

9号住居跡(第16・24図 写図8)

位置 調査区西寄り南端に位置し、北側に同時代の10号住居が存在する。

重複 無し。

形状 不整隅丸方形

規模 4.05×3.71m

方位 N-3°-E

床面 面積12.62m²。確認面からの深さ39cm。平坦であるがやや軟弱。

柱穴 無し。

周溝 無し。

炉 床面に焼土は存在したが、掘込みのある明確な地床炉とは異なる。

その他 無し。

遺物 覆土中及び床上に土師器の小破片が少量出土。壺口縁部片や埴を図示した。

10号住居跡(第17・25図 写図8・17)

位置 調査区西側に位置し、南側に同時代の9号住居が存在する。

重複 奈良時代以降の2号掘立柱建物と重複。

形状 隅丸長方形

規模 3.03×2.55m

方位 ほぼ磁北

床面 面積6.16m²。確認面からの深さ21cm。平坦であるがやや軟弱。

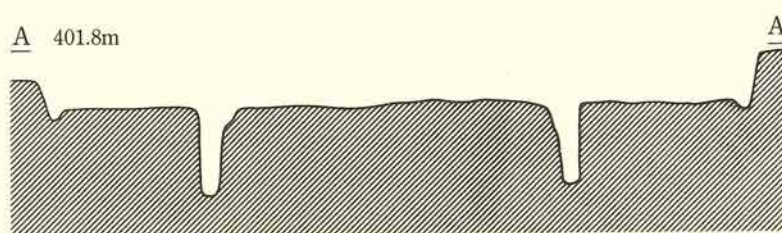
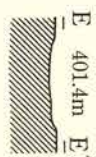
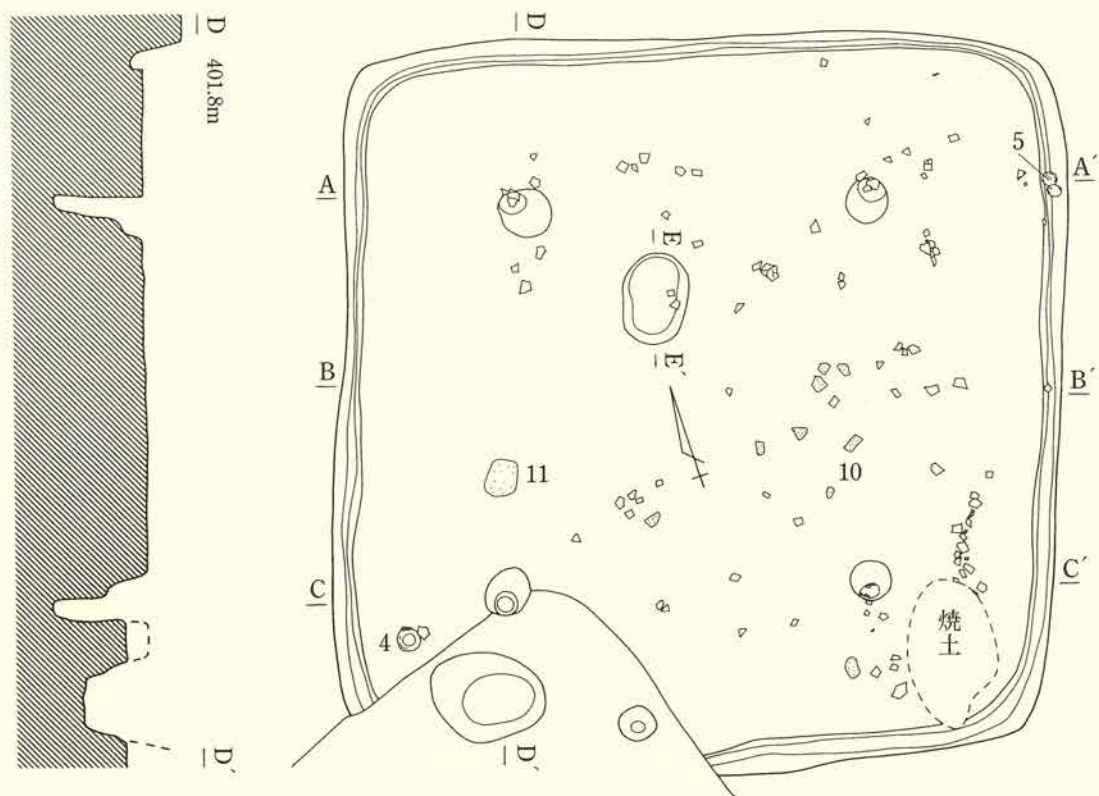
柱穴 無し。

周溝 無し。

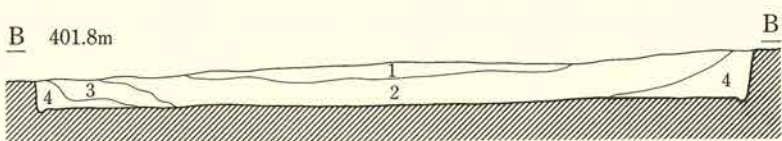
炉 床面に焼土は存在したが、掘込みのある明確な地床炉とは異なる。

その他 無し。

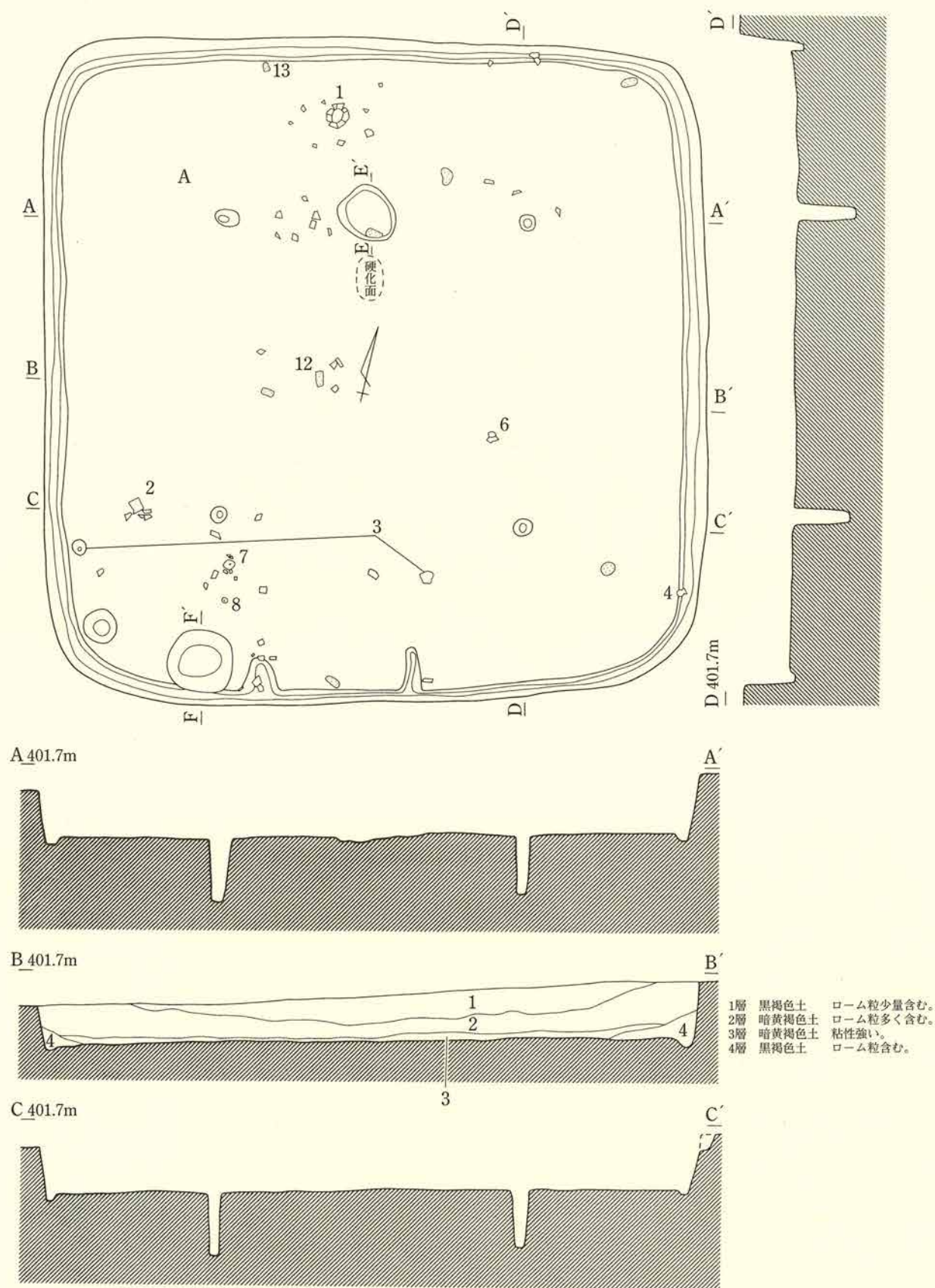
遺物 覆土中及び床上に土師器の小破片が少量出土。埴の口縁部片を図示した。



- 1層 黒褐色土
- 2層 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。
- 3層 黒褐色土
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。

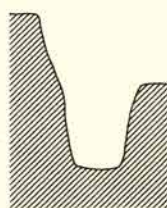


第8図 3号住居跡実測図



第9図 4号住居跡実測図

E 401.00m E'

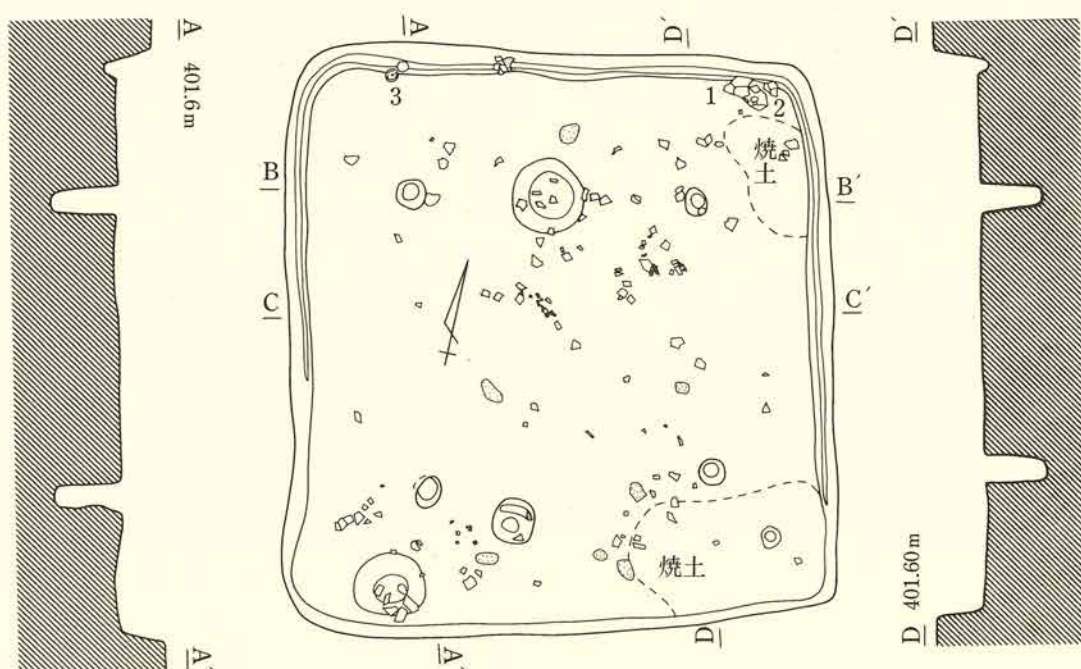


F 401.0m F'

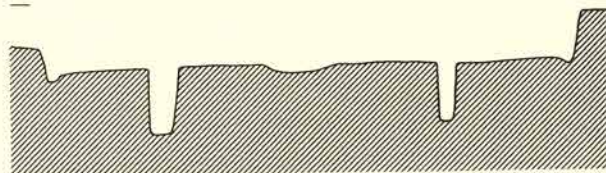


0 1m

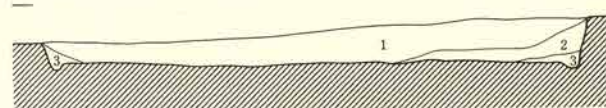
第10図 4号住居跡貯蔵穴・炉実測図



B 401.6m



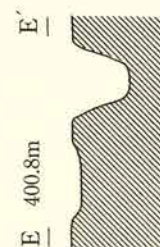
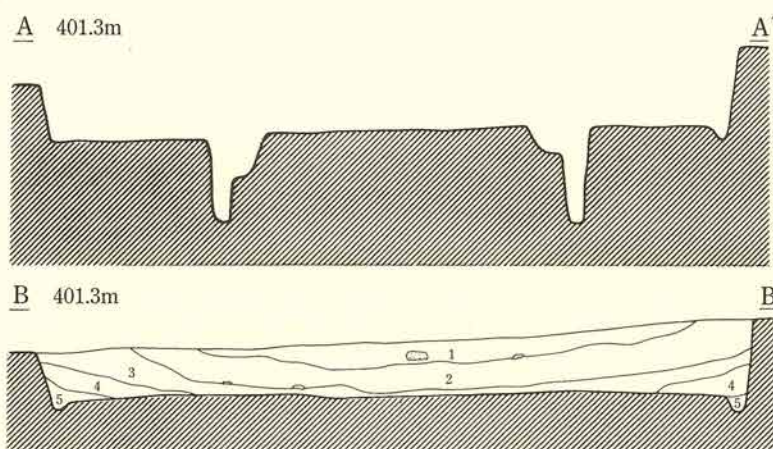
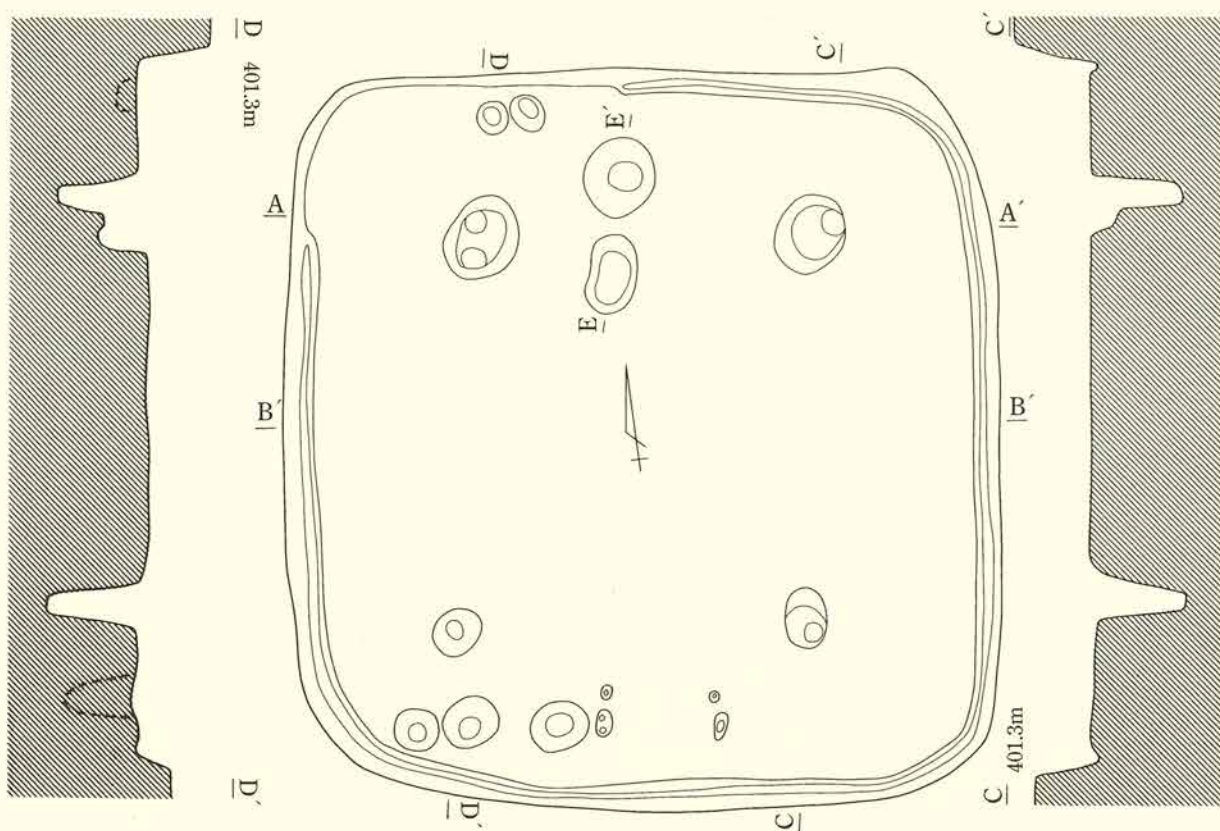
C 401.6m



- | | | |
|----|-------|-----------|
| 1層 | 暗黄褐色土 | ローム多く含む。 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム少量含む。 |
| 3層 | 暗褐色土 | 焼土・ローム含む。 |

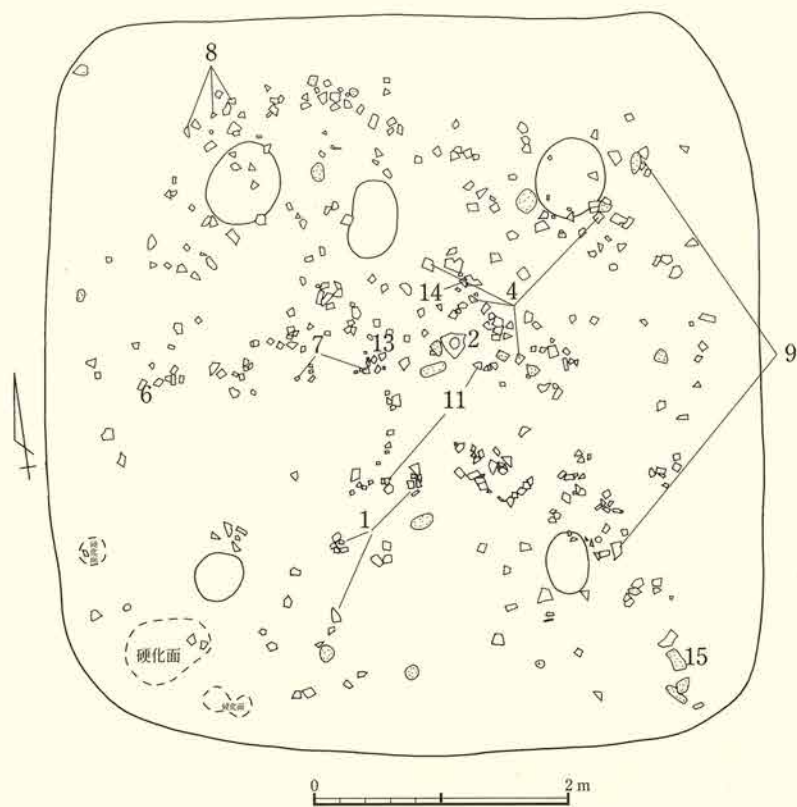
0 2m

第11図 5号住居跡実測図

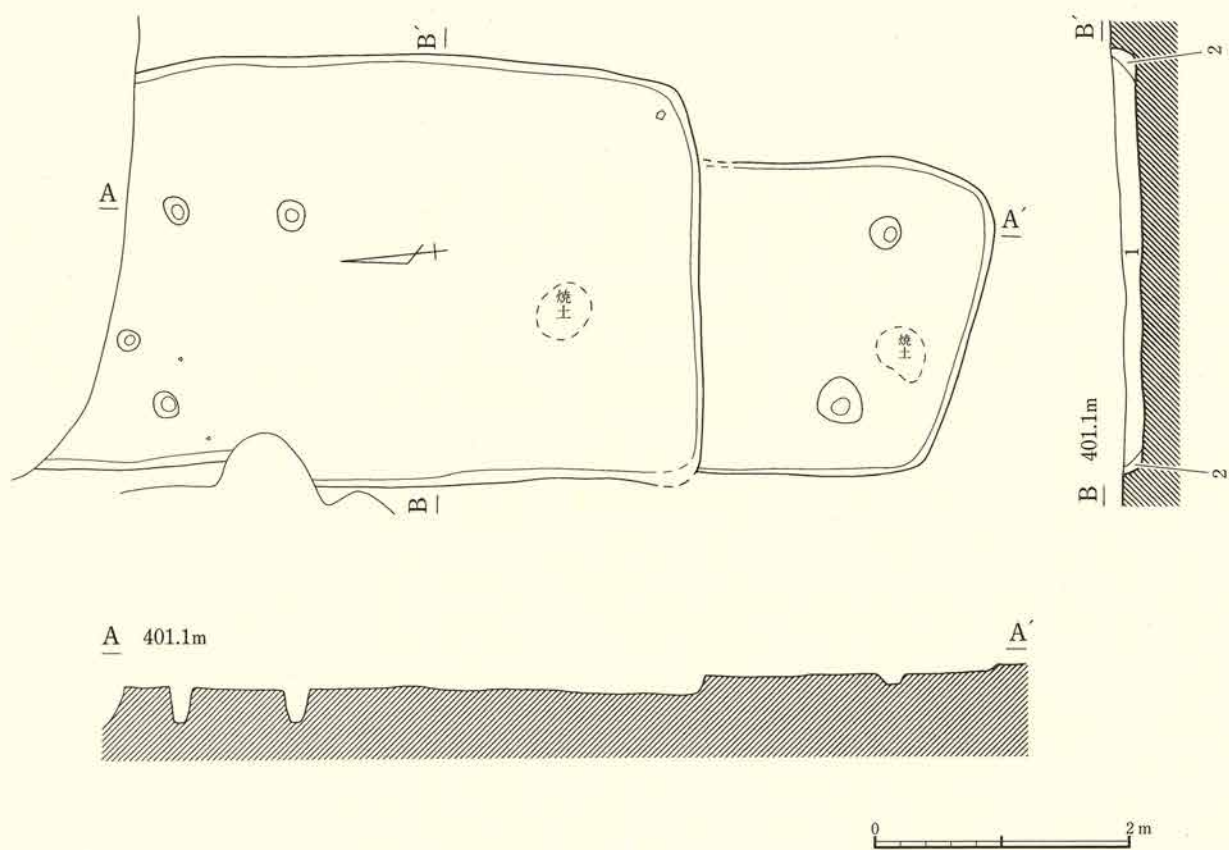


- | | | |
|----|------|--------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム・炭化物少量含む。 |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム多量に含む。 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム少量含む。 |
| 4層 | 黒褐色土 | |
| 5層 | 黄褐色土 | ローム多量に含む。 |

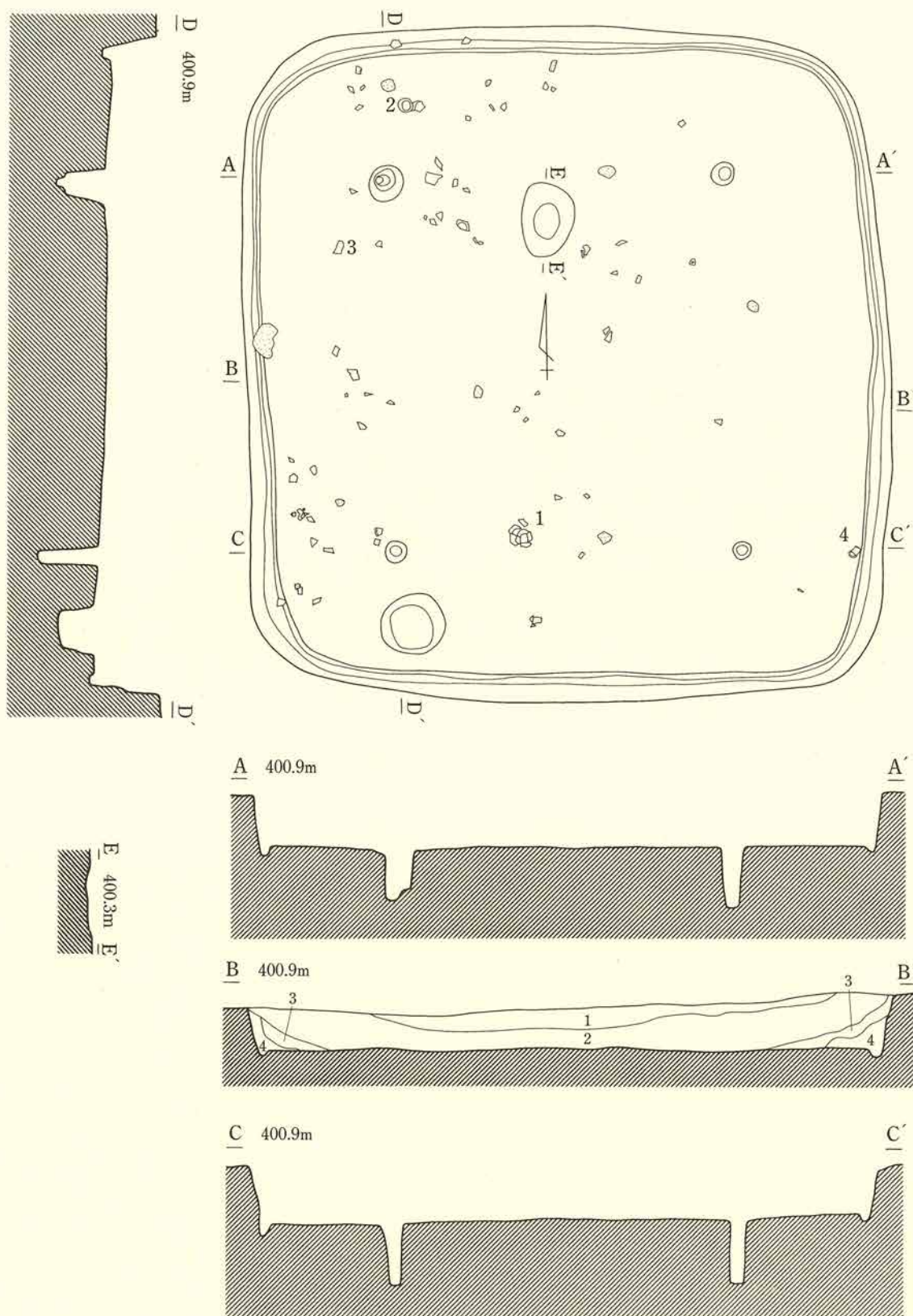
第12図 6号住居跡実測図



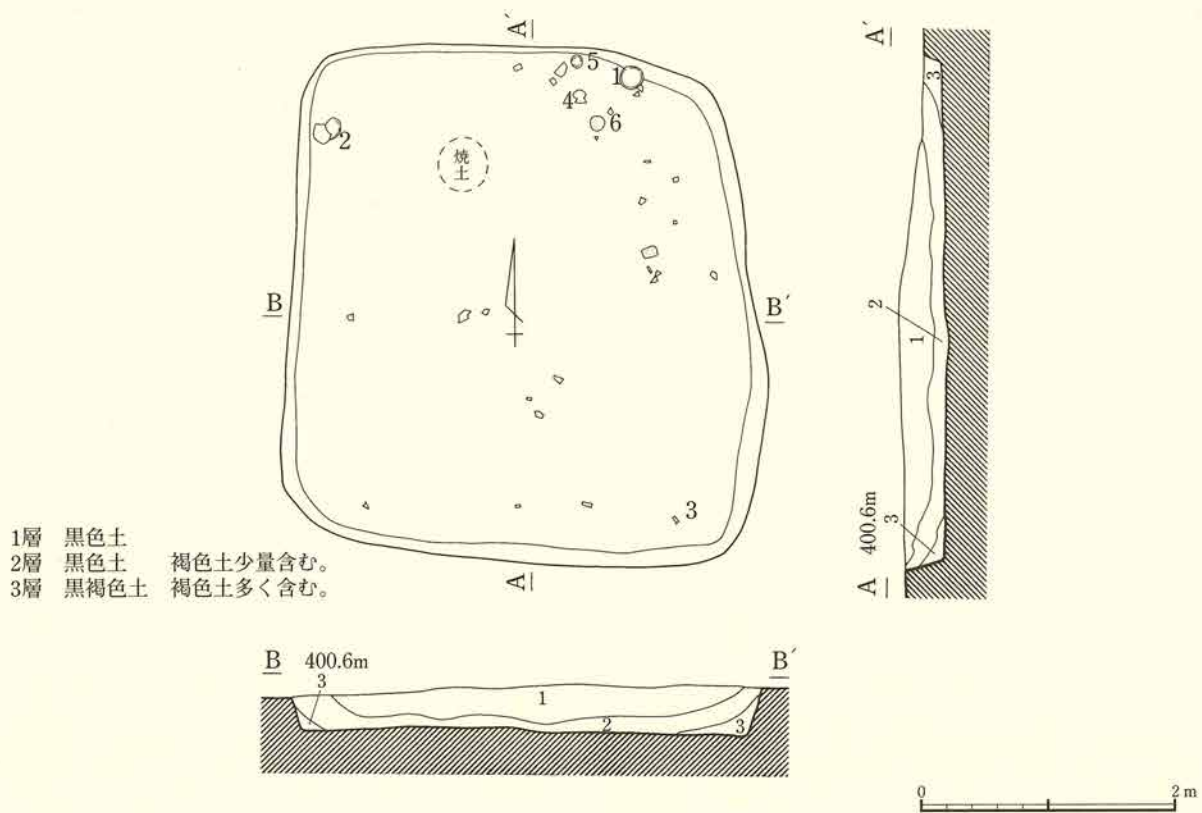
第13图 6号住居跡出土遺物分布図



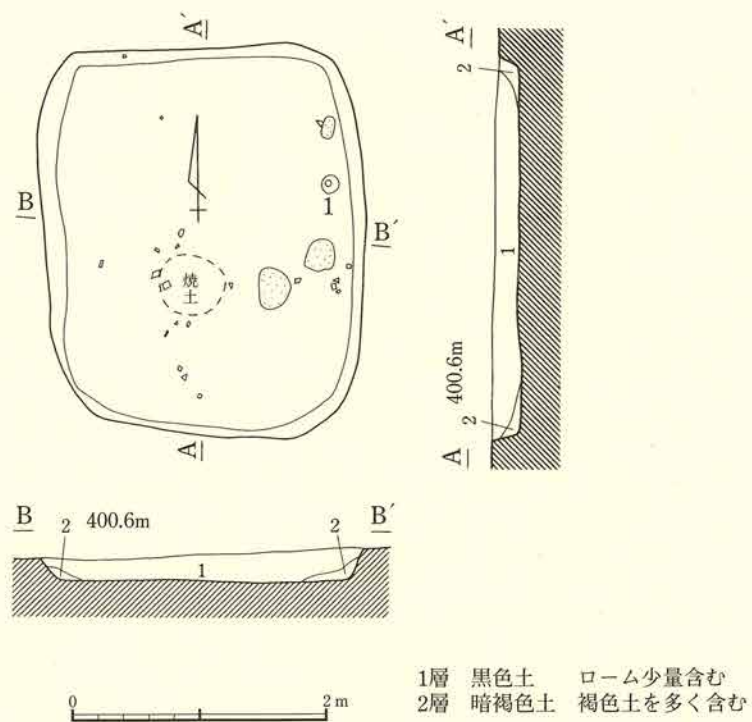
第14图 7号住居跡実測図



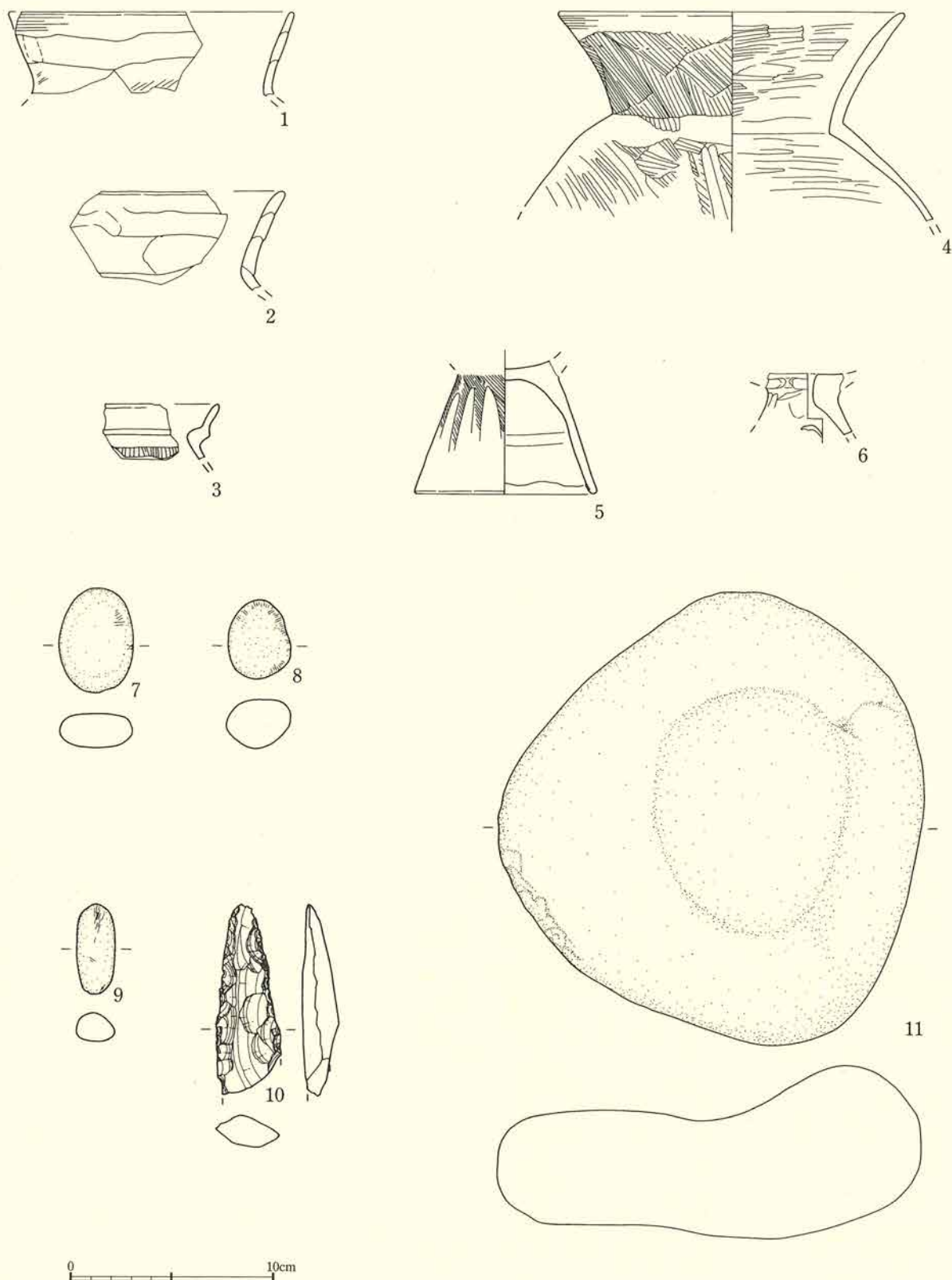
第15図 8号住居跡実測図



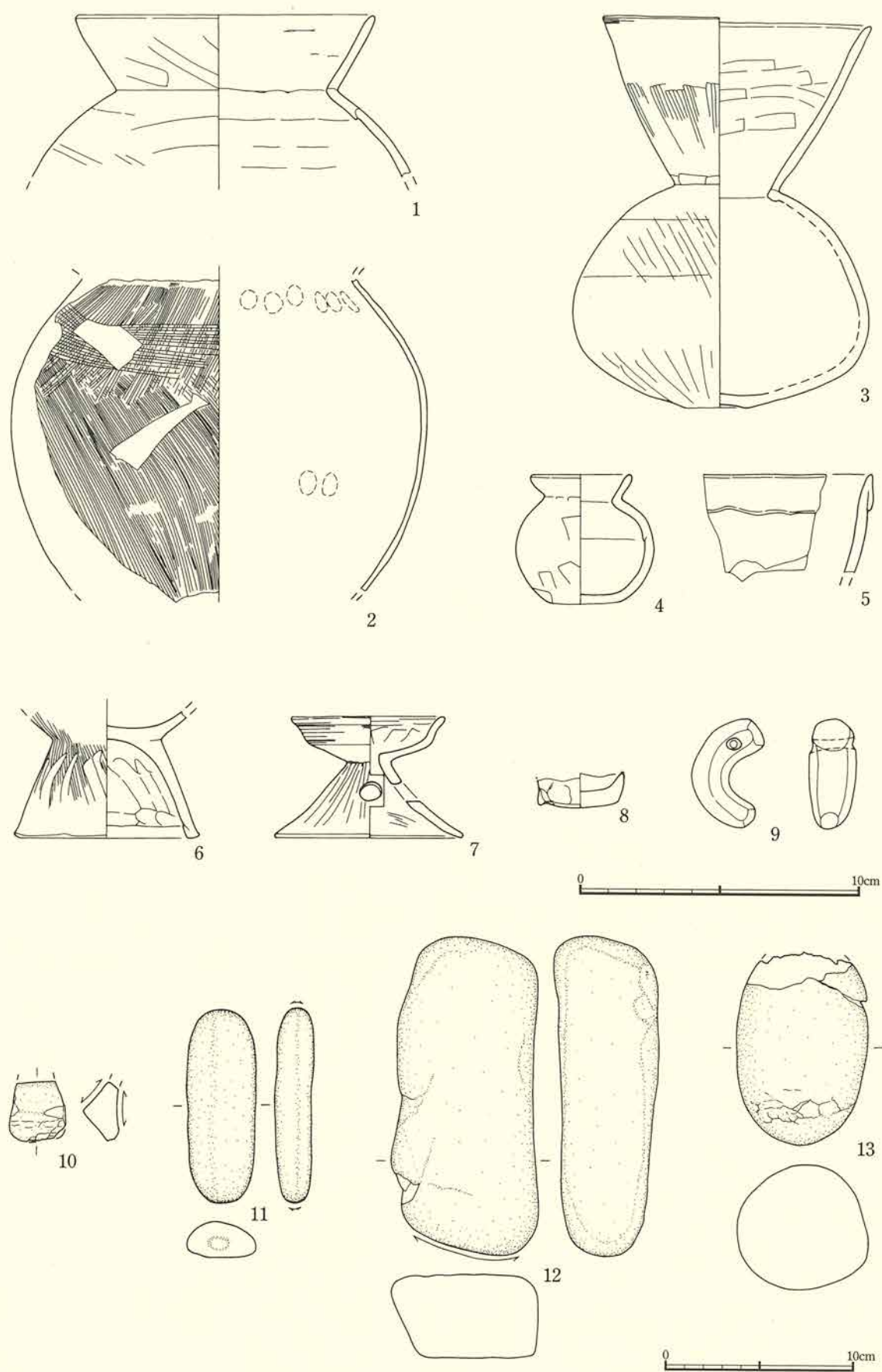
第16図 9号住居跡実測図



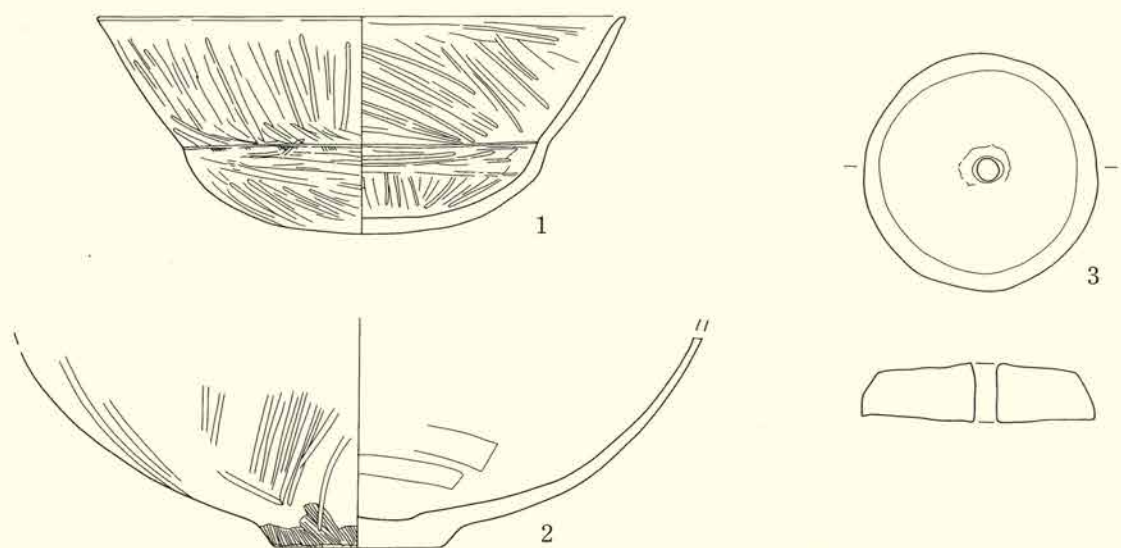
第17図 10号住居跡実測図



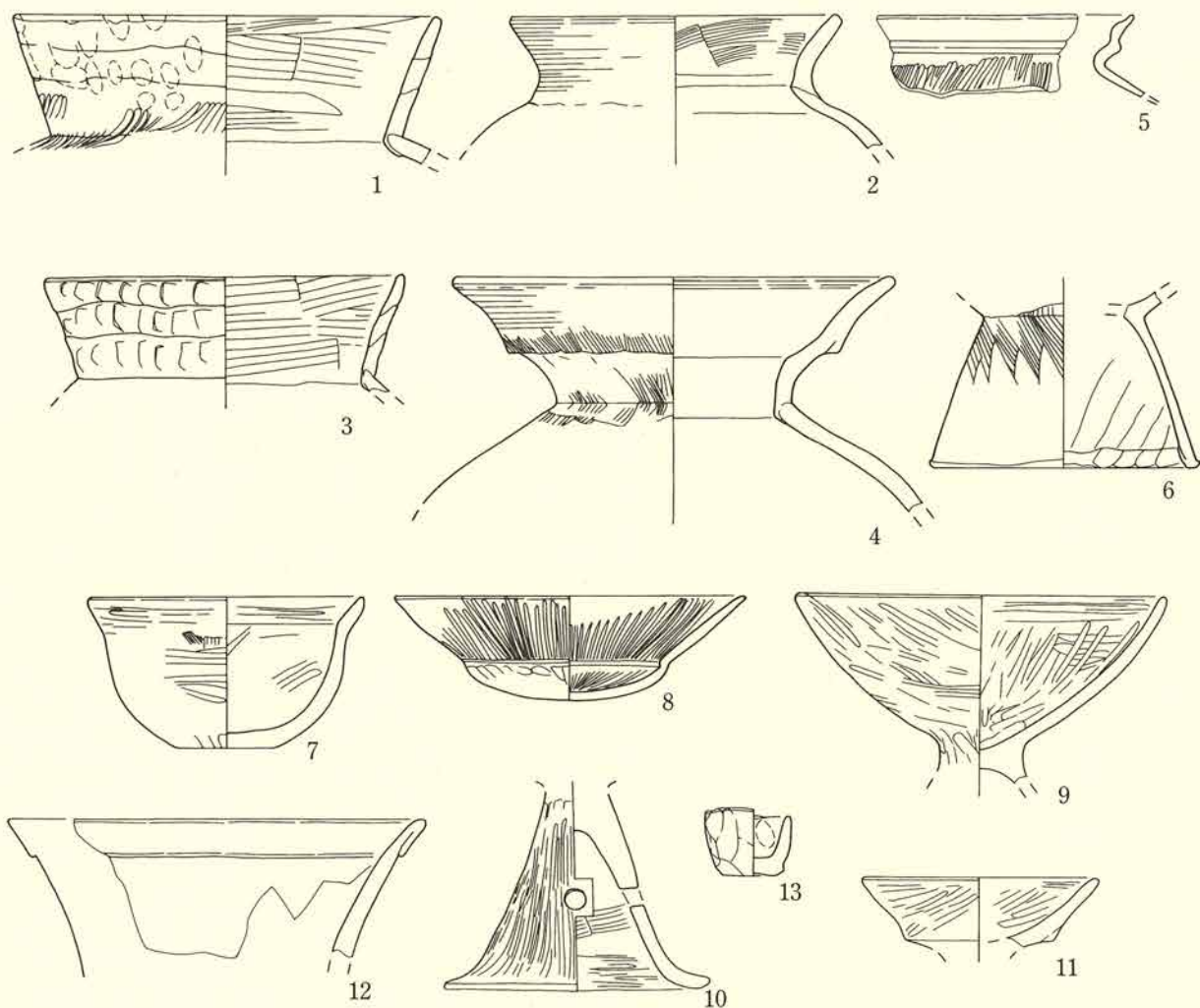
第18図 3号住居跡出土遺物実測図



第19図 4号住居跡出土遺物実測図

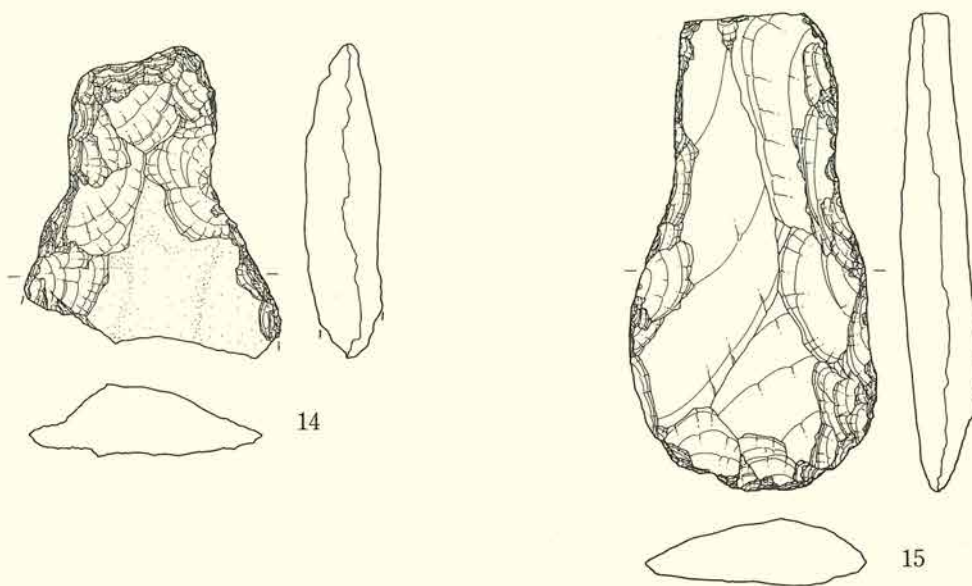


第20図 5号住居跡出土遺物実測図

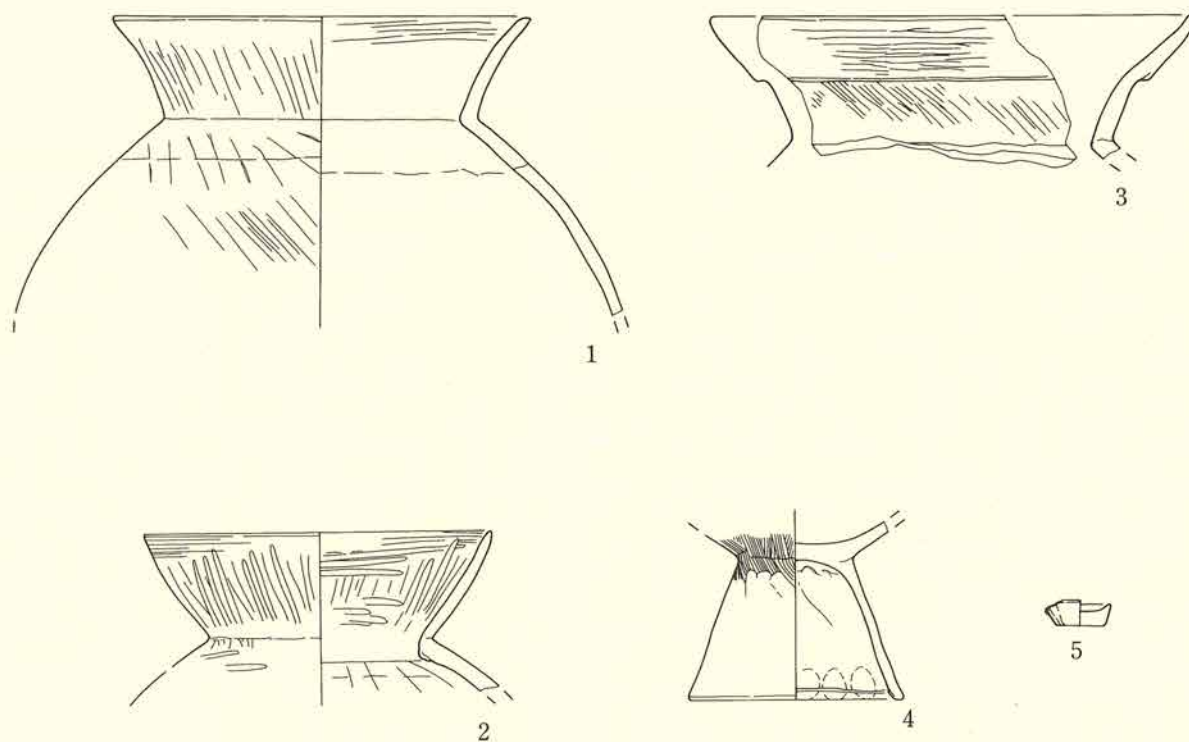


0 10cm

第21図 6号住居跡出土遺物実測図(1)

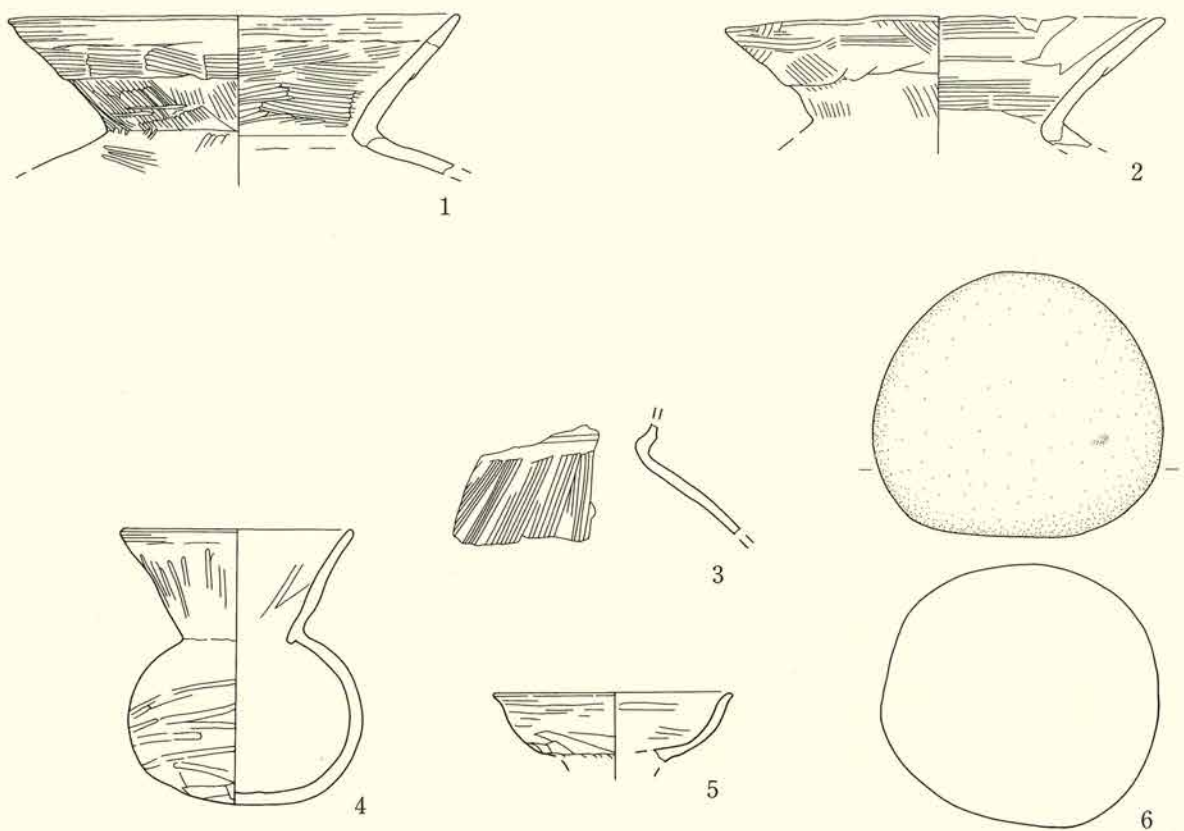


第22図 6号住居跡出土遺物実測図(2)

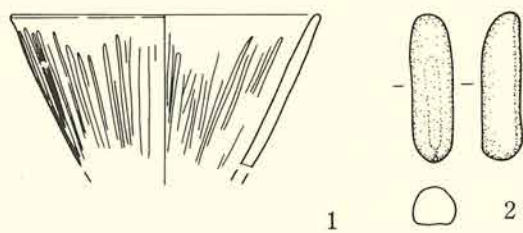


0 10cm

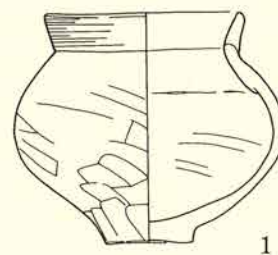
第23図 8号住居跡出土遺物実測図



第24図 9号住居跡出土遺物実測図



第25図 10号住居跡出土遺物実測図



第26図 古墳時代遺構外出土遺物実測図



3 奈良・平安時代以降

1号住居跡(第27・35図 写図9・18)

位置 調査区東側で、同時代の2号住居からは約13m東側である。

重複 古墳時代前期の3号住居と重複し、5号住居と接する。

形状 隅丸方形

規模 3.72×3.57m

方位 N-69° - E

床面 面積10.91m²。確認面からの深さ25cm。比較的硬質で明確な貼床は認められない。

柱穴 なし

周溝 竈付近を除き、深さ5cm前後で巡る。

竈 東壁南寄りに設置され、袖石を左右3石ずつ検出。

遺物 竈の焚口側に土師器甕を3個体差込んだ状態で検出。南側からは土師器碗と須恵器坏と高坏?の脚部が出土。

2号住居跡(第28図 写図9・10)

位置 調査区中央で、同時代の1号住居からは約13m西側である。

重複 古墳時代前期の7号住居と重複

形状 不整隅丸方形

規模 3.03×3.00m

方位 N-115° - E

床面 面積6.98m²。確認面からの深さ34cm。やや軟弱で平坦でない。貼床は認められない。

柱穴 なし

周溝 なし

竈 東壁やや南寄り設置。南側の袖石2石現存。

遺物 壊された竈の袖石の他は僅かに土師器の小破片のみ。

1号掘立柱建物跡(第29図 写図10)

位置 調査区西端に位置し、東側に2号掘立柱建物が存在する。

重複 無し。

形状 長方形

規模 5間(9.70m)×3間(6.70m) 南側底部分含まず。

棟方位 N-107° - E

柱穴 径35~52cmで深さ15~35cm。1穴のみ長径26cmの片扁平な川原石を据える。

その他 南側に底部分と推定される1間分の小柱穴列が存在する。

2号掘立柱建物跡(第30図 写図11)

位置 調査区やや西寄りに位置し、西側に1号、東側に6号掘立柱建物が存在する。

重複 古墳時代前期の10号住居と重複する。

形状 長方形

規模 3間(5.93m)×2間(3.65m)

棟方位 N-112° - E

柱穴 径29~38cmで深さ10~35cm。1穴のみ長径26cmの片扁平な川原石を据える。

その他 北辺中央2穴の北側に付随する小穴2ヶ所が存在する。

3号掘立柱建物跡(第31・32・33図 写図11)

位置 調査区中央部の掘立柱建物跡が集中する場所に位置する。

重複 古墳時代前期の6住と奈良時代の2住及び4・5掘立と重複する。

形状 長方形

規模 4間(8.55m)×2間(4.73m)

棟方位 N-109° - E

甕・壺の口縁部片を図示した。

柱穴 径35~50cmで深さ35~80cm。3穴に長径26~36cmの片扁平な川原石を据える。

その他 南側に底部分と推定される1間分の小

柱穴列が存在する。

4号掘立柱建物跡（第31～33図 写真11）

位置 調査区中央部の掘立柱建物跡が集中する場所に位置する。

重複 3号・5号掘立と重複する。

形状 長方形

規模 3間(7.13m)×2間(4.52m)

棟方位 N-103° - E

柱穴 径23～33cmで深さ18～46cm。

1号土坑（第34図 写真8）

位置 調査区南東側で、西側に2号土坑が存在する。

重複 無し。

形状 楕円形

規模 74×53cm 深さ14cm。

遺物 無し。

5号掘立柱建物跡（第31～33図 写真11）

位置 調査区ほぼ中央で、掘立柱建物跡が集中する場所に位置する。

重複 古墳時代前期の6号住と3・4号掘立と重複する。

形状 長方形

規模 3間(4.07m)×2間(3.42m)

棟方位 N-15° - E

柱穴 径24～32cmで深さ25～38cm。

6号掘立柱建物跡（第31～33図 写真11）

位置 調査区ほぼ中央で、掘立柱建物跡が集中する場所に位置する。

重複 古墳時代前期の6号住と重複する。

形状 長方形

規模 3間(6.82m)×2間(3.48m)

棟方位 N-107° - E

柱穴 径26～57cmで深さ29～57cm。

7号掘立柱建物跡（第31～33図 写真11）

位置 調査区ほぼ中央で、掘立柱建物跡が集中する場所に位置する。

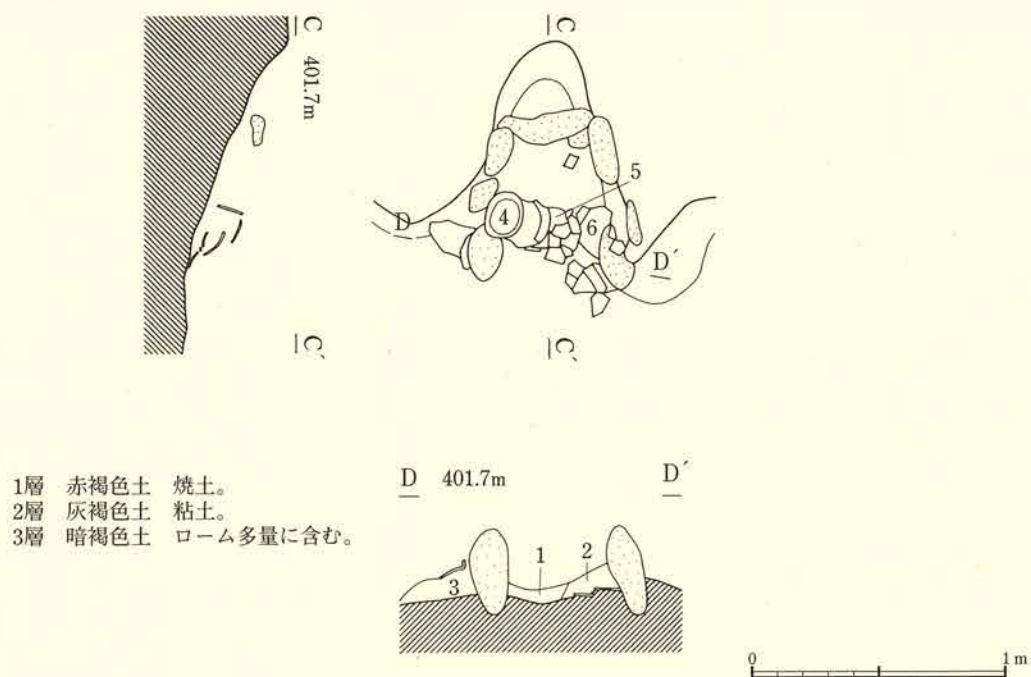
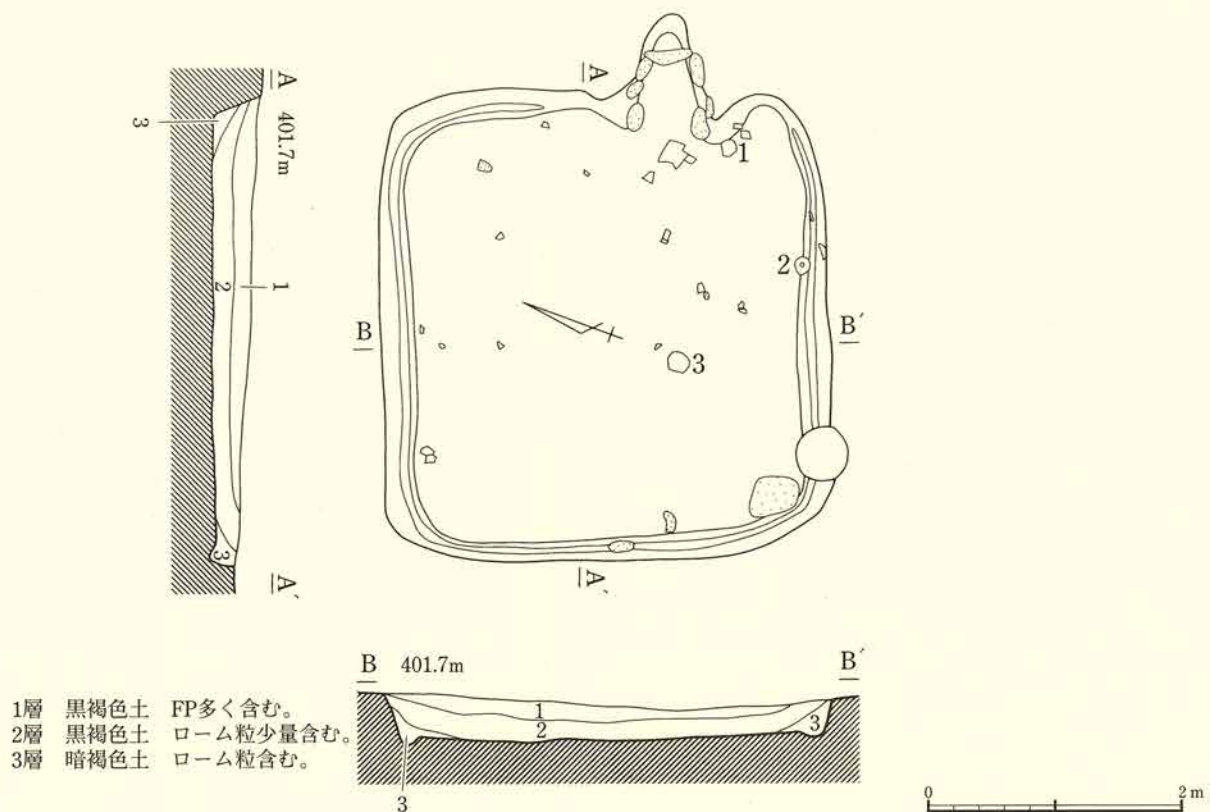
重複 古墳時代前期の6号住と重複する。

形状 長方形

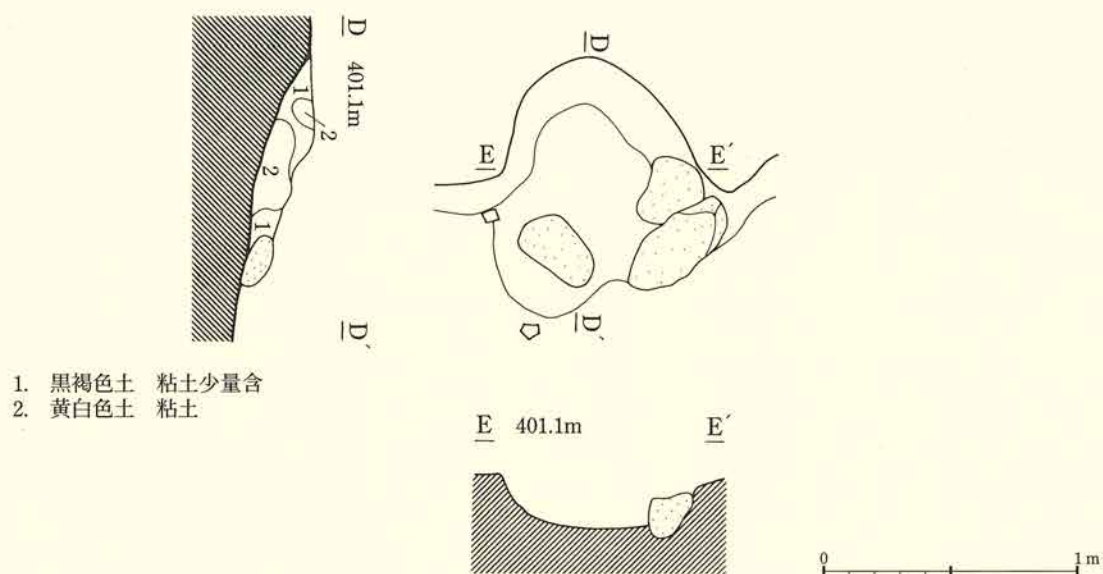
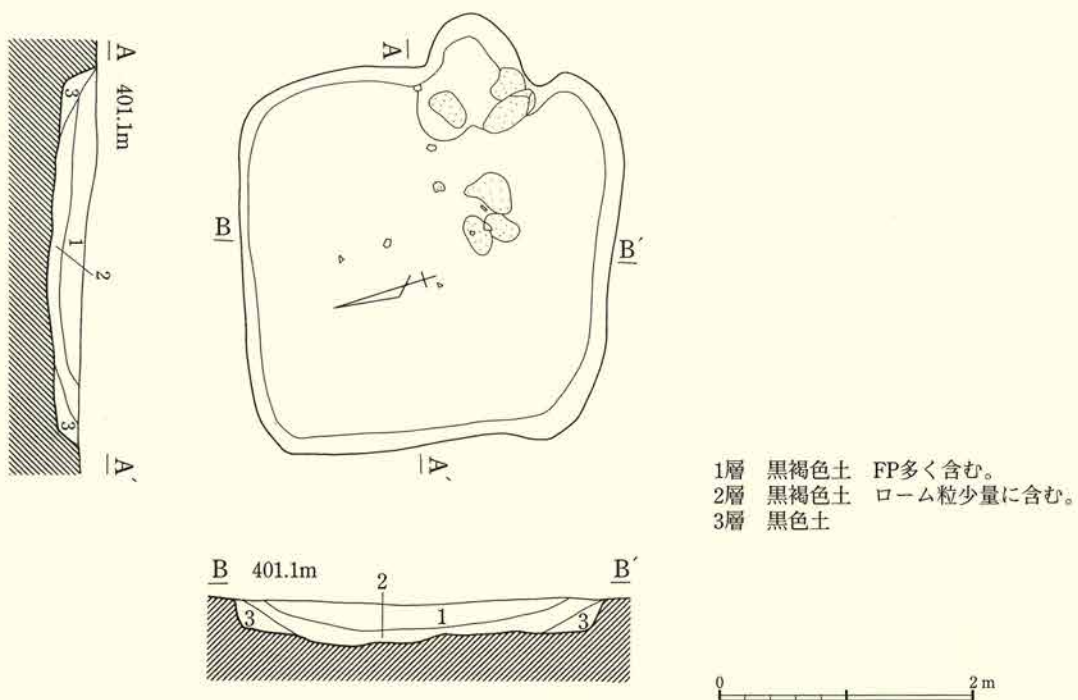
規模 3間(5.42m)×2間(4.04m)

棟方位 N-12° - E

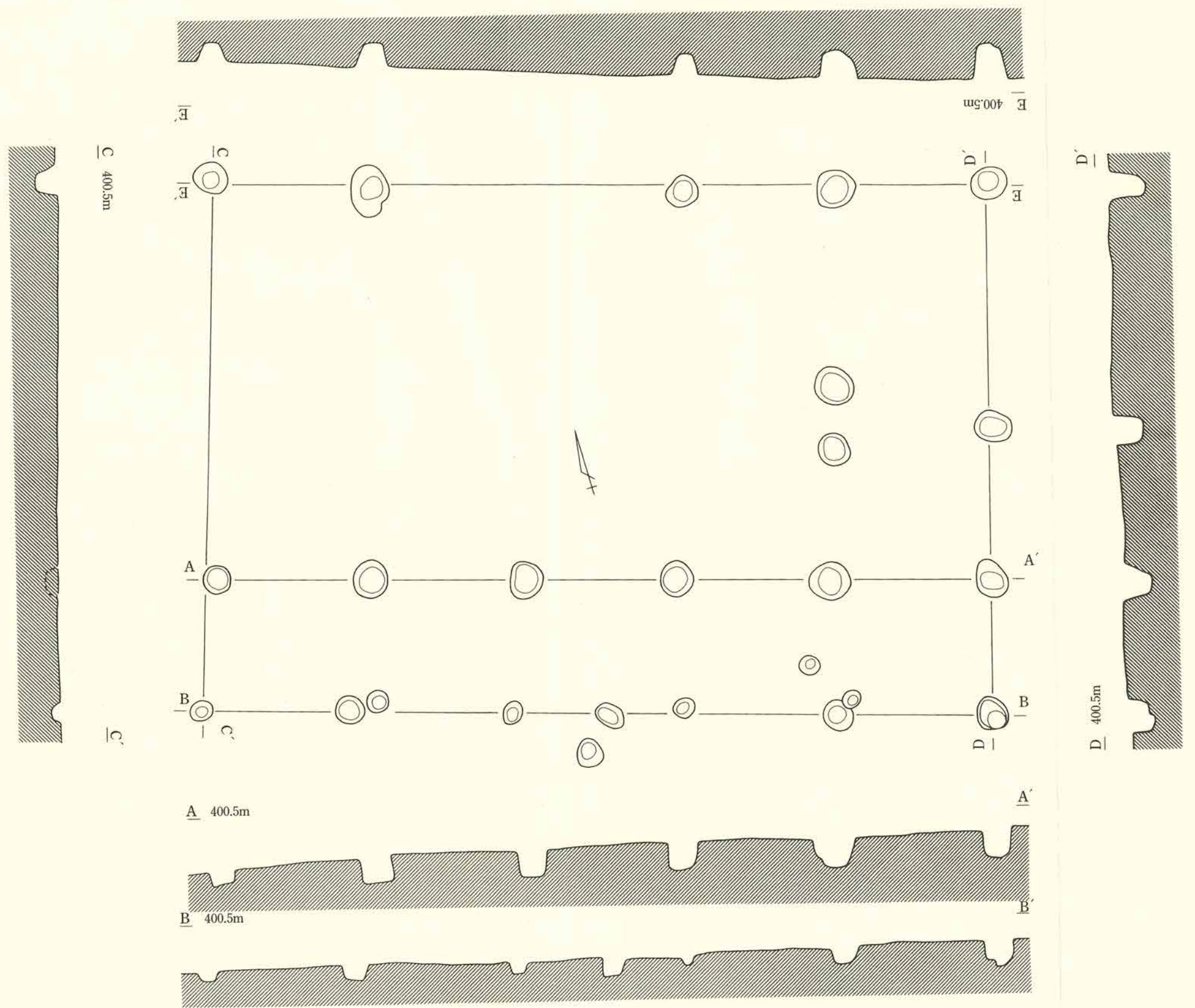
柱穴 径26～49cmで深さ20～52cm。



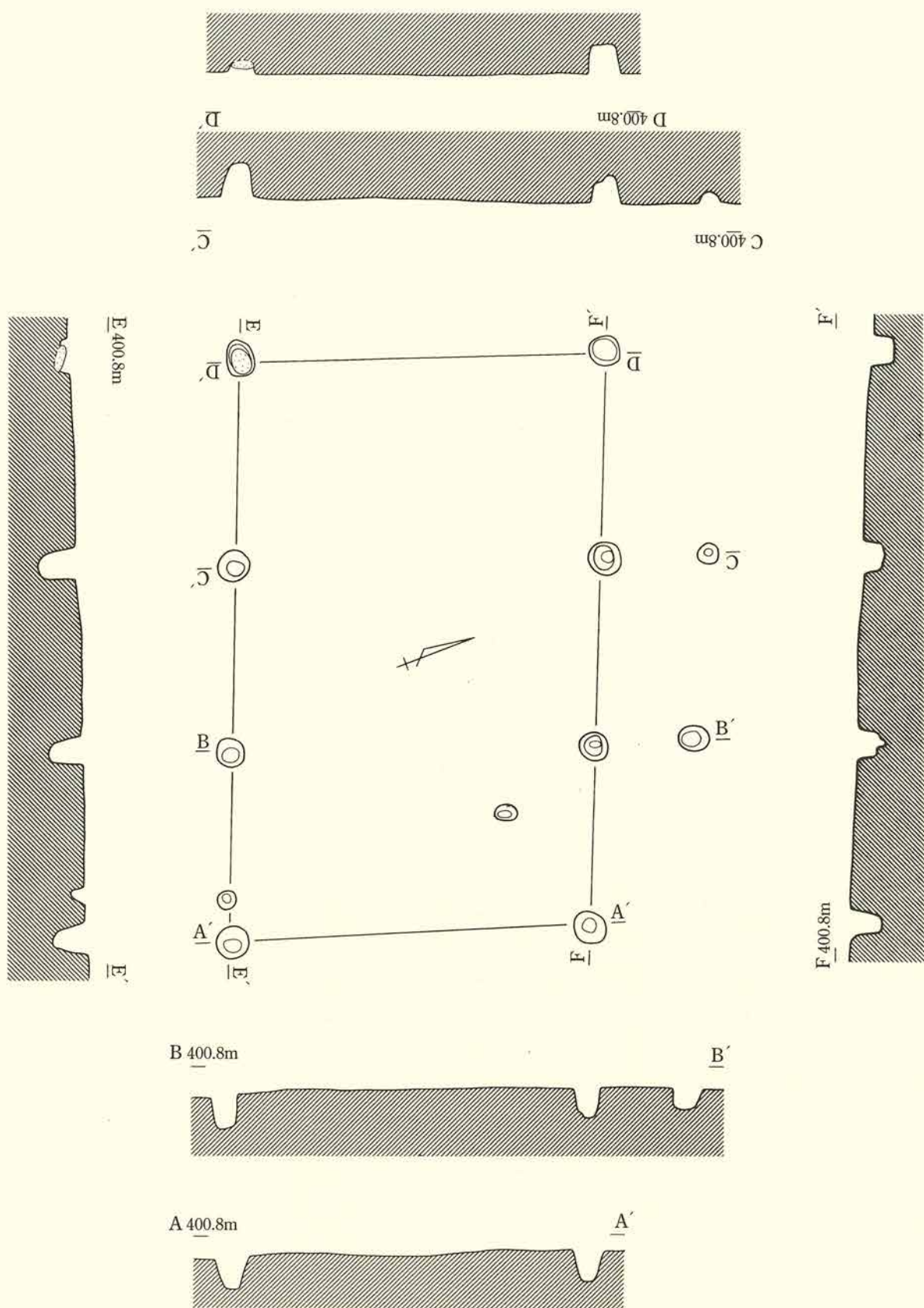
第27図 1号住居跡実測図



第28図 2号住居跡実測図

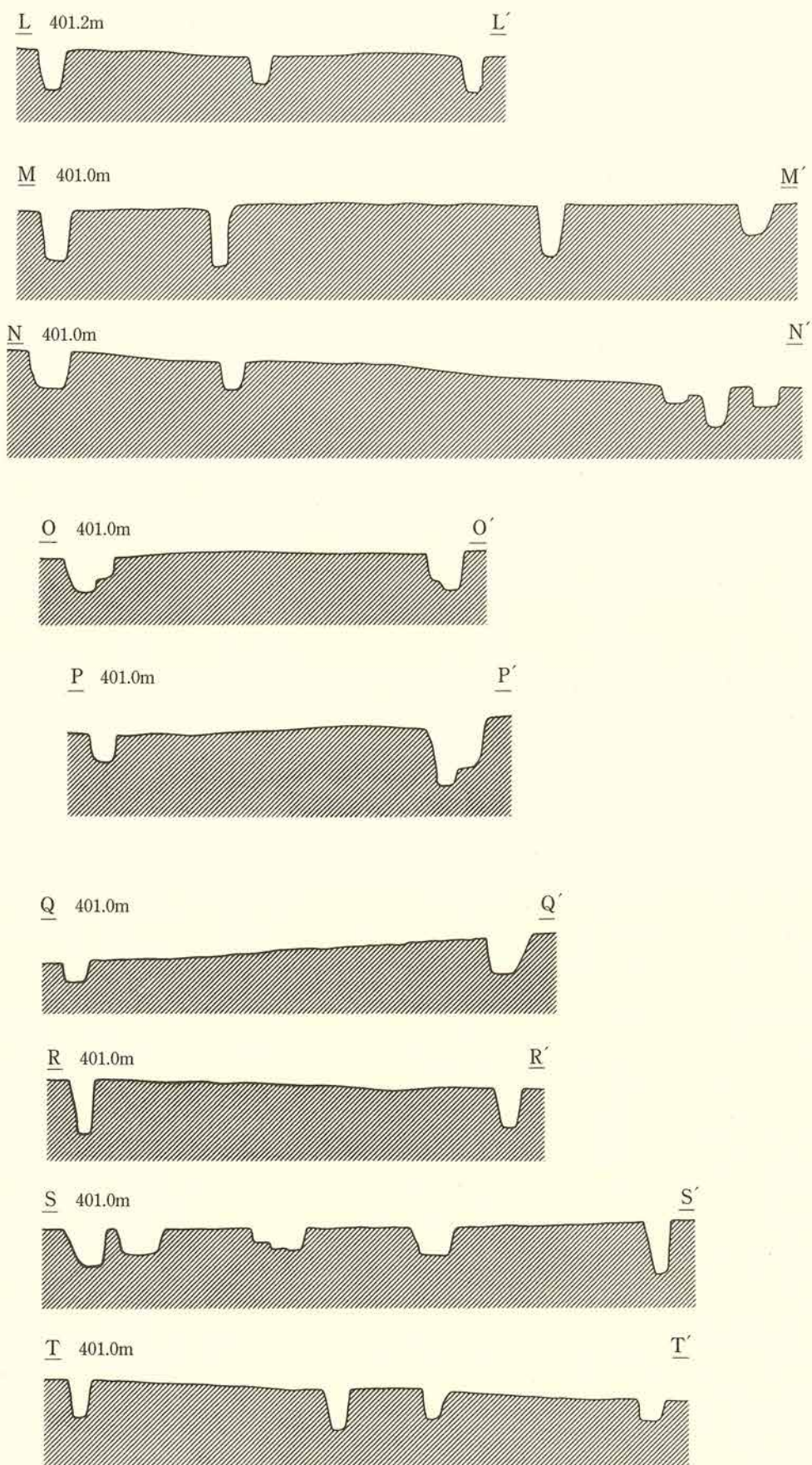


第29图 1号掘立柱建物跡実測図

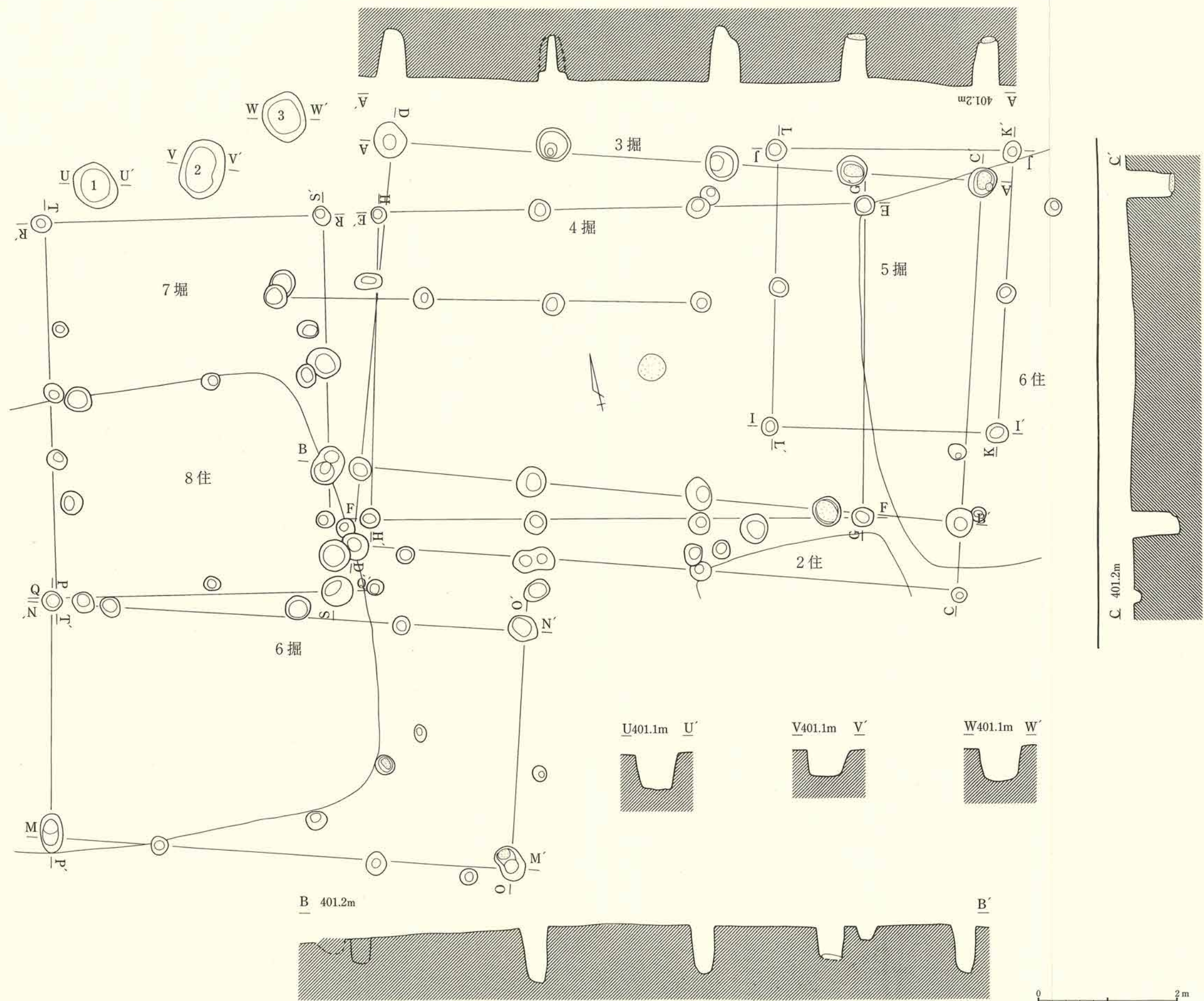


第30図 2号掘立柱建物跡実測図

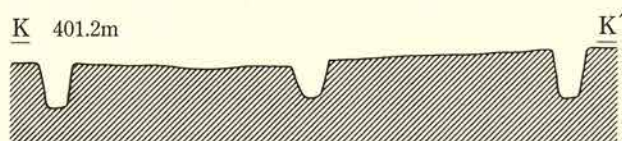
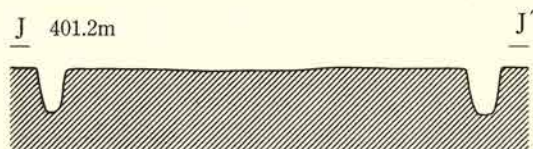
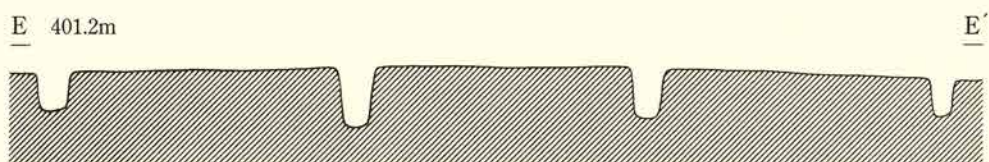
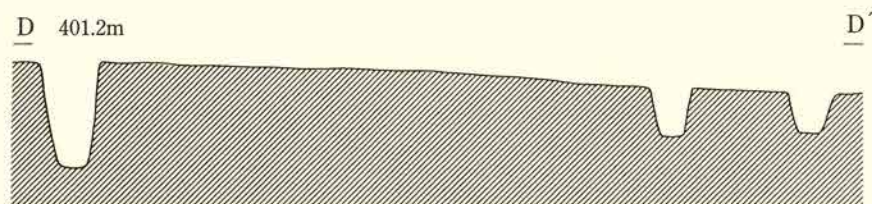
0 2 m



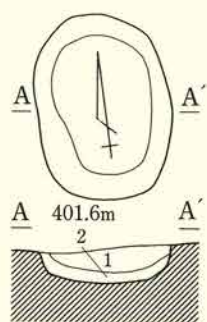
第31図 3~7号掘立柱建物跡実測図(1)



第32图 3~7号掘立柱建物跡実測図(2)



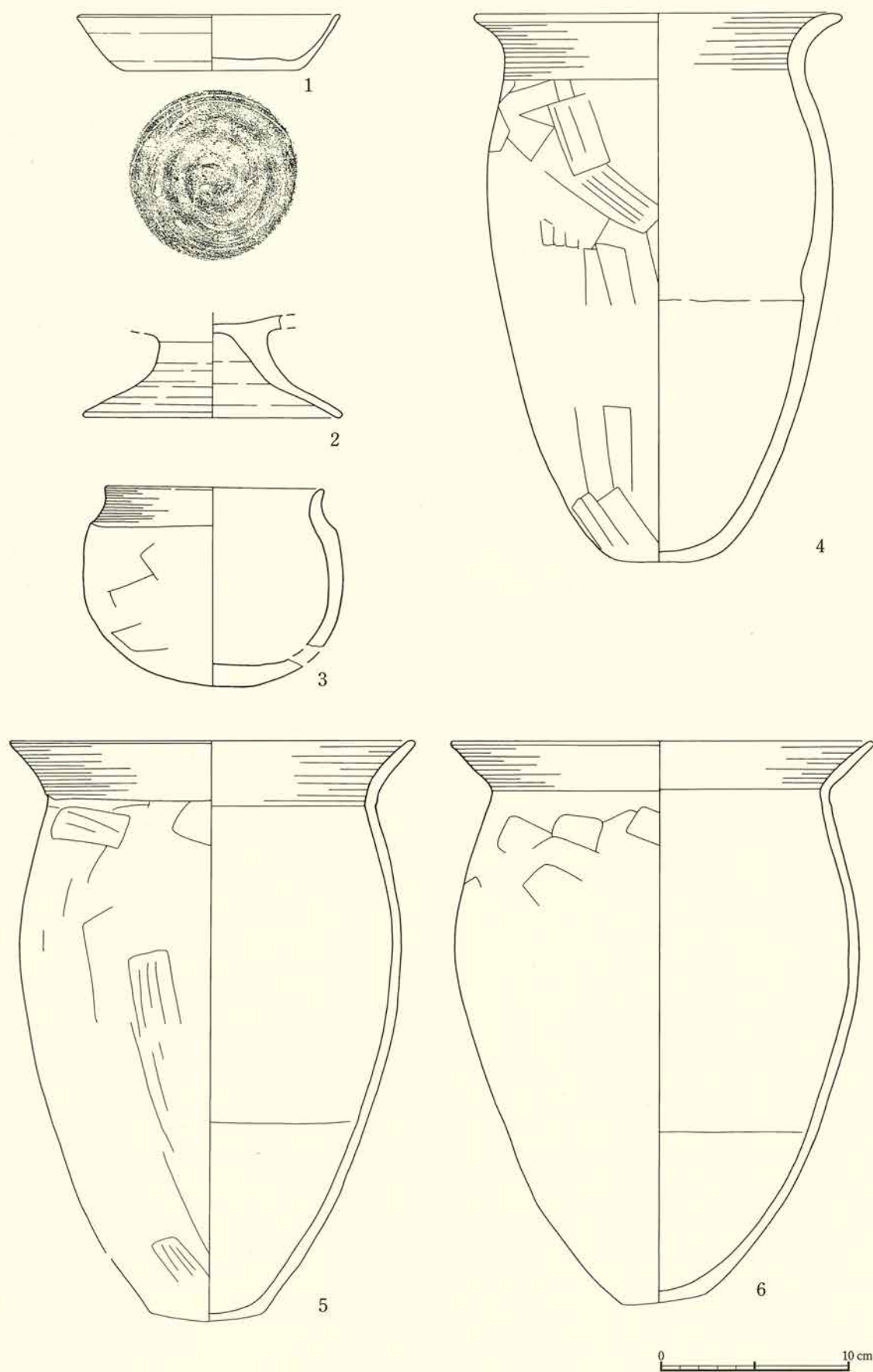
第33图 3~7号掘立柱建物跡実測図(3)



1層 暗褐色土 FP、ローム含
2層 暗褐色土 FP



第34図 1号土坑実測図



第35図 1号住居跡遺物実測図

表1 遺物観察表1 / 縄文・弥生時代(平成4年度調査)

遺構	挿図 図版	種別・器種	出土位置	①遺存状況 ②法量(cm・g) ③胎土・焼成・色調 ④調整 ⑤器形の特徴・文様 ⑥備考
土坑・ 遺構外	1	深鉢	3号土坑	①尖底部 ②白色粒・良好・橙 ⑥繊維
	2	深鉢	1住覆土	①胴部 ②- ③礫多量・良好・にぶい橙 ④・⑤- ⑥繊維
	3	深鉢	5住覆土	①口縁部 ②- ③礫多量・良好・にぶい褐 ④- ⑤半裁竹管 ⑥繊維
	4	深鉢	10住覆土	①破片 ②- ③小礫多量・良好・にぶい黄橙 ④半裁竹管・平行沈線
	5	深鉢	トレンチ	①口縁部小礫多量 ②良好・橙 ④沈線刺突文
	6	深鉢	5住・覆土	①胴部 ②- ③小礫多量・良好・にぶい赤褐
	7	壺	6住・覆土	①口縁部 ②小礫・良好・灰褐 ③内面:横位ミガキ ④波状文9条1単位に簾状文、刺突痕のあるボタン状貼付文
	8	壺	8住覆土	①口縁部:内面横位ミガキ ②- ③細砂・良好・にぶい黄橙 ④波状文8条1単位の簾状文
	9	石鏃	-	①完形 ②長2.4・幅1.5・厚0.5・重2.0 ③~⑤- ⑥チャート
	10	石鏃	7住覆土	①完形 ②長2.8・幅1.8・厚0.4・重1.0 ③~⑤- ⑥黒色安山岩
	11	石鏃	6住覆土	①2/3 ②長2.0・幅2.4・厚0.5・重2.0 ③~⑤- ⑥黒曜石
	12	石核	6住覆土	①完形 ②長3.55・幅2.95・厚2.4・重16.0 ③~⑤- ⑥黒曜石
	13	不明石器	6住覆土	①2/3 ②長6.4・幅7.7・厚7.5・重269.0 ③~⑤- ⑥デイサイト質凝灰岩
	14	不明石器	4住覆土	①完形 ②長12.2・幅8.1・厚3.2・重385.0 ③~⑤- ⑥流紋岩質凝灰岩
	15	打製石斧	4住覆土	①完形 ②長13.2・幅7.9・厚3.4・重360.0 ③~⑤- ⑥黒色頁岩
	16	打製石斧	6住覆土	①1/2 ②長・6.9・幅6.0・厚1.5・重量68.0 ③~⑤- ⑥黒色頁岩
	17	石匙	7住覆土	①破片 ②長4.2・幅6.1・厚0.9・重15.8 ③~⑤- ⑥黒色頁岩
	18	スクレーパー	4住覆土	①完形 ②長7.8・幅5.0・厚2.7・重133.5 ③~⑤- ⑥黒色頁岩

表2 遺物観察表2 / 古墳時代(平成4年度調査)

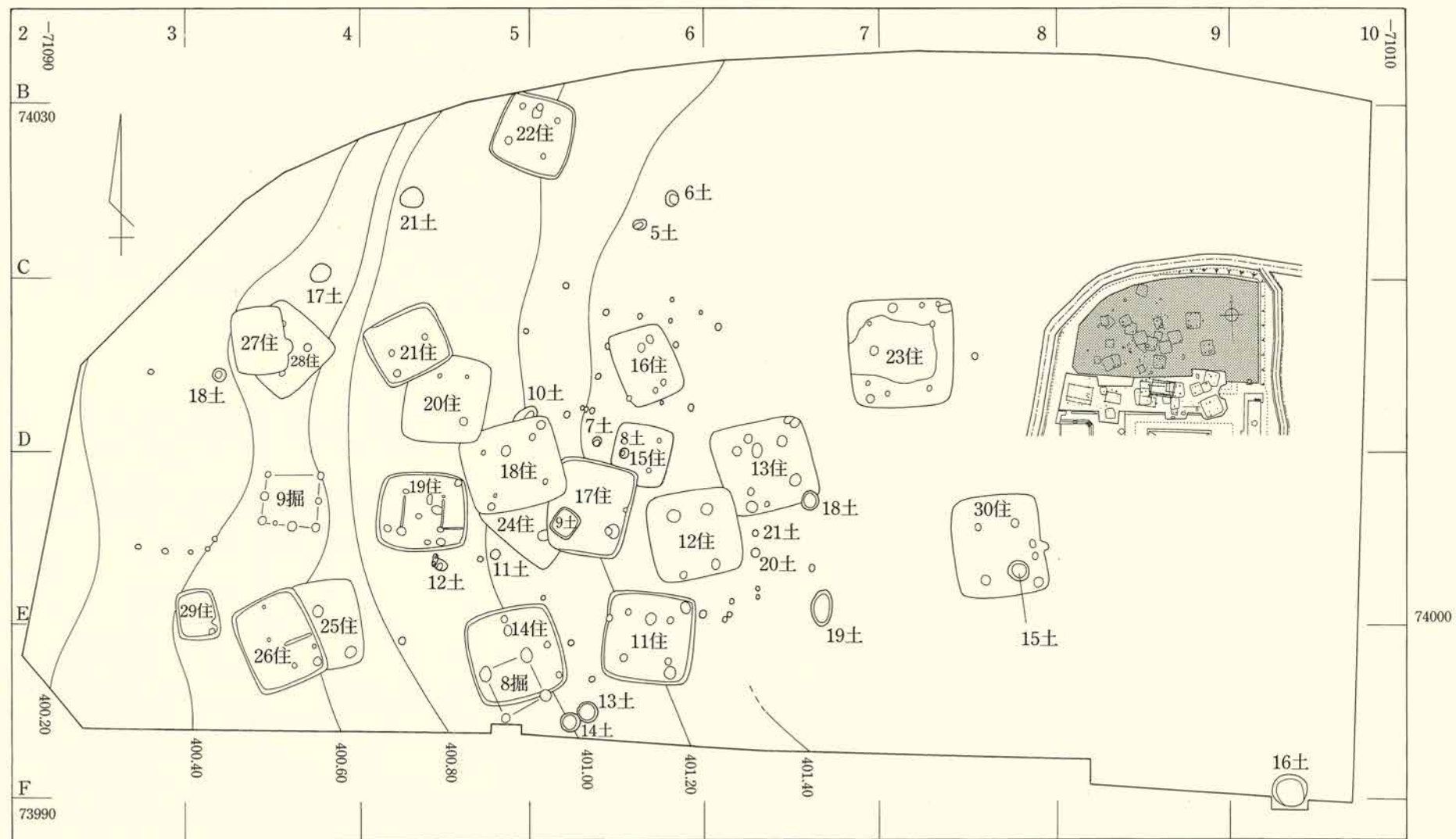
遺構	挿図 図版	種別・器種	出土位置	①遺存状況 ②法量(cm・g) ③胎土・焼成・色調 ④調整 ⑤器形の特徴・文様 ⑥備考
3住	1	壺	覆土	①口縁部 ②口(13.8) ③白色粒含む・良・にぶい橙 ④外面:口縁部に三段の輪積痕・内面:横位に櫛目整形
	2	壺	南東柱穴	①口縁部 ②- ③白色粒・良好・にぶい橙 ④外面:口縁部に三段の輪積痕・内面:口縁部横ナデ
	3	台付甕	覆土	①口縁部 ②- ③白色粒含む・良・にぶい橙 ④外面:頸部~胴部にハケ目
	4	壺	南西壁寄り・床	①口縁~胴上部 ②口17.2 ③砂粒含む・良好・橙 ④外面口縁部横ナデ・頸部~胴部斜位
	5	台付甕	北東周溝・床上30cm	①台部 ②底9.0 ③白色粒含む・良好・にぶい褐 ④外面:斜位にハケ目跡・ヘラナデ
	6	土師器器台	覆土	①脚部 ②小礫・砂粒・良好・にぶい橙 ③外面:ヘラナデ跡・ミガキ ⑤円孔3
	7	磨き石	覆土	①完形 ②長5.1・幅3.6・厚1.9・重27.0 ③~⑤- ⑥凝灰岩質シルト岩
	8	磨き石	覆土	①完形 ②長3.8・幅3.2・厚2.4・重39.0 ③~⑤- ⑥黒色頁岩
	9	スクレーパー	覆土	①完形 ②長4.4・幅1.9・厚1.4・重8.5 ③・④- ⑤棒状の自然礫 ⑥黒色頁岩
	10	石槍カ	東中央寄り・床上25cm	①基部欠損 ②長9.2・幅3.2・厚3.1・重49.0 ③~⑤- ⑥黒色頁岩
	11	石皿	西	①完形 ②長22.3・幅21.1・厚8.8・重4900 ③~⑤- ⑥石英閃緑岩
4住	1	甕	炉北・床上5cm	①口縁~胴上部 ②口16・頸12 ③礫含む・良好・にぶい橙 ④外面:頸部~口縁斜位ヘラナデ・胴部横位ヘラナデ
	2	台付甕	西南・床	①胴部 ②胴22.4 ③礫・細粒含む・良好・灰褐④外面:胴上部下部は斜位の櫛目が反対方向につけられ肩部に横位の櫛目、内面:指頭痕
	3	埴	南南東・床	①完形 ②口14.4・底3.2・高さ20.5・胴15.8 ③砂粒含む・良好・にぶい橙 ④外面:口縁部横ナデ・頸部~口縁斜位にヘラミガキ
	4	小型甕	東南周溝・床	①口縁一部欠失 ②口6.2・頸4.2・高6.8 ③白色粒含む・良い・橙 ④外面:胴部は斜位にヘラナデ・胴下部ヘラケズリ ⑥二部赤彩カ
	5	壺	覆土	①口縁部 ②- ③砂粒・良好・にぶい橙 ④内面横:ナデ
	6	台付甕	東中央寄り・床上10cm	①台部1/3 ②底10 ③細砂・良好・にぶい橙 ④外面:ハケ目状ナデ・後ヘラナデ・内面:斜位にナデ
	7	器台	南・床	①ほぼ完形②口8.3・底10.2・高6.5 ③白色粒含む・良好・鈍い橙 ④外面:口縁横ナデ・脚部中位にヘラミガキ、内面:横位に櫛状工具で整形 ⑤円孔3
	8	土師器手握	南・床上5cm	①ほぼ完形 ②底4.3 ③細砂含む・良好・にぶい黄橙 ④底部ヘラケズリ
	9	土製勾玉	覆土	①完形 ②長4.0・厚1.8・重18.0 ③白色粒含む・良い・にぶい橙 ⑤口径0.3cmの穿孔 ⑥赤彩痕
	10	砥石	覆土	①- ②長3.2・幅3.0・厚1.8・重19.0 ③~⑤- ⑥凝灰岩質シルト岩
	11	砥石	覆土	②- ②長10.3・幅3.7・厚1.9・重110.0 ③~⑤- ⑥砂岩
	12	砥石	中央西寄り・床	③- ②長16.9・幅7.9・厚5.8・重1200.0 ③~⑤- ⑥石英閃緑岩
	13	磨石	北周溝・床	④- ②長10.2・幅7.0・厚6.7・重700.0 ③~⑤- ⑥流紋岩質凝灰岩
5住	1	埴	北東周溝角	①完形 ②口20.9径14.4高8.4 ③細粒・良好・浅黄橙 ④内面:丁寧なヘラミガキ
	2	壺	北東周溝角・床	①胴下部~底部 ②底7.0 ③礫・細粒含む・良好・浅黄橙 ④外面:ハケ目跡、後ヘラミガキ ⑤内面:ヘラナデ
	3	土製紡錘車	北西周溝・床	①完形 ②径9.2・厚・2.3・孔0.9・重196 ③細粒多・良・浅黄橙 ④- ⑤孔部ふくらむ
6住	1	壺	南中央寄り・床上5cm	①口縁~肩部 ②口17.2・頸14.2 ③白色砂粒・良い・橙 ④口縁外面に三段の輪積痕・指頭圧痕 ⑤内面横位のハケナデ

表3 遺物観察表3 / 古墳時代(平成4年度調査)

遺構	挿図 図版	種別・器種	出土位置	①遺存状況 ②法量(cm・g) ③胎土・焼成・色調 ④調整 ⑤器形の特徴・文様 ⑥備考
6住	2	壺	中央床	①口縁～肩部 ②口13.1・頸12 ③小礫砂粒含む・良好・浅黄橙 ④外面:口縁横ナデ頸部～胴上部に斜位のハケナデ
	3	壺	北中央寄り・床上25cm	①口縁部 ②口14.4・頸12 ③砂粒含む・良い・にぶい橙 ④外面:口縁に三段の輪積痕・ヘラ状工具の圧痕あり、内面:ハケナデ
	4	壺	中央東北寄り床上5cm	①口縁～肩部 ②口17.8・頸9.5 ③砂粒含む・良好・浅黄橙 ④外面:口唇横ナデ、口縁～頸部斜位のハケナデ、内面:横ナデ ⑥内外面に煤付着
	5	台付甕	北東柱穴付近・床上20cm	①口縁部 ②口15.6 ③礫・良好・褐灰 ③頸～胴部ハケ目
	6	台付甕	西・床上5cm	①台部 ②底11.0 ③小礫・良好・浅黄橙～にぶい黄橙 ④外面:斜位にハケナデ→ナデ
	7	小型甕	中央やや西寄り・床	①1/3 ②口11.2・底3.8・高6 ③礫・良好・橙 ④外面:ハケナデ・ヘラミガキ、内面:ヘラミガキ
	8	埴	北西床上5cm	①3/4 ②口14.2・頸8.2・高4.1 ③褐色粒・良好・橙 ④外面:口縁ヘラミガキ
	9	高坏	北東柱穴と南東柱穴の東・床	①坏部1/2 ②口15・頸3.3 ③砂粒・礫・良好・橙 ④内・外面:ヘラミガキ
	10	器台	覆土	①脚部 ②底10.6 ③砂粒・良好・にぶい橙 ④外面ヘラナデ、ヘラミガキ、内面横位ヘラナデ ⑤3つの透かし孔
	11	器台	中央・床上25cm	①器受部 ②口9.5 ③白色粒・良好・橙 ④外面:斜位のナデ→ヘラミガキ、内面:ヘラミガキ
	12	壺	中央北寄り・床上25cm	①口縁部 ②口16.8 ③礫大量・良好・浅黄橙 ④口縁外面:横ナデ、内面:横ナデ
	13	手握	中央床上20cm	①完形 ②口3.0・底2.2・高2.7 ③白色粒・良好・にぶい黄橙
	14	石鉢	中央北寄り・床	①1/2 ②長12.2・幅10.1・厚9.3・重334.0
	15	石鉢	南東角・床	①完形 ②長18.7・幅9.7・厚3.1・重598.0
8住	1	壺	南・床	①口縁～胴上部 ②口16.3・頸12.4 ③礫と細砂・良好・橙 ④外面:口縁斜位にハケナデ→口唇部横ナデ、胴上部・斜位にヘラナデ、内面横ナデ ⑤- ⑥外面煤付着
	2	壺	北西床上10cm	①口縁～肩部 ②口13.6・頸8.8 ③砂粒多量・良好・にぶい橙
	3	壺	西・床上10cm	①口縁部 ②口19.8 ③白色粒・良好・浅黄橙 ④櫛目工具にて、外面口縁部横位・頸部斜位・内面横位ナデ
	4	台付甕	南東周溝床上35cm	①台部破片 ②底8.6 ③にぶい橙
	5	手握	覆土	①完形 ②口2.6・底2.0・高1.0 ③細砂・良好・橙 ④底部ヘラミガキ
9住	1	壺	北・床	①口縁～肩部 ②口17.6・頸10.6 ③浅黄橙
	2	壺	北西・床	①口縁 ②口17.5・頸9.9 ③細砂・良好・浅黄橙 ④外面:口唇部斜～頸部縦位のハケナデ、内面:横位ハケナデ
	3	台付甕	南東・床上5cm	①頸部 ②細砂・良好・褐灰 ③外面:頸部:櫛状工具で縦位に施文
	4	埴	北・床	①口縁一部欠 ②口9.3・胴9.2・高10.7 ③白色粒・良好・浅黄橙 ④外面:頸部～口縁縦ミガキ、胴部ヘラナデ→ミガキ、胴下部ヘラケズリ
	5	器台	北・床上10cm	①器受部 ②口9.4 ③白色粒・良好・浅黄橙 ④外面:ヘラナデ→横ミガキ、内面横:ミガキ
	6	磨り石	北・床	①完形 ②長10.5・幅11.5・厚10.5・重1905.0 ③～⑤- ⑥粗粒輝石安山岩
10住	1	埴	東・床上5cm	①口縁～頸部 ②口12.3 ③白色粒・良好・にぶい橙 ④外面:細かいミガキ ⑤- ⑥内面:煤付着
	2	小型石棒	覆土	①完形 ②長5.8・幅1.6・厚ヘラケズリ・重23.5 ③～⑤ ⑥砂岩
遺構外	1	小型甕	一	①完形 ②口7.8・底3.5・高9.0 ③礫・良好・浅黄橙 ④外面:口縁部横位ナ・胴部斜位ハケナデ・胴部～下部ヘラケズリ、内面:ヘラミガキ

表4 遺物観察表4 / 奈良・平安時代(平成4年度調査)

遺構	挿図 図版	種別・器種	出土位置	①遺存状況 ②法量(cm・g) ③胎土・焼成・色調 ④調整 ⑤器形の特徴・文様 ⑥備考
1住	1	須恵器坏	カマド南・床	①4/5 ②口14.2・底9.0・高13.0 ③砂粒・還元・灰色 ④底部回転・ヘラケズリ
	2	須恵器高坏	南南東壁・床	①底14.0 ②礫・還元・灰色
	3	小型甕	中央南・床上5cm	①2/3 ②口11.8・胴14.0・高10.6 ③砂粒含む・良好・にぶい橙 ④外面:口縁部ヨコナデ・内面:横ナデ
	4	甕	カマド北寄り	①ほぼ完形 ②口19.8・胴18.5・高29.2 ③- ④外面:口縁部横ナデ・胴部縦位のヘラケズリ・内面:ヨコナデ
	5	甕	カマド中央	①4/5 ②口21.8・胴20.4・高30.9 ③細砂・良好・橙 ④外面:口縁部ヨコナデ・胴底部～中位:縦位ヘラケズリ・内面:ヨコナデ
	6	甕	カマド南寄り	①4/5 ②口22.9・胴21.8・高29.9 ③細砂・良好・橙 ④外面:口縁部ヨコナデ・胴部斜位にヘラケズリ・内面:横ナデ



第36図 平成14年度調査区全体図

Ⅳ 平成14年度の調査

1 縄文・弥生時代

住居跡1軒と土坑1基が検出されている。

24号住居跡（第37・38図 写図21・35）

位置 調査区中央部D 4 グリッド。同時代の住居跡としては唯一のもので、ほぼ西に隣接する古墳時代の19号住居からは磨製石斧が出土しており、関連が指摘される。

重複 同時代の9号土坑、古墳時代前期の17・18号住居に切られる。

形状 不明。

規模 4.83×4.68m

方位 不明。

床面 確認面からの深さ28cm。地山を床面とし全体に硬化している。

柱穴 主柱穴なし。

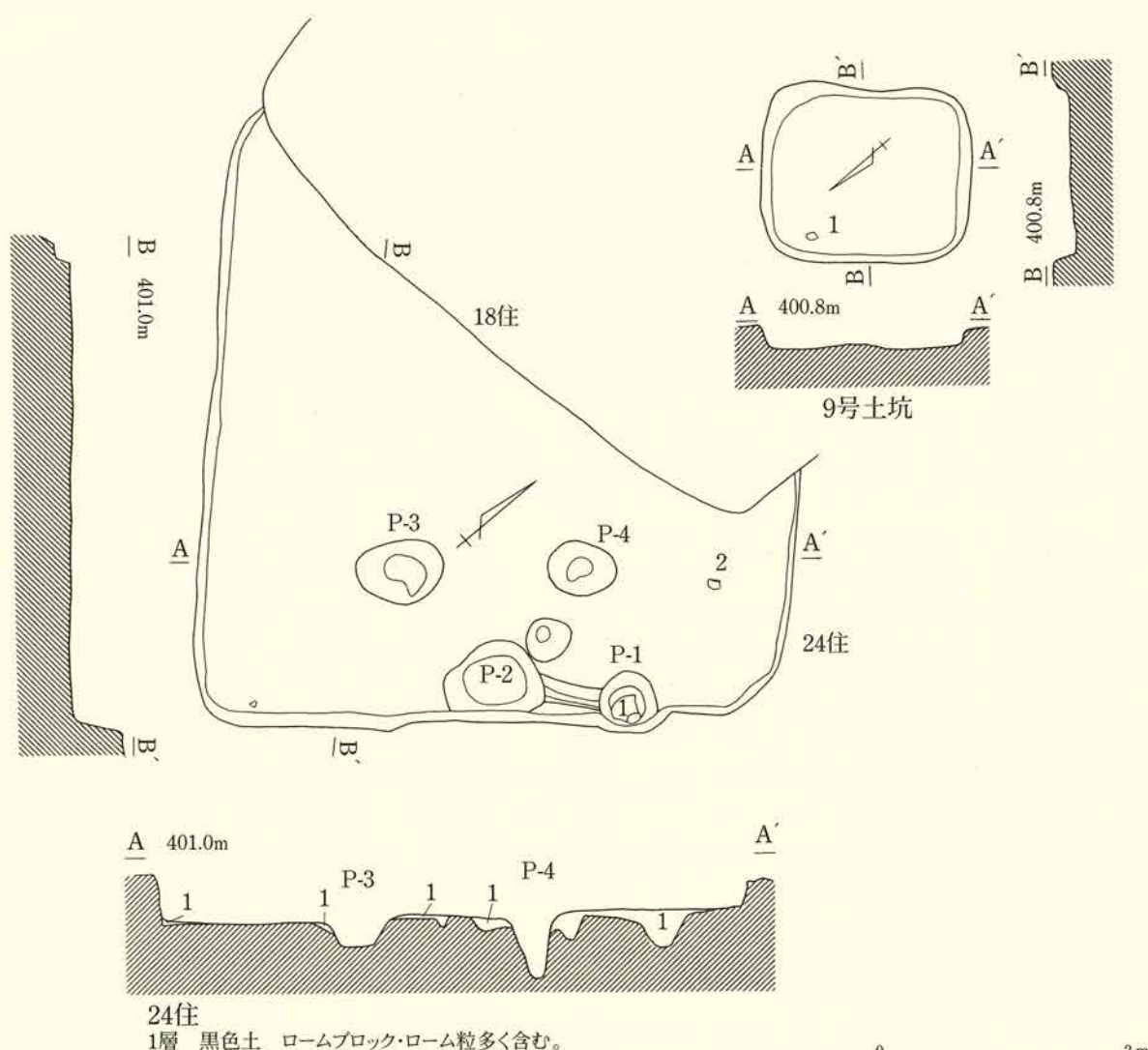
周溝 南東壁際に溝状の掘り込みがみられる。

炉 不明。

その他 床面には、住居跡に伴う小ピットが5基あり、南東辺北側の壁際に検出された円形ピットP1は、径45cm深さ71cmを測る。

床面積 不明。

遺物 樽式土器甕・鉢などの破片が床面東辺に分布する。ピットP1からは樽式土器の甕破片が出土してい



第37図 24号住居跡・9号土坑実測図

9号土坑（第37・38図 写図32・35）

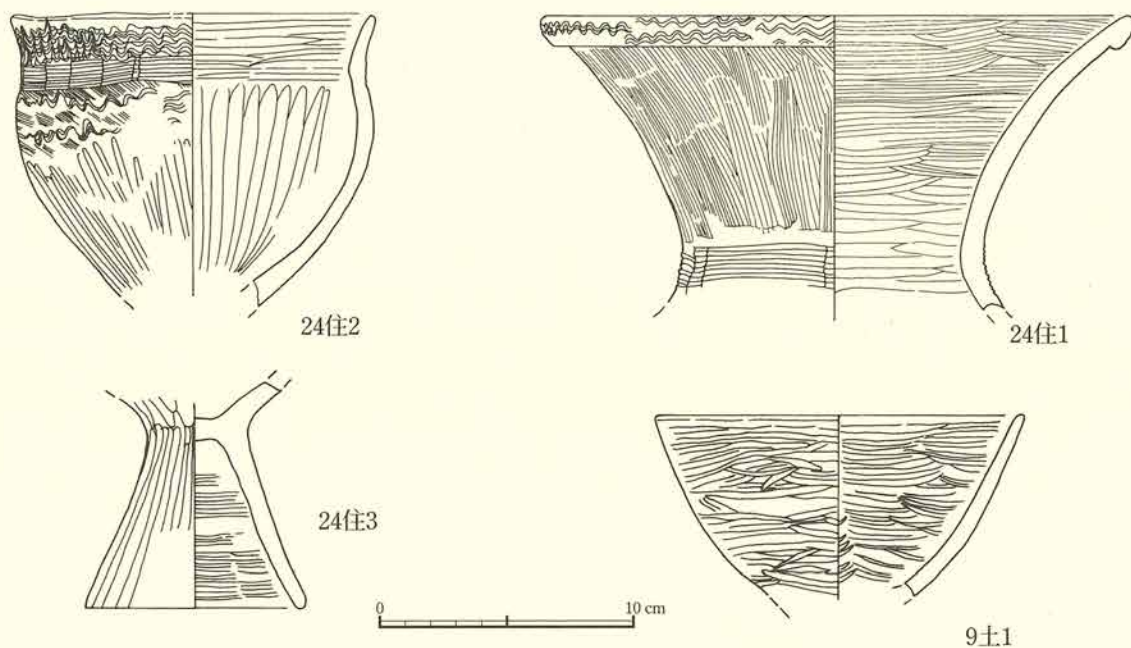
位置 調査区中央部D 5 グリッド。西側 3 m
に11号土坑がある。

重複 古墳時代の17号住居跡を切る。

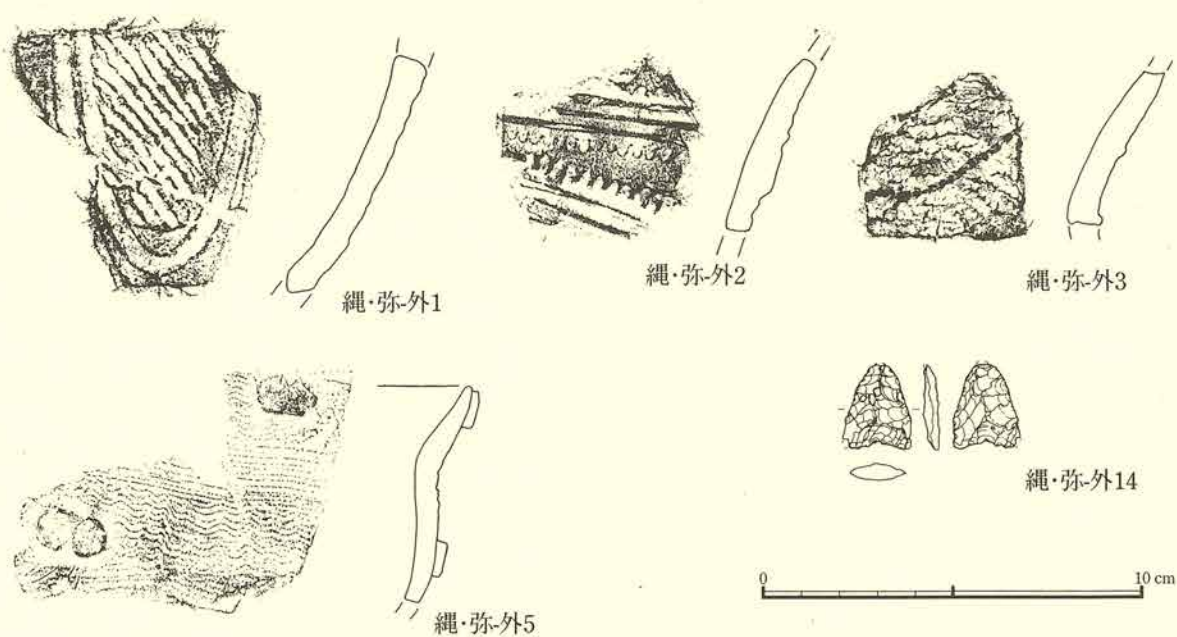
形状 隅丸方形

規模 168×138cm 深さ19cm。

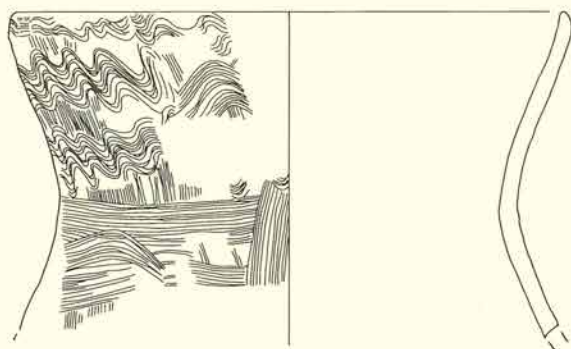
遺物 弥生時代の所産である高坏や赤色塗彩
された鉢の破片が混入していた。



第38図 24号住居跡・9号土坑遺物実測図



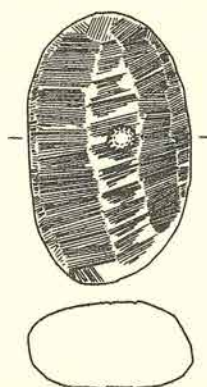
第39図 縄文・弥生時代遺構外出土遺物実測図(1)



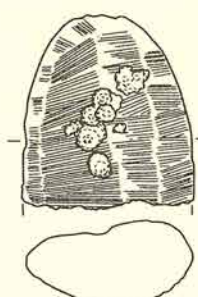
縄・弥-外4



縄・弥-外6



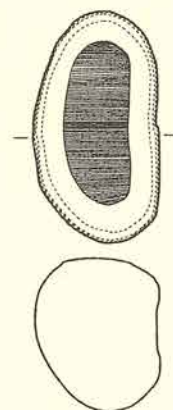
縄・弥-外7



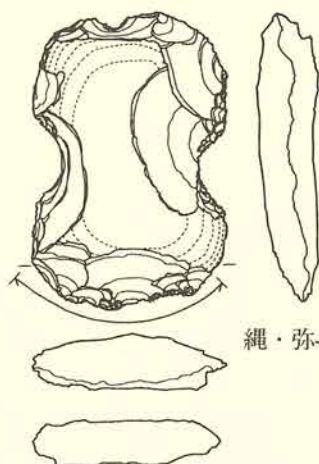
縄・弥-外8



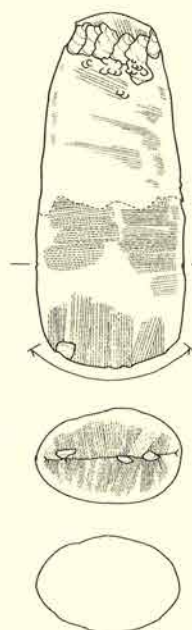
縄・弥-外9



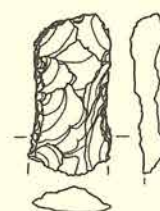
縄・弥-外10



縄・弥-外11



縄・弥-外13



縄・弥-外12



第40図 縄文・弥生時代遺構外出土遺物実測図(2)

2 古墳時代

古墳時代の遺構は、住居跡13軒で、本遺跡に営まれた集落の主体をなしている。

焼失家屋の18号住居跡、間仕切りのある19号住居跡がみられる。また遺物では、北辺東壁際に重さ14kg～18kgの扁平な石を配置する11・14・18・19号住居跡の4軒があり特筆される。

11号住居跡（第55・56図 写図21・37）

位置 前回の調査区寄りの調査区中央部E5グリッドに位置する。同時代の住居跡が密集する地点で、14号住居からは東に2m離れている。

重複 なし。

形状 隅丸方形

規模 5.30×4.70m

方位 N-9°-E

床面 面積18.39m²。確認面からの深さ33cm。硬化面は南辺の支柱穴間2箇所のみられ、貼床は縁辺部にみられる。

柱穴 楕円形の支柱穴P1～P4の4本。径43～39cmで、床面からの深さ76～40cm。

炉 地床炉が2箇所から検出されている。1号炉は北側支柱穴間に位置し南縁に片扁平な川原石を配置している。2号炉は西辺北側にあり、2層に分層され、第1層には焼土が多く、第2層からは土器片が多量に混入している。

周溝 深さ11～4cmで全周する。

その他 円形貯蔵穴が北東隅P6と南東隅P5にある。P5は径68cm深さ40cmである。P6は径70cm深さ10cm、堀方は壁際を溝状に全周する。

遺物 土師器台付甕・甕・埴・小型埴・高坏・小型高坏が出土している。埋没土の第1層から多量の遺物が出土し、樽式土器も混入している。北東の支柱穴P2付近に台石を配している。

13号住居跡（第42・57図 写図22・37）

位置 調査区中央部D6グリッド。同時代の集落の東縁にあたり、周辺の11・17・24号住居

からは4～5m離れている。

重複 奈良時代の12号住居と重複する。

形状 隅丸方形

規模 5.70×5.25m

方位 N-13°-E

床面 面積18.78m²。確認面からの深さ19cm。硬化面は中央部、北東の支柱穴P2付近にみられる。貼床は縁辺にみられる。

柱穴 支柱穴(P1～P4)4本。径68～45cmで床面からの深さ62～34cm。

周溝 深さ12～3cmで全周する。

炉 地床炉で被熱痕がある。

その他 南西隅P5と北東隅P6に円形貯蔵穴がある。P5は径60cm深さ24cm、P6は径72cm深さ51cmである。堀方は、馬蹄形をした幅広のものと、この上に築かれた壁際を全周する幅20cm深さ15cmの周溝状のものがある。

遺物 土師器甕・埴・器台が出土しており、支柱穴P3からは甕が出土している。

14号住居跡（第43・58図 写図23・38）

位置 前回調査区に寄った調査区中央部E4グリッドに位置する。同時代の住居跡が密集する地点で、11号住居からは西に2m離れている。

重複 奈良・平安時代以降に構築された8号掘立柱建物跡と重複する。

形状 隅丸方形

規模 5.07×5.03m

方位 N-12°-W

床面 面積24.14m²。確認面からの深さ32cm。硬化面は北辺と南辺の支柱穴間にあり、貼床は縁辺に施される。

柱穴 支柱穴P1～P4の4本。径20cm～19cmで、床面からの深さ70～46cm。

周溝 深さ16～2cmで全周する。

炉 地床炉が3箇所に配置されている。

1号炉は北側支柱穴間に位置し、底部に被熱痕

は認められないが、南縁に配置された片扁平な川原石の北側は煤が付着していた。2号炉は東辺中央部の壁際に、3号炉は東辺南側の壁際に配置されている。

その他 南辺西側の壁際に、径45cm深さ53cmの円形貯蔵穴がある。掘方は、壁際を溝状に掘り込み全周する。

北東の主柱穴P2付近に台石を配置する。

遺物 土師器甕・高坏・鉢があり、鉢には赤色塗彩のものがある。他に樽式土器片が混入する。

17号住居跡(第44・59図 写図24・38)

位置 調査区中央部D5グリッド。同時代の住居跡が密集する地点である。周辺の11・13・14号住居からは2～4m離れている。

重複 弥生時代の10号土坑を切り、同時代の18号住居に切られる。

形状 隅丸方形

規模 4.30×5.60m

方位 不明

床面 面積20.20m²。確認面からの深さ15cm。北壁～東壁際北寄りにかけて堤状に隆起している。

周溝 深さ11～2cmで、主に北～壁際に遺存する。

炉 なし。

その他 東壁際南寄り床面に径80cm、深さ45cmの円形の土坑があり、上層には炭化物が薪を並べたような形状で出土し、下層からは土器破片が出土していた。

遺物 土師器台付甕・壺。この他、鉄製品では鎌が床面から横位の状態で出土している。

18号住居跡(第45・46・60図 写図24・25・39)

位置 調査区中央部D4グリッド。同時代の集落の中心部で住居跡が密集する地点である。19号住居の東側に隣接する。

重複 同時代の20号住居に切られ、17号住居を切る。

形状 隅丸方形

規模 5.32×4.89m

方位 N-15°-E

床面 面積23.62m²。確認面からの深さ22cm。硬化面は北辺主柱穴間・南辺主柱穴間にみられる。貼床は縁辺部にみられる。

柱穴 主柱穴4本(P1～P4)。径30～13cmで床面からの深さ74～44cm。

周溝 深さ12～2cmで全周する。

炉 地床炉が北側主柱穴間に配置されている。掘り込みの北縁部には拳大の炭化物がみられる。また、中央部には片扁平な川原石があり、石の北側には煤が付着し、接地面～南縁部が被熱により赤色化している。

その他 本住居跡は焼失家屋で、多量の炭化した構材が、壁～床面を覆う状態で検出された。

円形貯蔵穴が、南東隅と北東隅の2箇所に配置されており、南東隅のP5は径44cm深さ48cm、北東隅のP6は径44cm深さ48cmを測る。P6からは、長さ22～14cm、幅9～6cm、重さ1035～565gの棒状の川原石12点が、集積された状態で検出されている。

掘方は壁際を溝状に全周する。

遺物 土師器壺・甕・小型高坏、砥石。また11・14・19号住居同様、北東隅寄りの主柱穴P2付近に台石を配している。

19号住居跡(第47・61図 写図25・26・39)

位置 調査区中央部D5グリッド。同時代の集落の住居跡が密集する地点で、18号住居の東隣である。

重複 覆土中にFPが入る小ピットに切られる。

形状 隅丸方形

規模 4.96×4.27m

方位 N-1°-E

床面 面積16.42m²。確認面からの深さ34cm。各主柱穴間には幅8～5cm深さ3～1cmの間仕切り溝が施されている。貼床は縁辺部になされている。

柱穴 主柱穴4本(P1～P4)。径51～21cmで

床面からの深さ52~44cm。

周 溝 深さ12~2cmで全周する。

炉 地床炉が2箇所にある。1号炉は北側主柱穴間に位置し、片扁平な川原石が南縁に置かれ、炉の中心に向かって煤が付着する。2号炉は北辺東端の壁際に配置される。

その他 南辺東寄りの壁際に梯子穴と判断される2基のピットP5・P6があり、P5は楕円形で径58cm深さ44cmを測り、P6は円形で径35cm深さ24cmを測る。

遺 物 土師器S字甕・鉢破片、砥石、薦編み石と思われる礫などが少量出土している。北東の主柱穴付近に台石を配している。また、樽式甕破片や磨製石斧が混入している。

20号住居跡（第48・61図 写図26・39）

位 置 調査区中央部C4グリッド。

重 複 同時代の21号住居に切られ、18号住居とは新旧不明である。

形 状 隅丸長方形

規 模 4.74×4.74m

方 位 不明

床 面 面積19.91m²。確認面からの深さ40cm。縁辺に貼床が認められる。

柱穴・周溝・炉 なし。

その他 南辺東壁寄りの円形ピットP1は、径55cm深さ18cmを測る。

遺 物 土師器甕・高坏破片。南西隅付近の床面にややまとまって出土している。

21号住居跡（第49・62図 写図26・39）

位 置 調査区中央部C4グリッド。

重 複 20号住居を切る。

形 状 長方形

規 模 4.24×3.58m

方 位 N-17°-E

床 面 面積19.91m²。確認面からの深さ28cm。硬化面は中央部から南西側に広がり、貼床は南

辺西壁際以外は明瞭ではない。

柱 穴 主柱穴P1・P2の2本。径40~25cmで床面からの深さ42~31cm。

周 溝 深さ4~2cmで全周する。

炉 明瞭な掘り込みは見られないが、主柱穴間中央部北壁寄りの床面に被熱痕があり、地床炉の浅い掘り込みがあった可能性がある。

その他 貯蔵穴P3は、南辺西端壁際にあり、円形で、径48cm深さ38cmである。南辺西壁際に床下土坑がある。

遺 物 土師器甕・埴・高坏・小型器台、砥石。

22号住居跡（第50図 写図27）

位 置 調査区中央部B5グリッドで、遺構の北西隅が調査区外になる。トレンチャーによる破損が著しい。同時代の集落北縁に位置し、21号住居からは、ほぼ北に10m離れている。

重 複 なし。

形 状 隅丸方形

規 模 4.23×4.35m

方 位 N-21°-E

床 面 面積16.30m²。確認面からの深さ12cm。貼床が縁辺部にみられる。

柱 穴 主柱穴P1~P4の4本があり、径49~28cm、床面からの深さ62~85cmを測る。

周 溝 深さ6~2cmで全周する。

炉 地床炉が北側主柱穴間に配置されている。楕円形をした浅い掘り込みを南北に2つ連ねた形状で、南側の掘り込みには、片扁平な川原石があったが底面には接地していない。

その他 掘方は壁際を溝状に全周する。

遺 物 覆土中から土師器甕・鉢などの破片が少量出土している。

23号住居跡（第51図 写図27）

位 置 調査区中央部C7グリッド。同時代の集落では最も東辺に位置し、13号住居からは北東に3m離れている。

重複 西壁が攪乱を受けている。

形状 隅丸方形

規模 4.37×3.95m

方位 不明

床面 面積14.81m²。後世の削平により、確認面において床下に達していたが、縁辺部には貼床の痕跡がある。

柱穴 主柱穴（P1～P4）4本。径26～20cm 確認面からの深さ40～43cm。

周溝 なし。

炉 不明。

その他 貯蔵穴は、南東隅と北東隅に2基配置されている。南東隅のP5は楕円形で径60cm深さ26cm、P10は隅丸長方形で、径70cm深さ30cmを測る。掘方は、溝状に掘り込まれている。

遺物 北東隅貯蔵穴P10から薦編み石が1点、南東隅貯蔵穴P5と南東の主柱穴P3から土師器破片が出土している。

25号住居跡（第52・63図 写図27・40）

位置 前回の調査区に寄った西側のE3グリッド。同時代の集落のほぼ西縁付近に位置する。

重複 同時代の26号住居に切られる。

形状 不明。

規模 4.14×—m

方位 N—8°—W

床面 確認面からの深さ16cm。

柱穴 主柱穴なし。

周溝 深さ4～2cmで全周する。

炉 地床炉で北辺中央部に位置する。

その他 南東隅に、径68cm、深さ37cmの楕円形貯蔵穴P1が配置される。

遺物 土師器台付甕・小型埴。床面では壁際に比較的多く出土する。

26号住居跡（第53・64図 写図27・40）

位置 調査区西側E3グリッド。同時代の集落の西縁に位置する。

重複 同時代の25号住居を切る。

形状 隅丸長方形

規模 5.11×4.14m

方位 不明。

床面 面積19.88m²。確認面からの深さ20cm。中央部が硬化している。貼床は全面になされている。

柱穴 主柱穴なし。

周溝 深さ8～3cm。

炉 なし。

その他 南辺東寄りに径54cm深さ60cmの円形貯蔵穴P1が配置される。

遺物 土師器S字甕、器台、鉢。

28号住居跡（第54・65図 写図28・40）

位置 調査区西側C3グリッド。該期の集落西縁に位置し、21号住居からは西に2mである。

重複 奈良時代の27号住居に切られる。

形状 残存する形状から隅丸方形と推定される。

規模 4.37×4.35m

方位 不明。

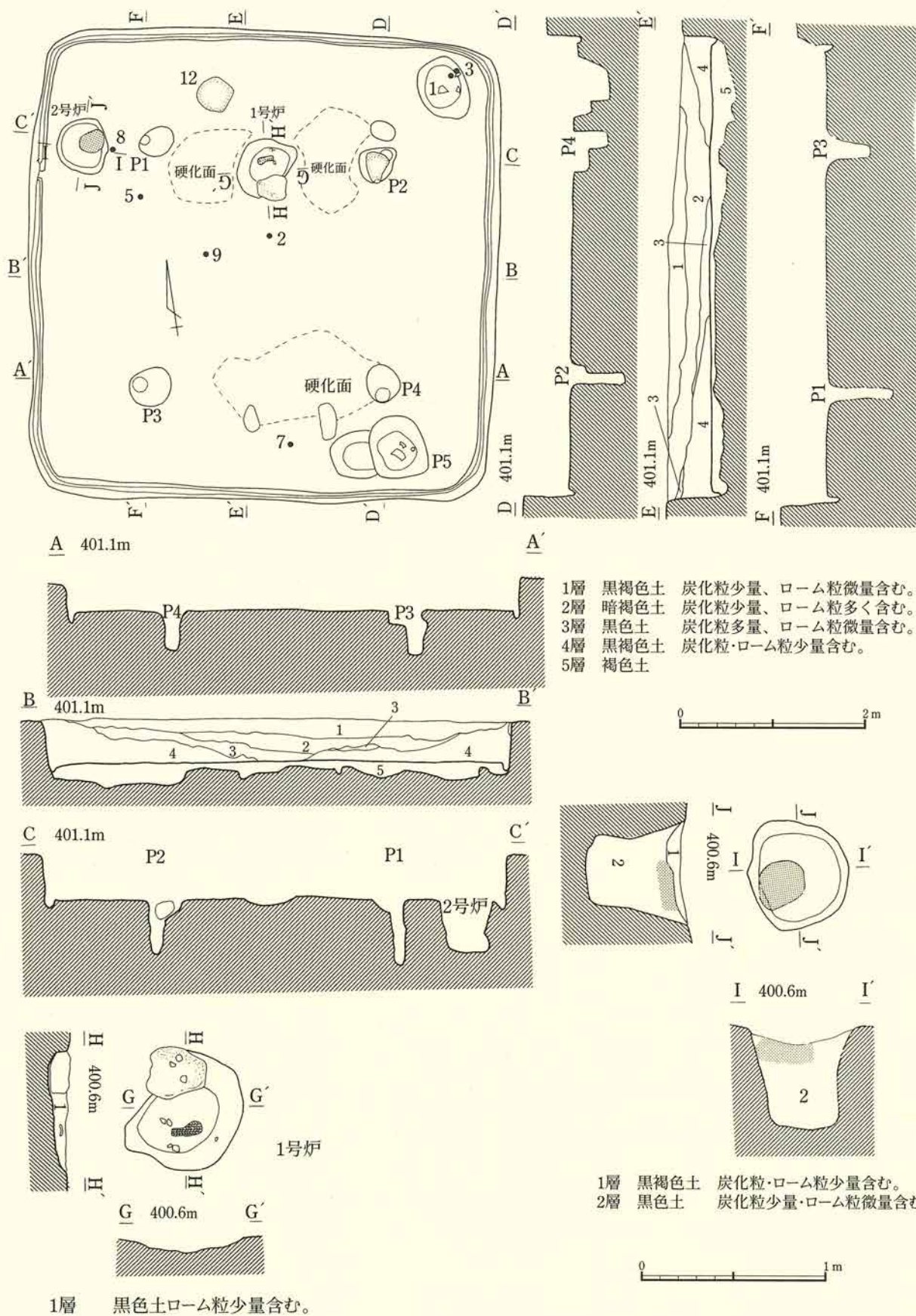
床面 面積9.36m²。確認面からの深さ26cm。縁辺部に貼床が認められる。

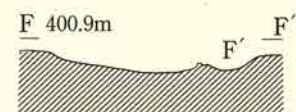
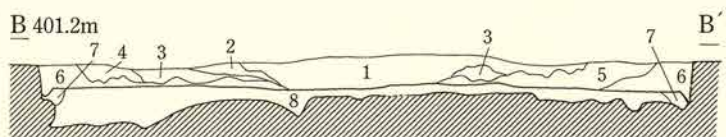
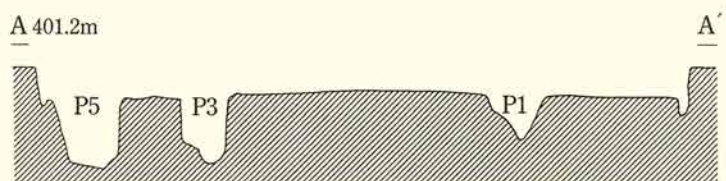
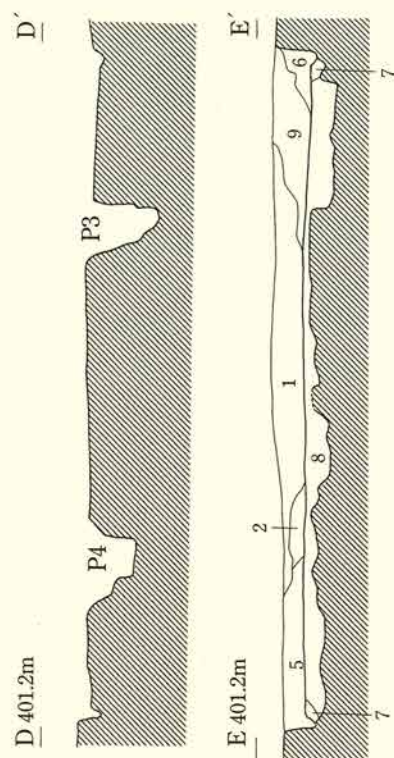
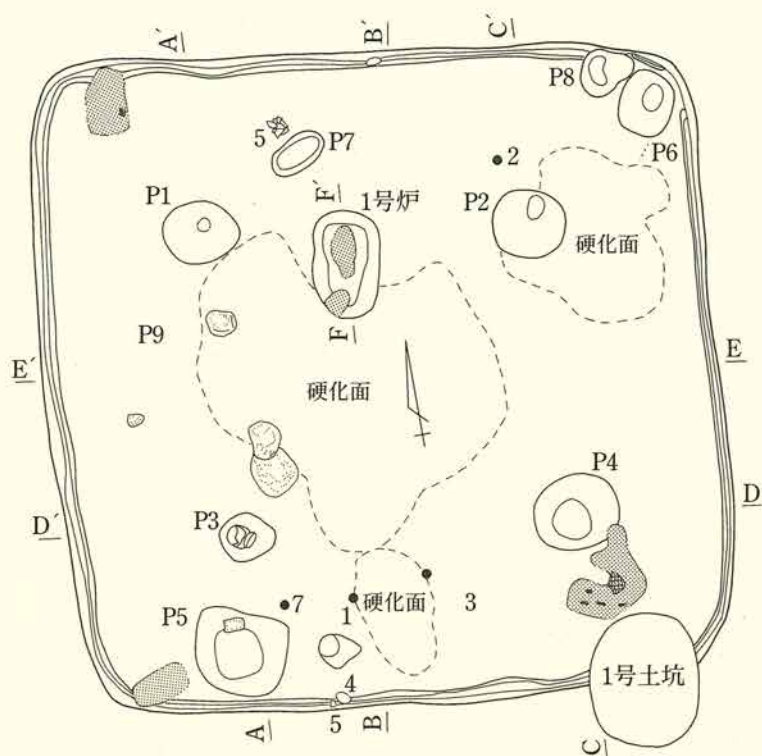
柱穴 径30cm前後で床面からの深さ55～32cmを測る主柱穴はP1～4の4本で、西側2本は27号住居跡床下で確認された。

周溝 深さ4～3cm。

炉 不明。

遺物 覆土中から石製管玉が出土している他、土師器破片が少量出土している。

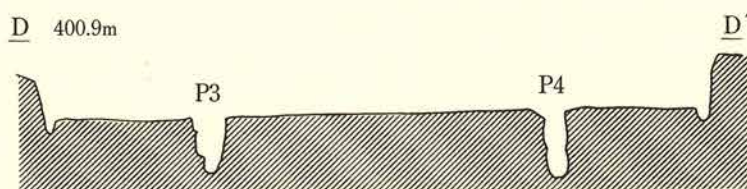
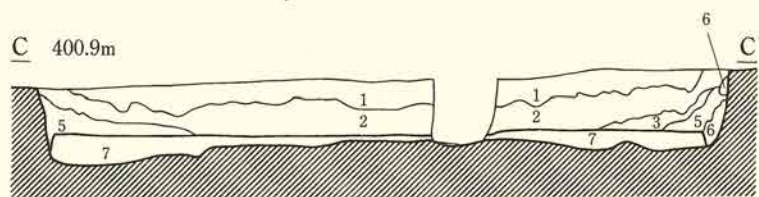
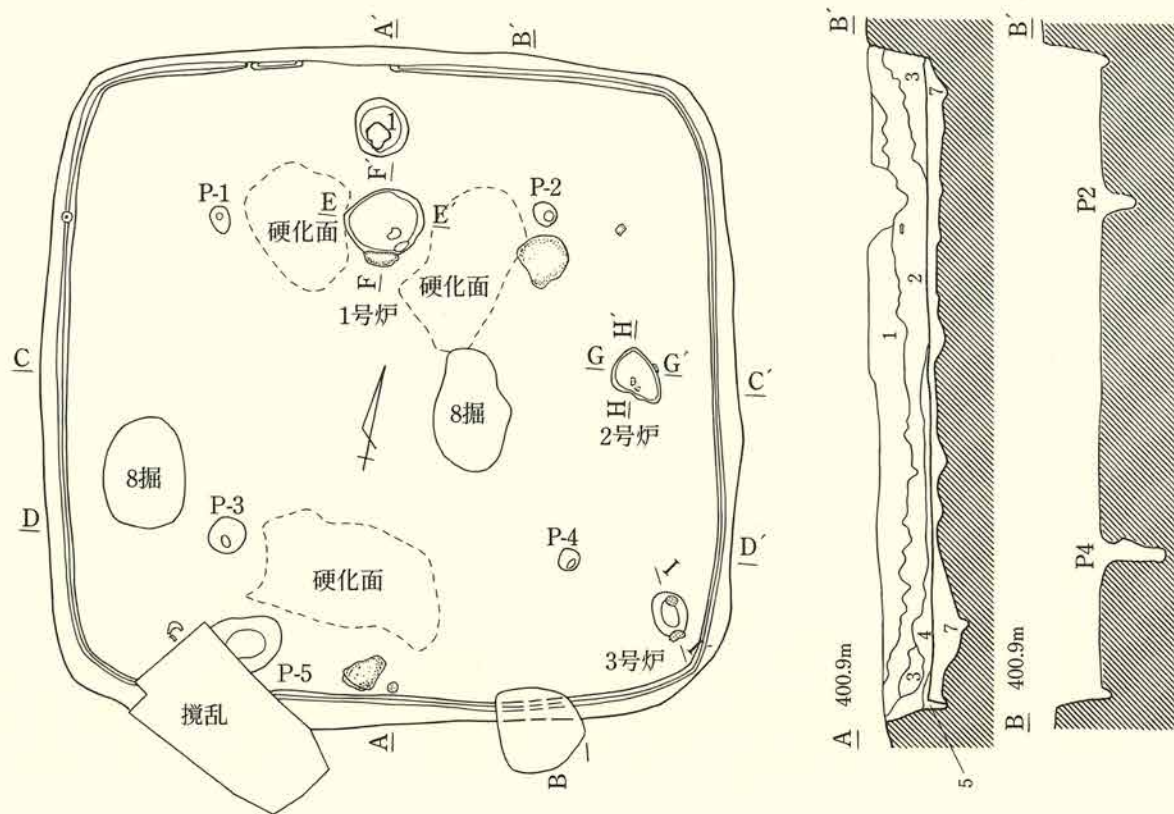




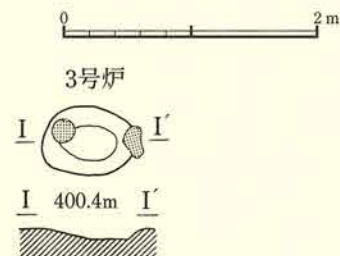
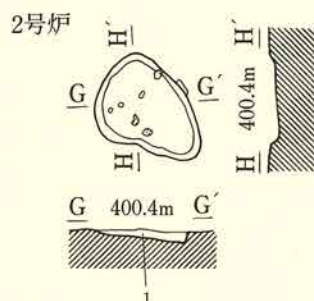
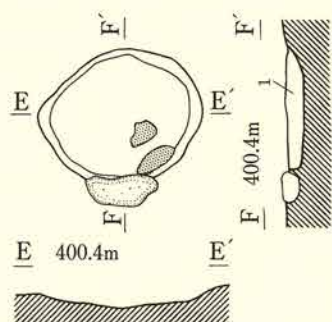
- | | | |
|----|------|-----------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含む。 |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒多量含む。 |
| 3層 | 黒色土 | 焼土粒微量、炭化粒多く含む。 |
| 4層 | 黒褐色土 | 焼土粒多量含む。 |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含む。 |
| 6層 | 黒褐色土 | 炭化粒多量・ローム粒少量含む。 |
| 7層 | 黒褐色土 | 炭化粒・ローム粒多量含む。 |
| 8層 | 褐色土 | 炭化粒・ローム粒多量含む。 |



第42図 13号住居跡実測図

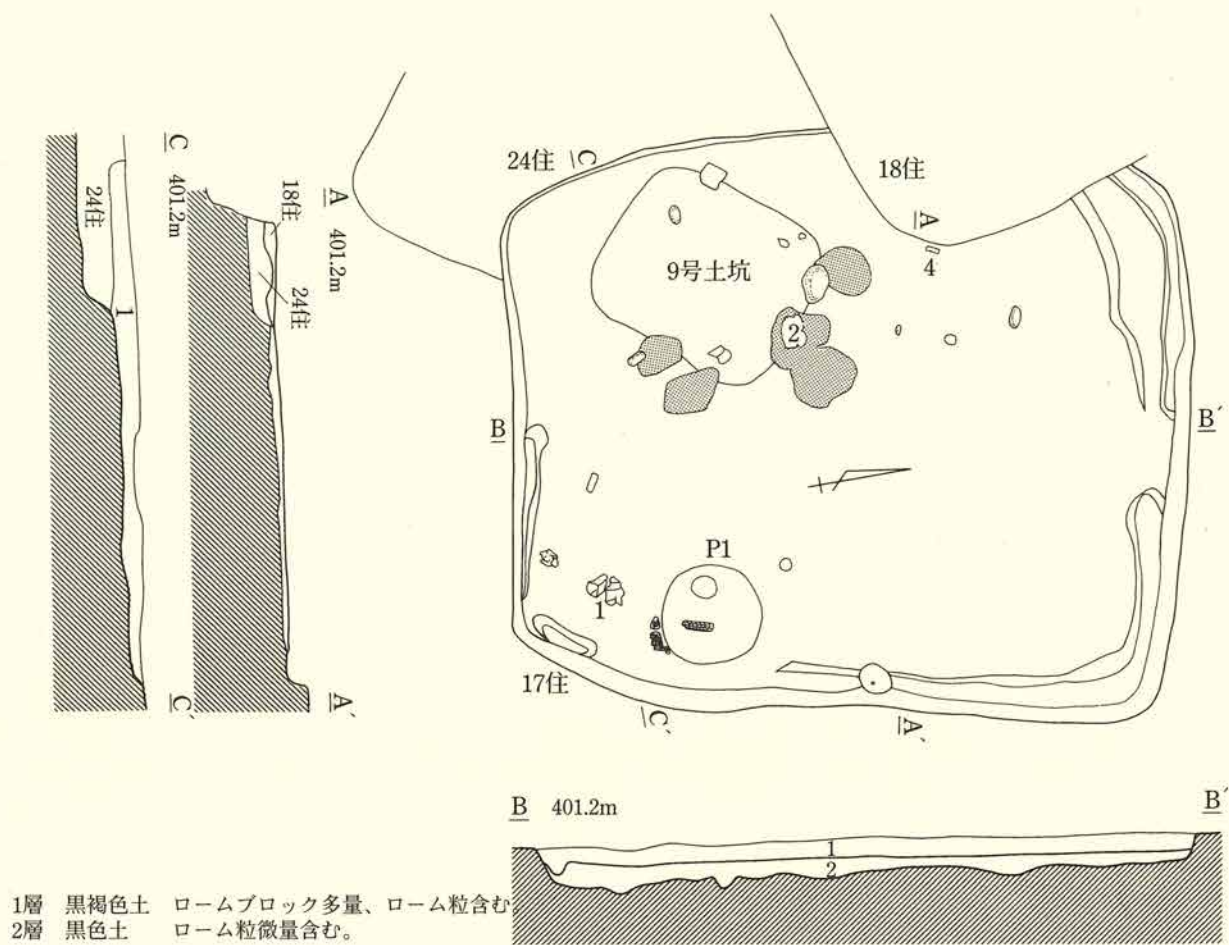


- 1層 黒色土 炭化粒・ローム粒微量含む。
 2層 暗褐色土 炭化粒・ローム粒多く含む。
 3層 黒色土 ローム粒少量含む。
 4層 黒褐色土 ローム粒少量含む。
 5層 黒褐色土 ローム粒多く含む。
 6層 褐色土
 7層 黒褐色土 ローム粒多く含む。

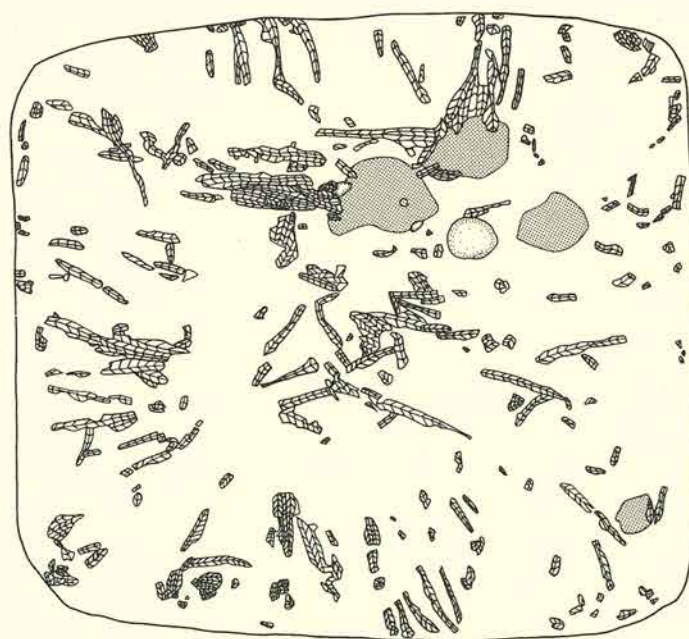


1層 黒褐色土 ローム粒少量含む。 1層 黒色土 焼土粒多く・ローム粒少量含む。

第43図 14号住居跡実測図

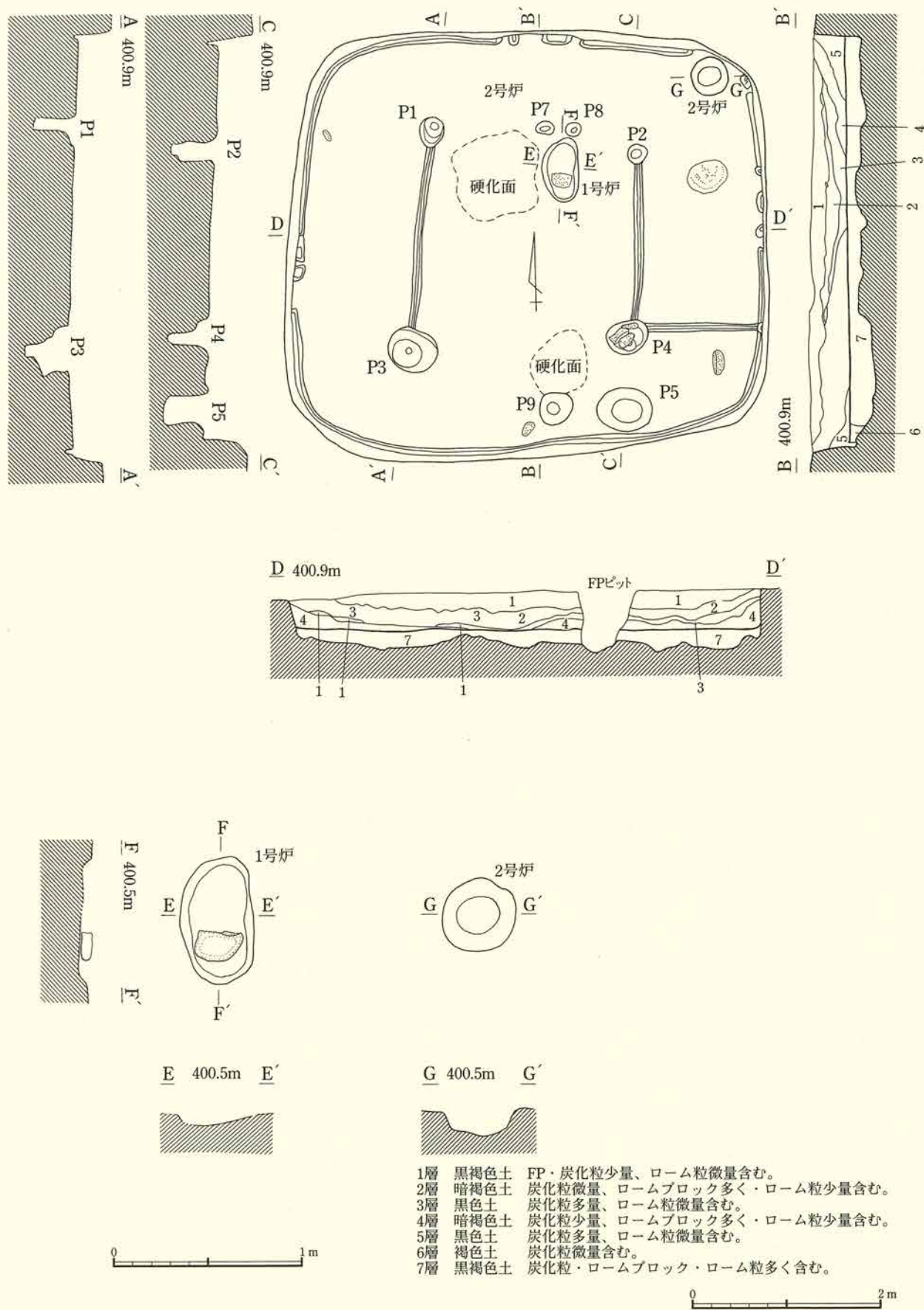


第44図 17号住居跡実測図

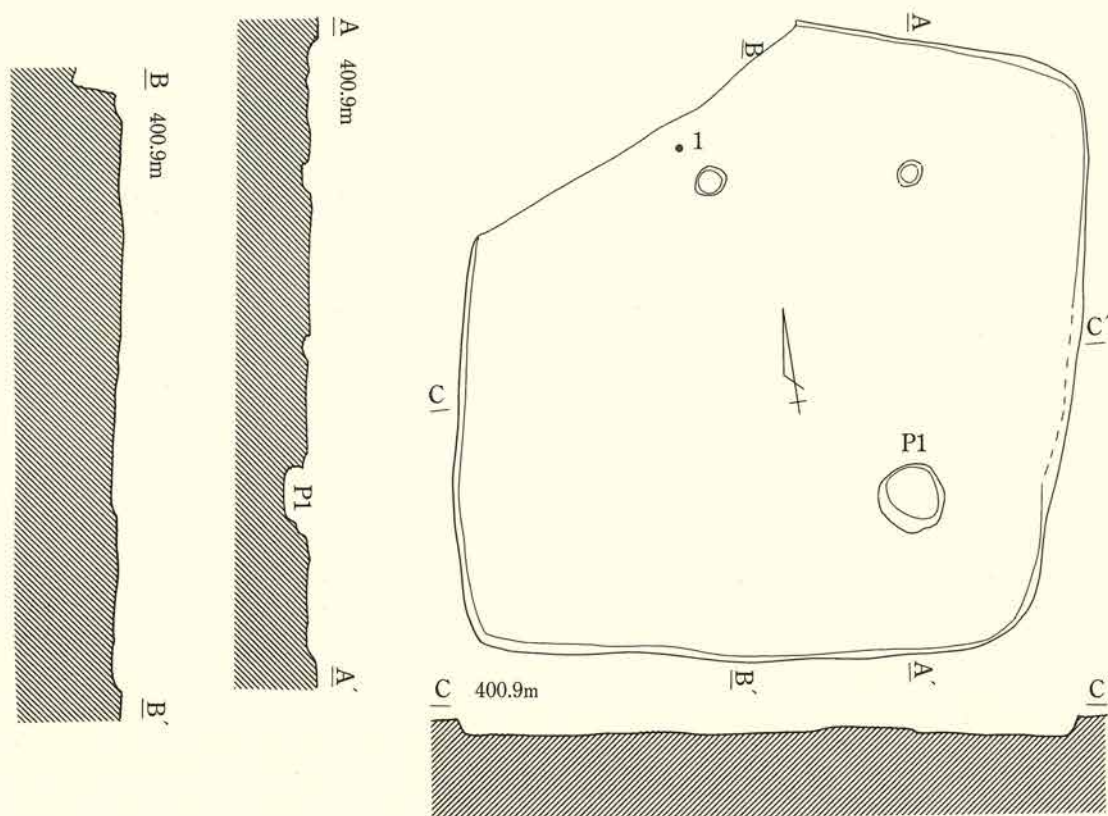


0 2 m

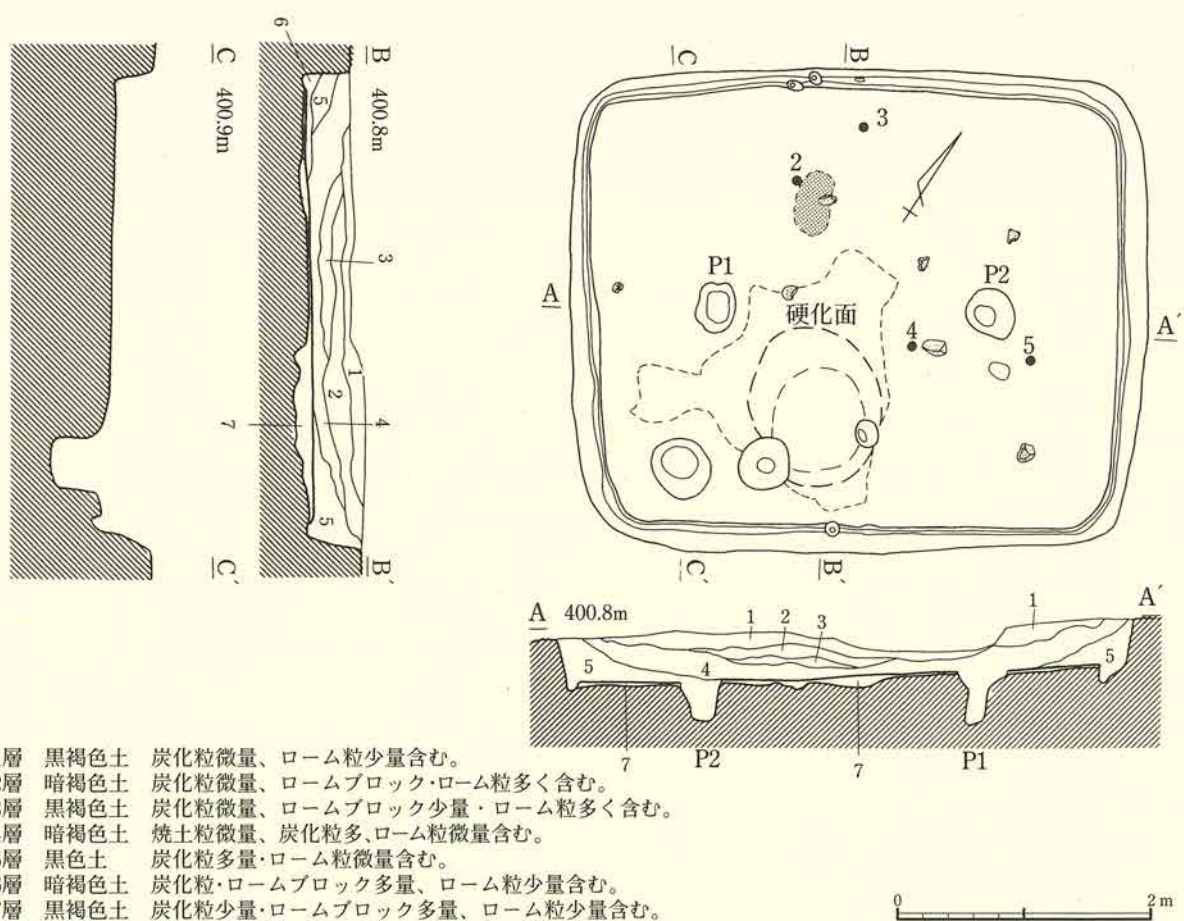
第45図 18号住居跡実測図(1)



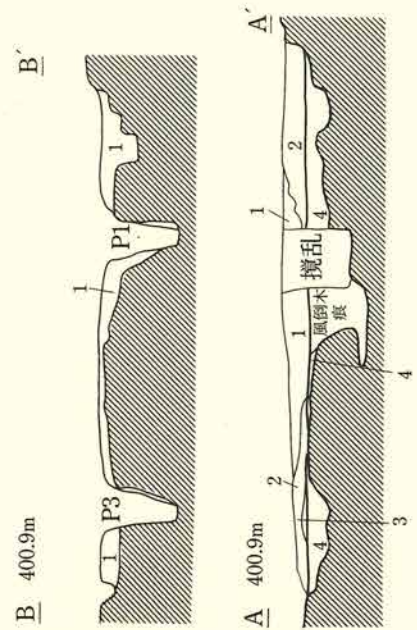
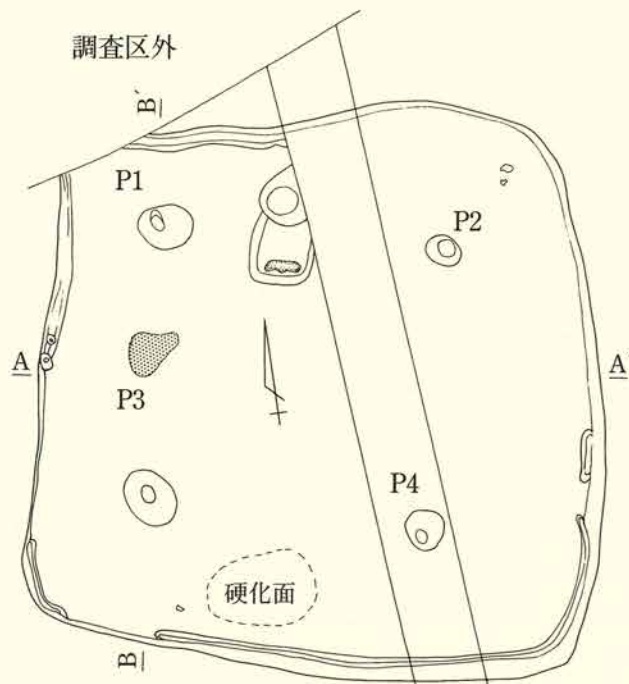
第47図 19号住居跡実測図



第48図 20号住居跡実測図

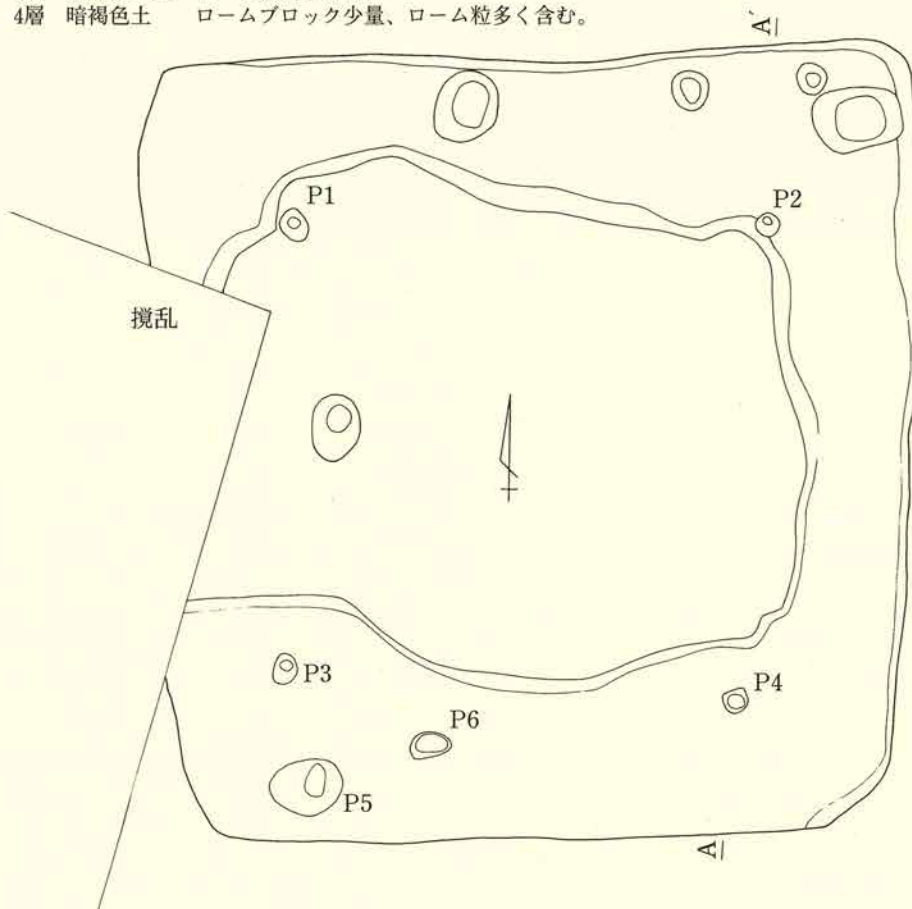


第49図 21号住居跡実測図

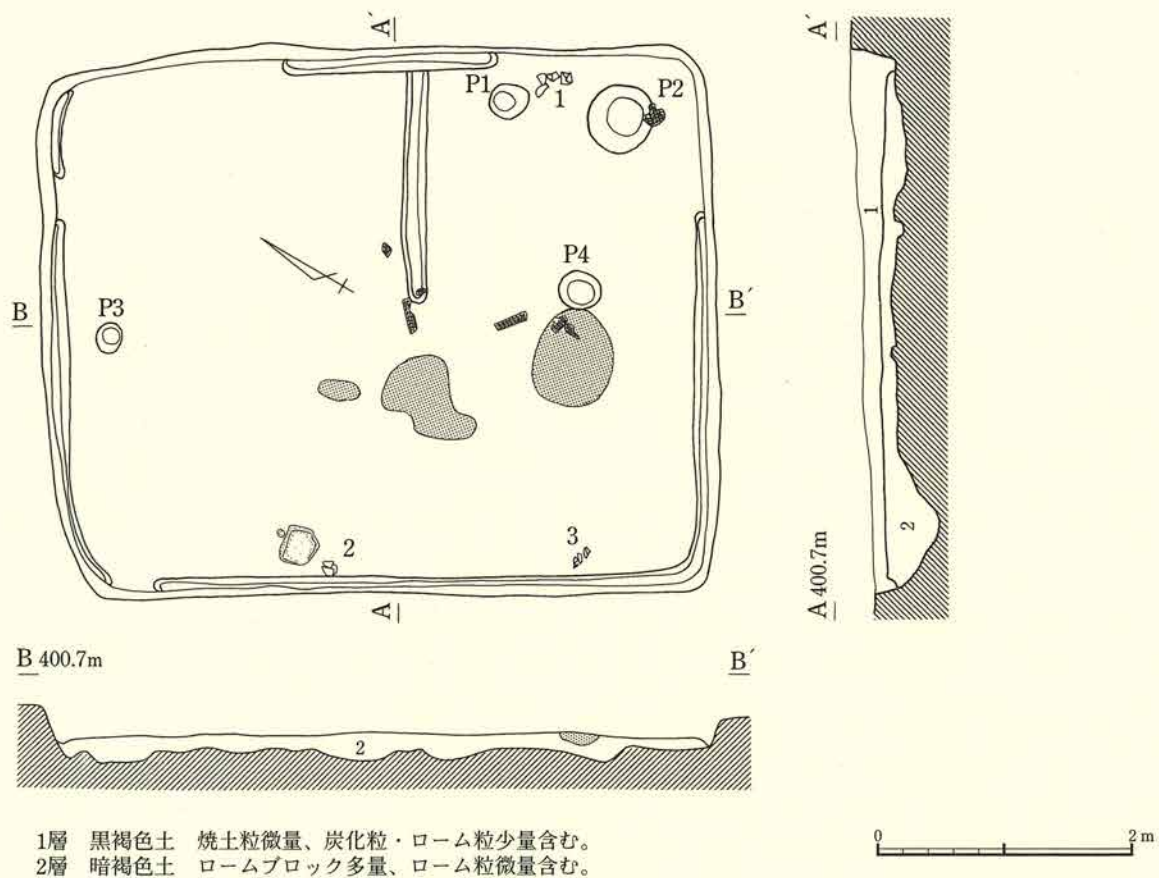
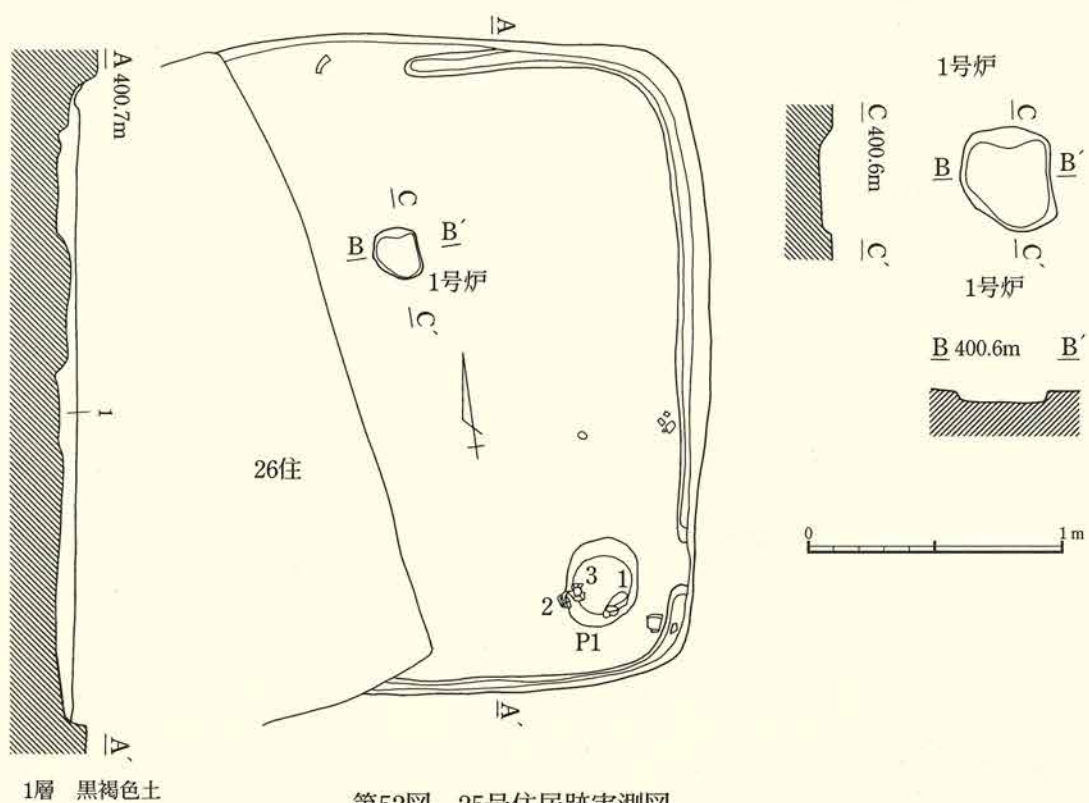


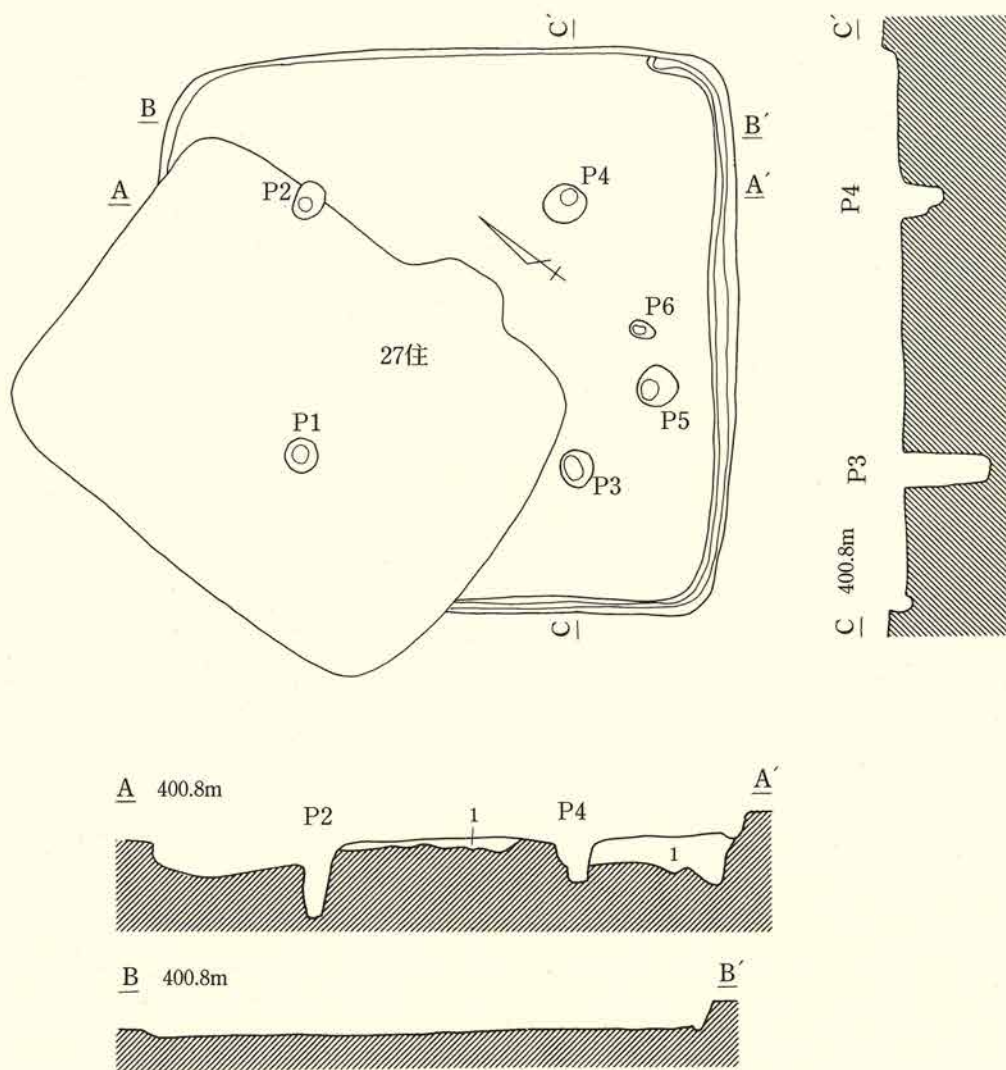
第50図 22号住居跡実測図

- | | | |
|----|-------|---------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | 炭化粒・ローム粒少量含む。 |
| 2層 | 黒褐色土 | 炭化粒少量、ローム粒多量含む。 |
| 3層 | 明赤褐色土 | ローム粒少量含む。 |
| 4層 | 暗褐色土 | ロームブロック少量、ローム粒多く含む。 |



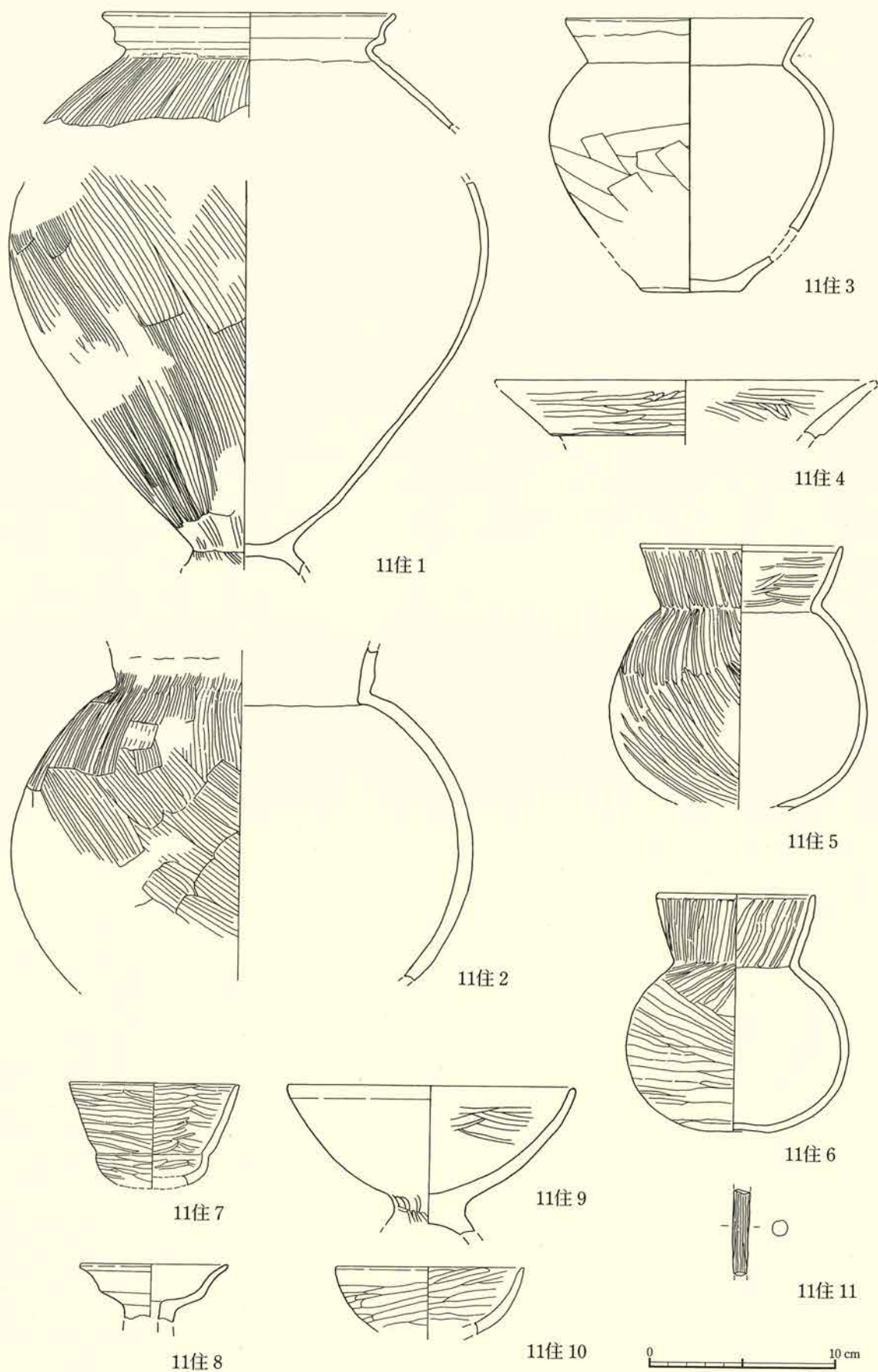
第51図 23号住居跡実測図



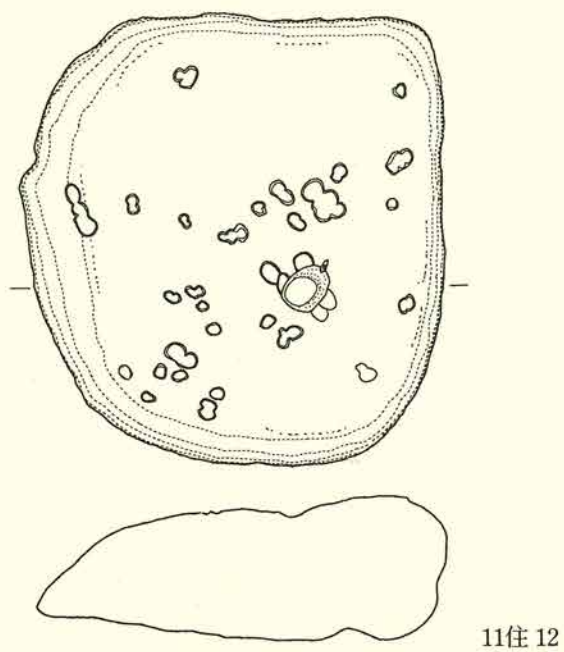


1層 黒褐色土 YP少量、ロームブロック多量、ローム粒少量含む。

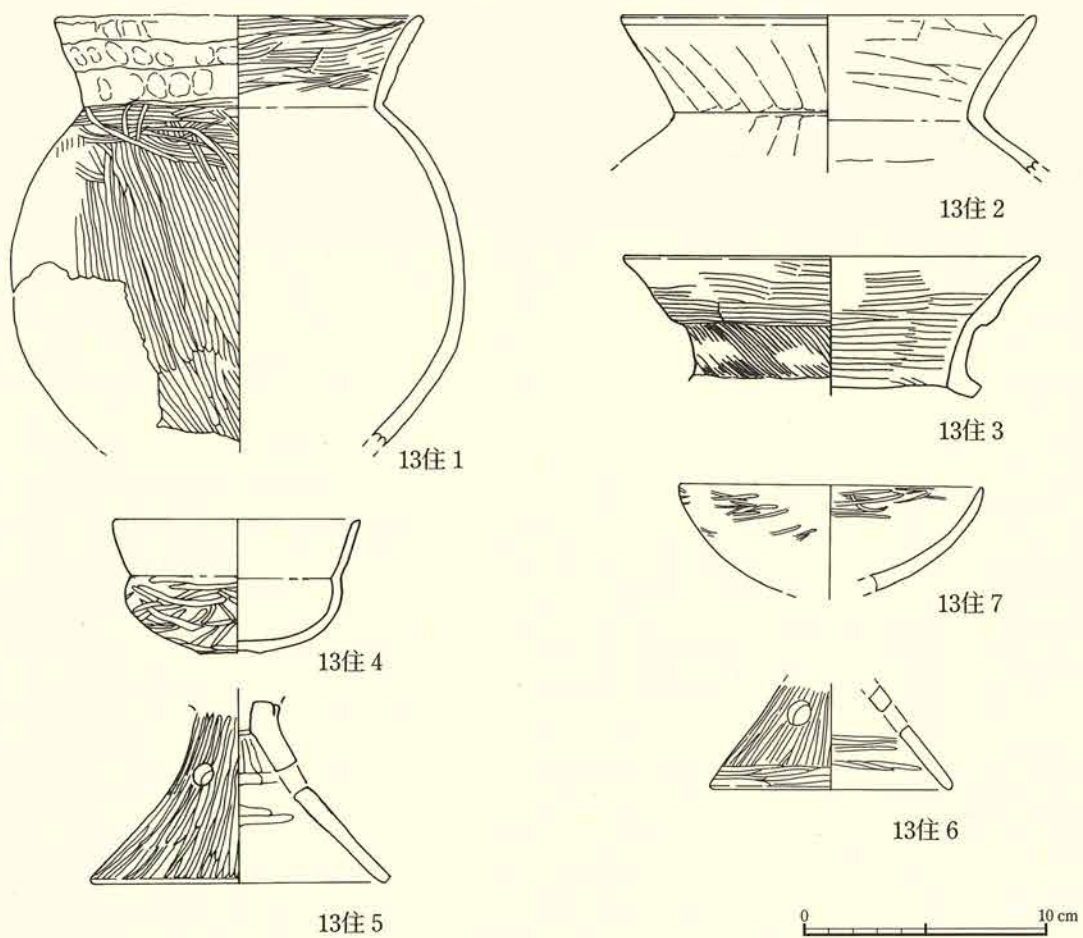
第54図 28号住居跡実測図



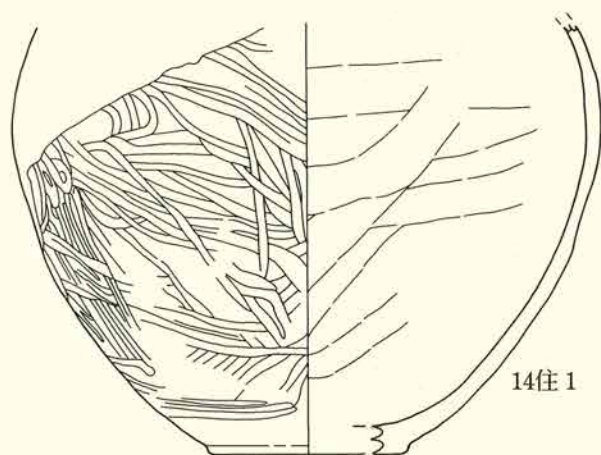
第55図 11号住居跡出土遺物実測図(1)



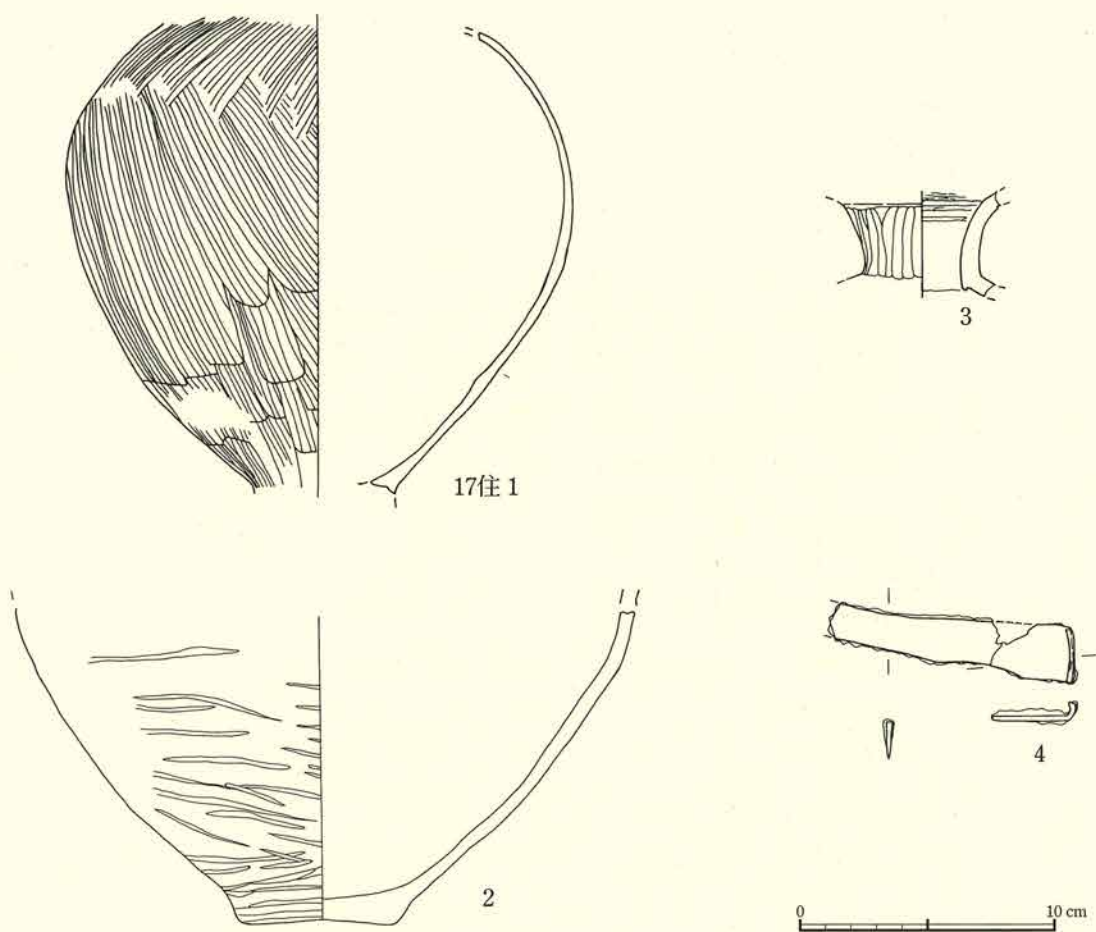
第56図 11号住居跡出土遺物実測図(2)



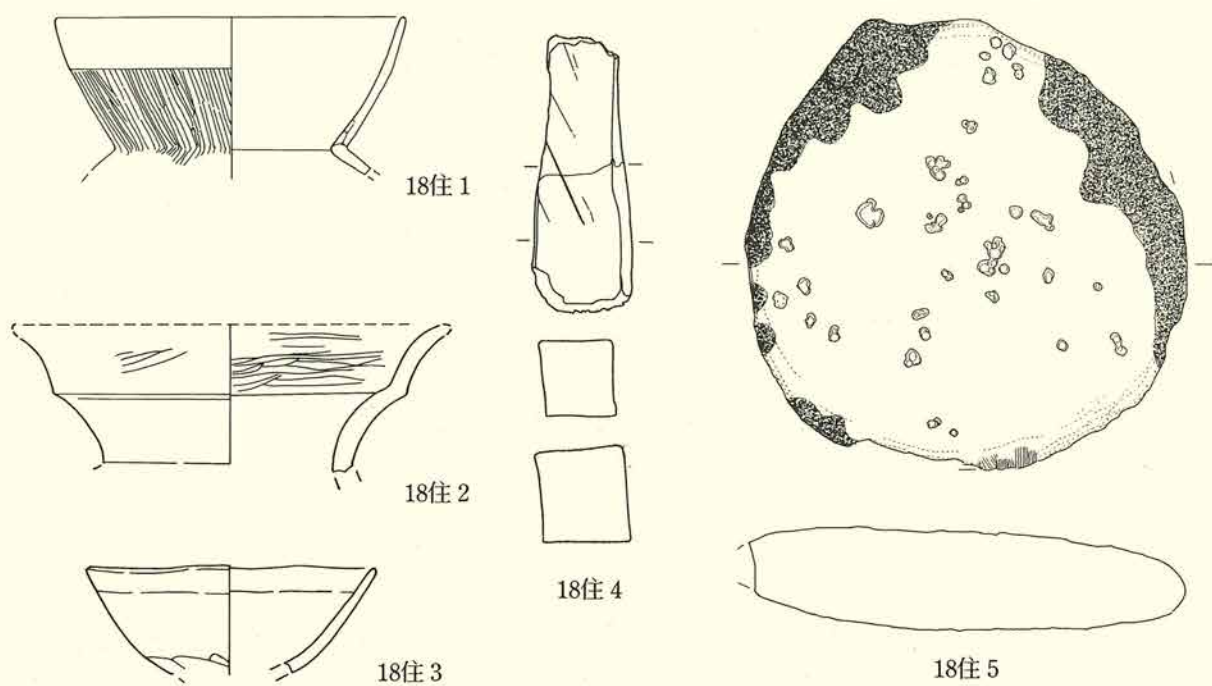
第57図 13号住居跡出土遺物実測図



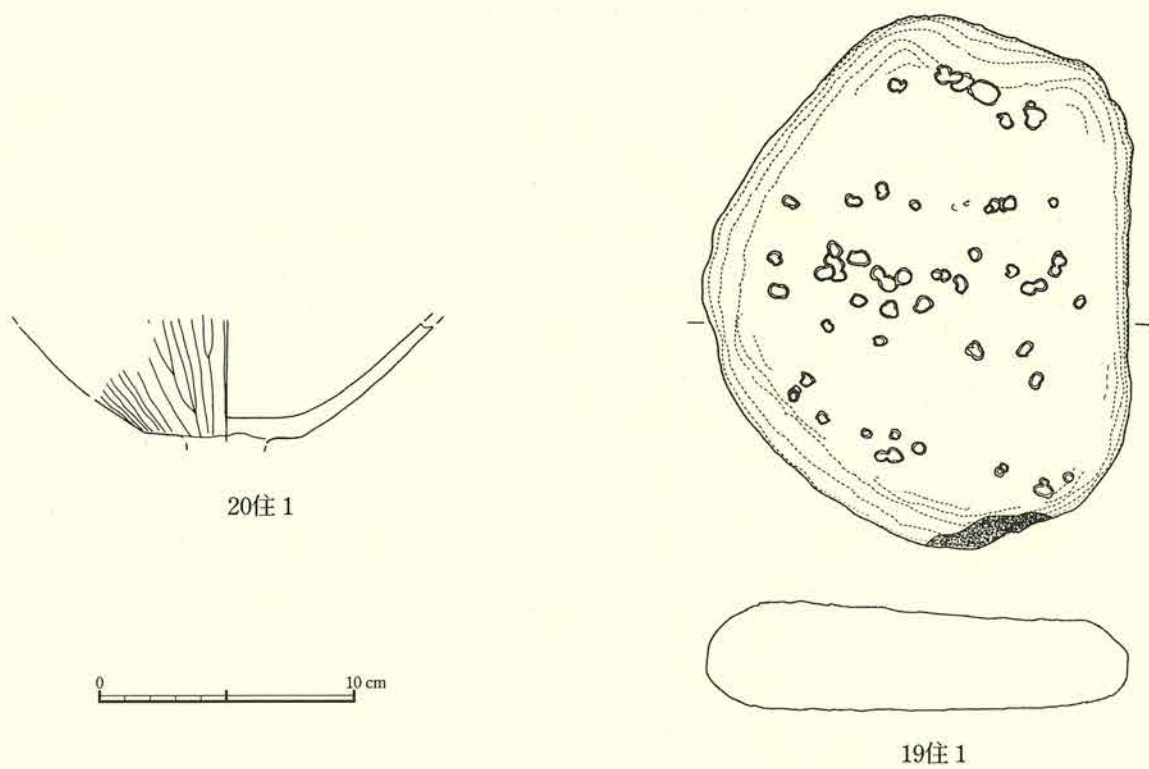
第58図 14号住居跡出土遺物実測図



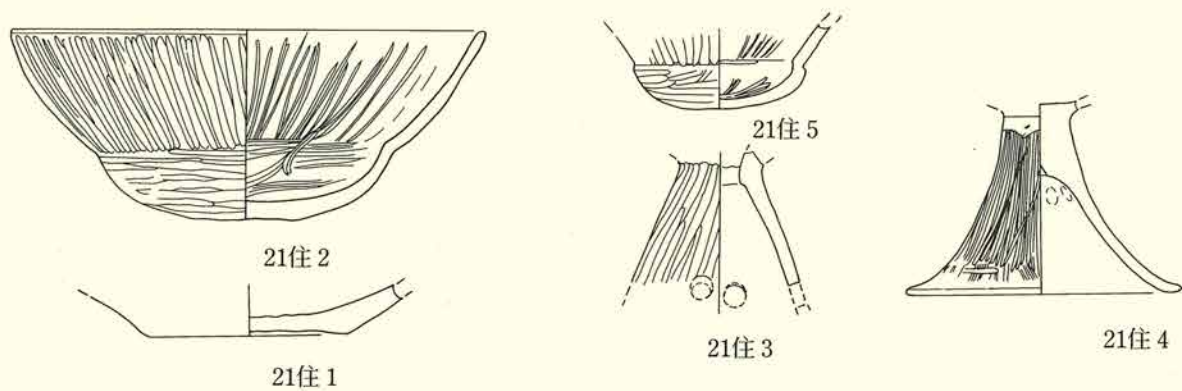
第59図 17号住居跡出土遺物実測図



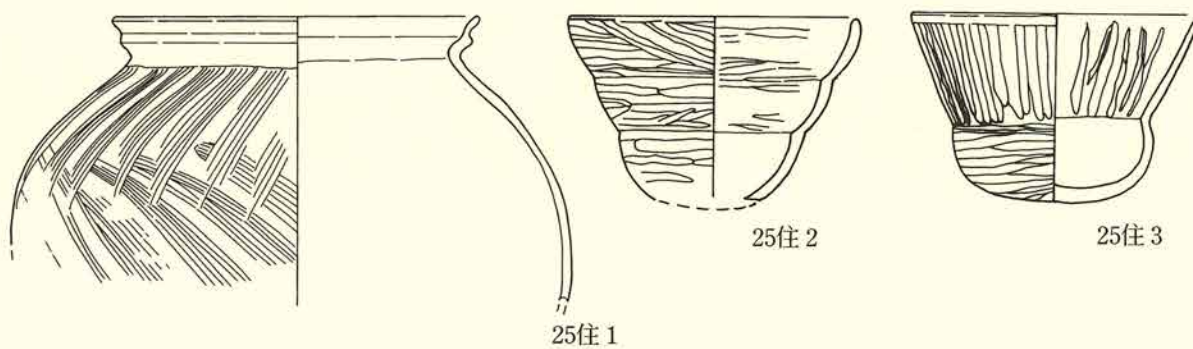
第60図 18号住居跡出土遺物実測図



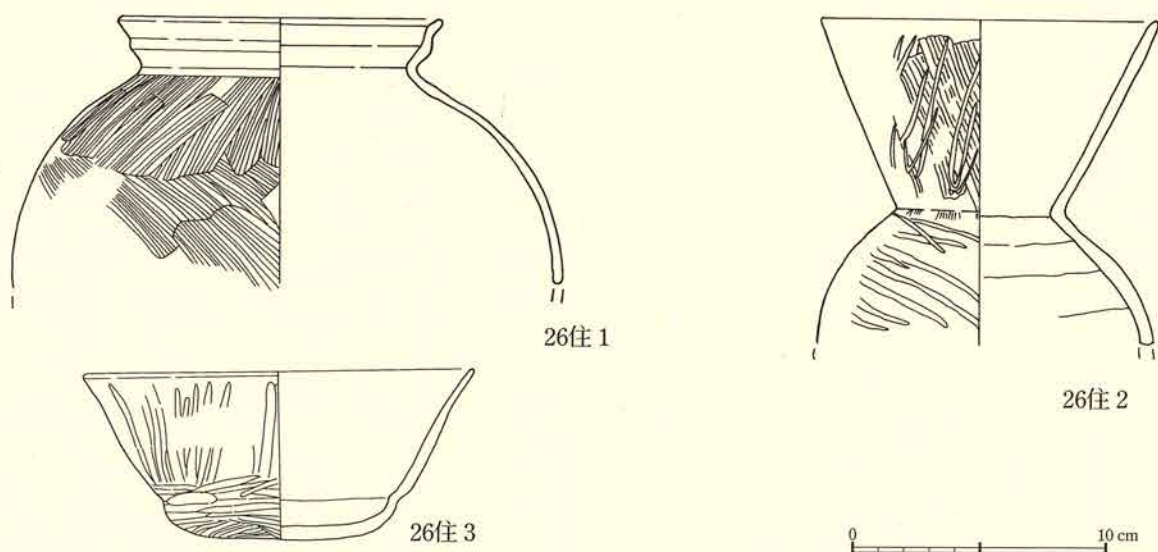
第61図 19・20号住居跡出土遺物実測図



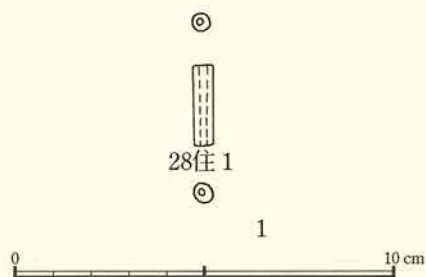
第62図 21号住居跡出土遺物実測図



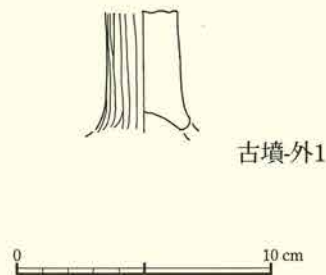
第63図 25号住居跡出土遺物実測図



第64図 26号住居跡出土遺物実測図



第65図 28号住居跡出土遺物実測図



第66図 古墳時代遺構外出土遺物実測図

3 奈良・平安時代以降

平成14年度調査において、奈良・平安時代及び、それ以降に構築された遺構は、住居跡5軒、掘立柱建物跡2棟である。

12号住居跡（第67・73図 写真28・41）

位置 調査区中央D 6グリッド。同時代の16号住居からは南側に5 m離れている。

重複 古墳時代前期の13号住居と重複する。

形状 隅丸方形

規模 5.30×4.91m

方位 N-8°-E

床面 床面積 22.53m²。確認面からの深さ5 cm。硬化面は北辺と南辺の支柱穴間にみられる。貼床は全面に施されている。

柱穴 床面で検出された支柱穴は楕円形をした4本で、径76~53cm、床面からの深さは93~58cmで南壁に寄っている。掘方からは、さらに4本の柱穴痕が中央部から検出された。

周溝 深さ10~4cmで全周する。

竈 東壁のほぼ中央に設置。両袖石とずり落ちた状態の天井石が検出されている。

その他 掘方は、南壁~西壁南際にかけてL字形の溝状に掘り込まれている。また遺構中央と北東隅に床下土坑がある。

遺物 床面では中央部~竈付近にかけて分布している。土師器坏、須恵器坏・壺・蓋、が出土している。

16号住居跡（第68・73図 写真29・41）

位置 調査区中央部C 5グリッド。同時代の21号住居跡からは北に5 mの離れている。

重複 覆土にFPが混入するピットに切られる。

形状 長方形

規模 3.82×3.28m

方位 N-19°-E

床面 面積13.37m²。ほぼ床面に達している。縁辺に貼床が認められる。

柱穴 なし。

周溝 深さは4~2cm、コの字状に巡る。

竈 東壁の南側に設置。遺存状況不良。

その他 掘方は、南壁と西壁際をL字形の溝状に掘り込んでおり、東壁際に楕円形をした床下土坑があった。

遺物 竈と竈周辺に集中する。土師器甕・坏、須恵器蓋。

27号住居跡（第69・73図 写真29・41）

位置 調査区西側C 3グリッド。同時代の集落の西縁で、29号住居からは北へ12mである。

重複 古墳時代前期の28号住居を切る。

形状 長方形

規 模 3.69×2.82m

方 位 N-18 ° -W

床 面 床面積9.72m²。確認面からの深さ8cm。
全面にわたって硬化面があり、貼床が施されている。

柱 穴 主柱穴なし。

周 溝 深さ3~2cmで、北壁~西壁にかけてL
字に掘り込む。

竈 東壁中央部やや南寄りに設置される。
両袖石が残存している。

遺 物 土師器坏。

29号住居跡 (第70・73図 写図30・41)

位 置 調査区西側E 3グリッド。同時代の集
落の西縁である。27号住居からは南へ12mの位
置にある。

重 複 なし。

形 状 長方形

規 模 2.53×2.07m

方 位 N-6 ° -W

床 面 床面積5.04m²。確認面からの深さ18
cm。全体に硬化面している。貼床は西壁~南壁
際にかけての縁辺部にみられる。

柱 穴 主柱穴なし。

周 溝 なし。

竈 東壁中央に設置され、右袖が残存して
いる。トレンチ状の攪乱により上部が破損して
いたが、構材と思われる礫が原位置からやや動
いた状態で検出されている。

その他 南東隅に径55cm深さ10cmの楕円形土坑
がある。

遺 物 土師器坏、須恵器甕破片。遺物は竈付
近に集中する。

30号住居跡 (第71・73図 写図30・42)

位 置 調査区東端D 7グリッド。本遺跡では
唯一の平安時代の住居である。

重 複 時期不明の15号土坑に切られる。

形 状 長方形

規 模 5.52×4.89m

方 位 N-8 ° -W

床 面 面積24.82m²。確認面からの深さ5cm。
縁辺部に貼床がみられる。

柱 穴 径60~38cmで床面からの深さ62~32
cmの主柱穴3本が確認され、南東の主柱穴は15
号土坑に切られている。

周 溝 深さ14~6cmでほぼ全周している。

竈 東壁中央部に設置される。

遺 物 土師器甕。須恵器坏。

8号掘立柱建物跡 (第72図 写図31)

位 置 調査区中央部で前回の調査区にはほぼ接
しているE 5グリッドに位置する。

重 複 古墳時代前期の14号住居を切っている。

形 状 柱穴が4本ありほぼ方形をなしている。

規 模 現状で1間(2.86m)×1軒(2.65m)

棟方向 N-8° -W

柱 穴 径85~54cm深さ67~47cm。

遺 物 東辺南側の柱穴P3内から土師器片少
量が出土している。

9号掘立柱建物跡 (第72図 写図31)

位 置 調査区西側D 3グリッド。

重 複 なし。

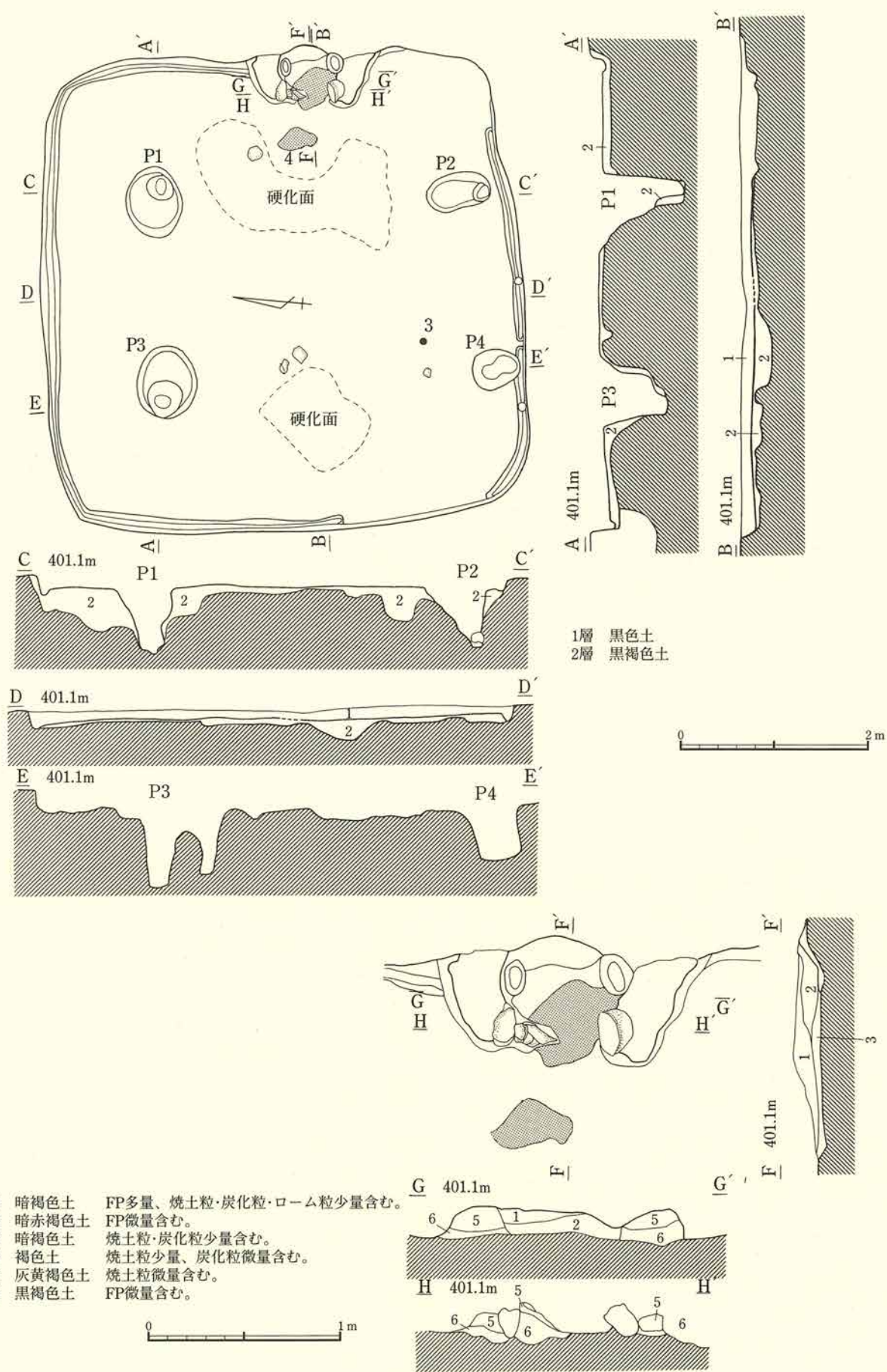
形 状 長方形

規 模 本来2軒(3.86m)×2軒(3.81m)
であったと推定される。

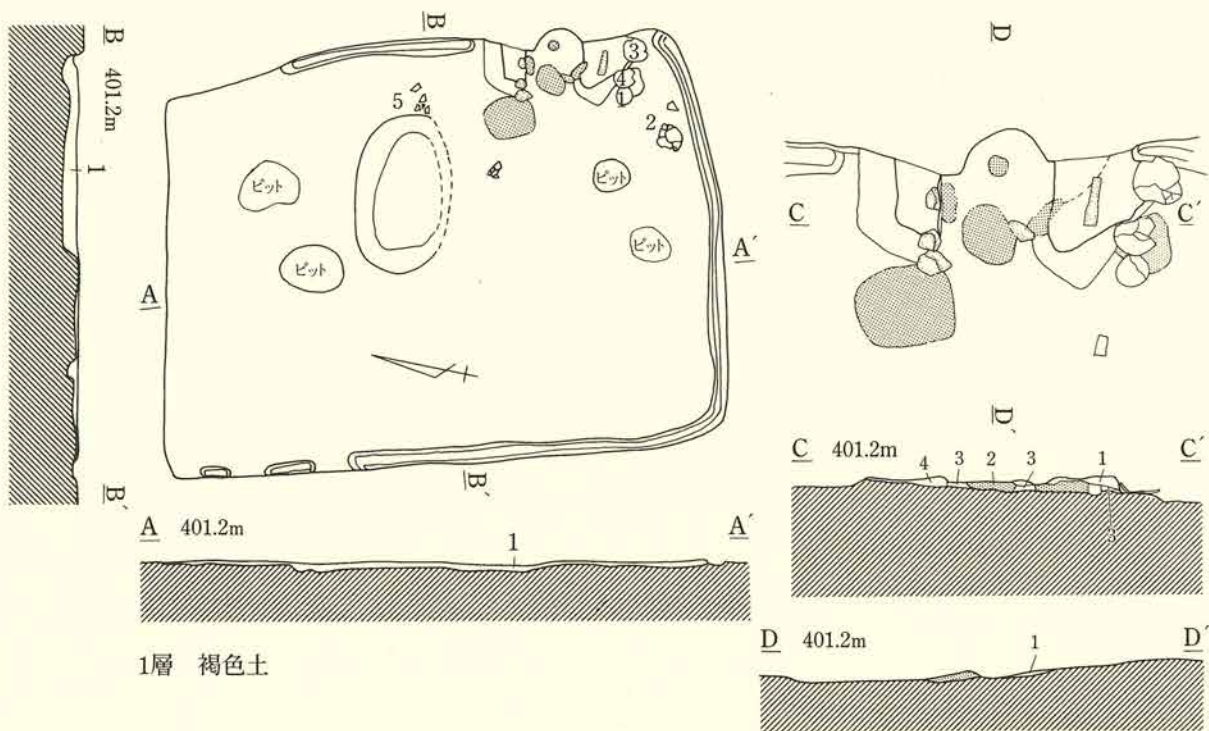
棟方向 N-82 ° -W

柱 穴 径61~34cmで深さ28~6cm。

遺 物 南西の柱穴P5から根石と思われる礫
が検出され、覆土中から土師器破片が出土して
いる。

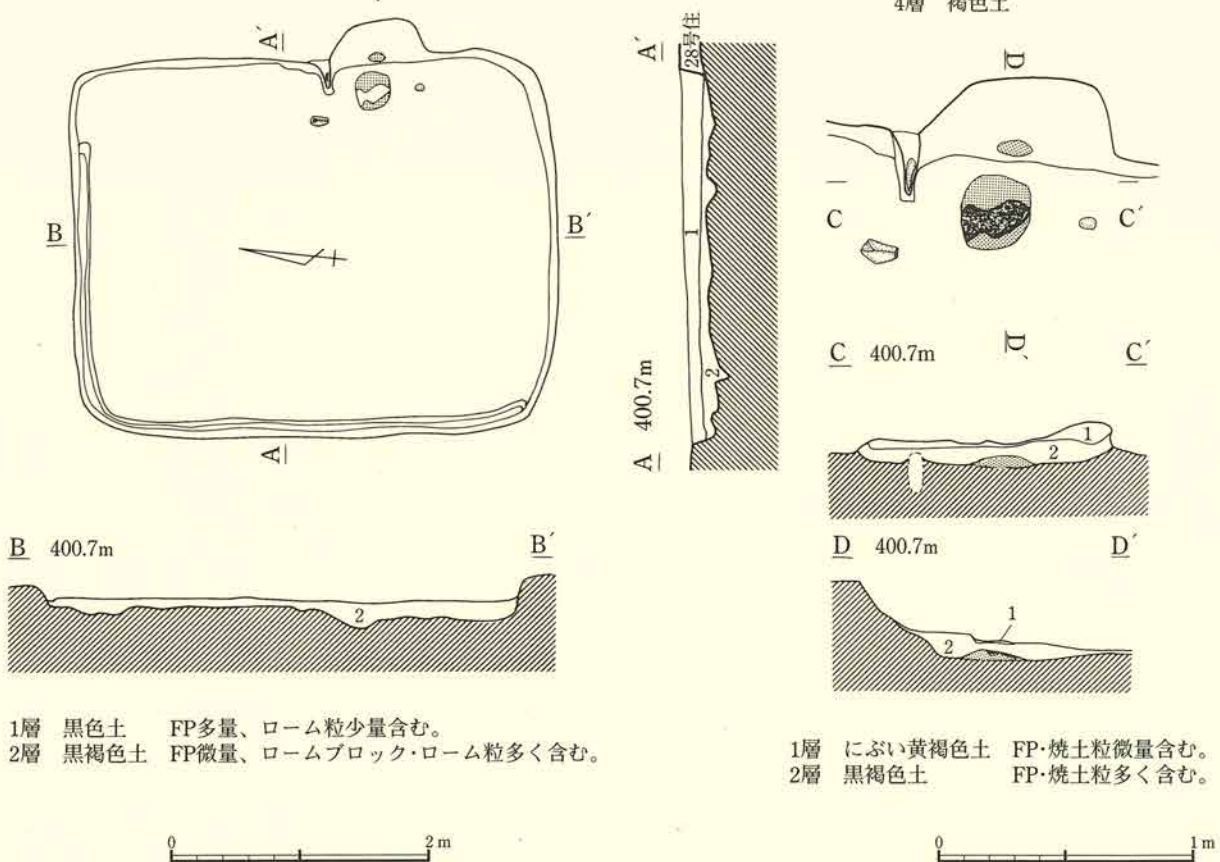


第67図 12号住居跡実測図

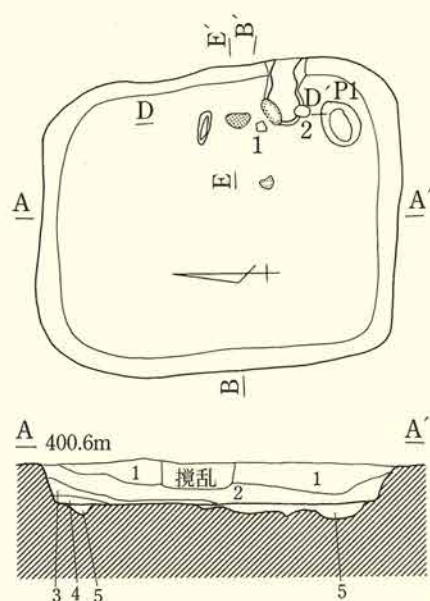


第68図 16号住居跡実測図

1層 褐色土
2層 暗褐色土 炭化粒微量含む。
3層 黒褐色土 焼土ブロック
4層 褐色土

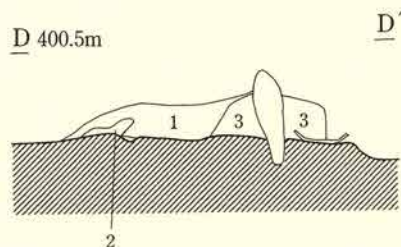
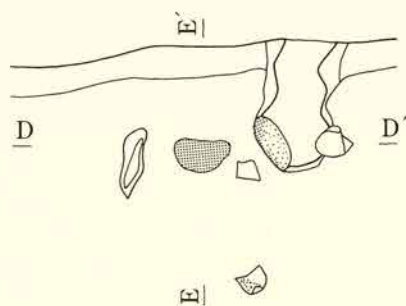


第69図 27号住居跡実測図



- | | | |
|----|------|------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | FP多量、炭化粒・ロームブロック少量含む。 |
| 2層 | 黒色土 | FP・炭化粒・ロームブロック少量含む。 |
| 3層 | 黒褐色土 | FP・炭化粒少量含む。 |
| 4層 | 暗褐色土 | 炭化粒・焼土ブロック少量含む。 |
| 5層 | 暗褐色土 | YP少量、ロームブロック・ローム粒多量含む。 |

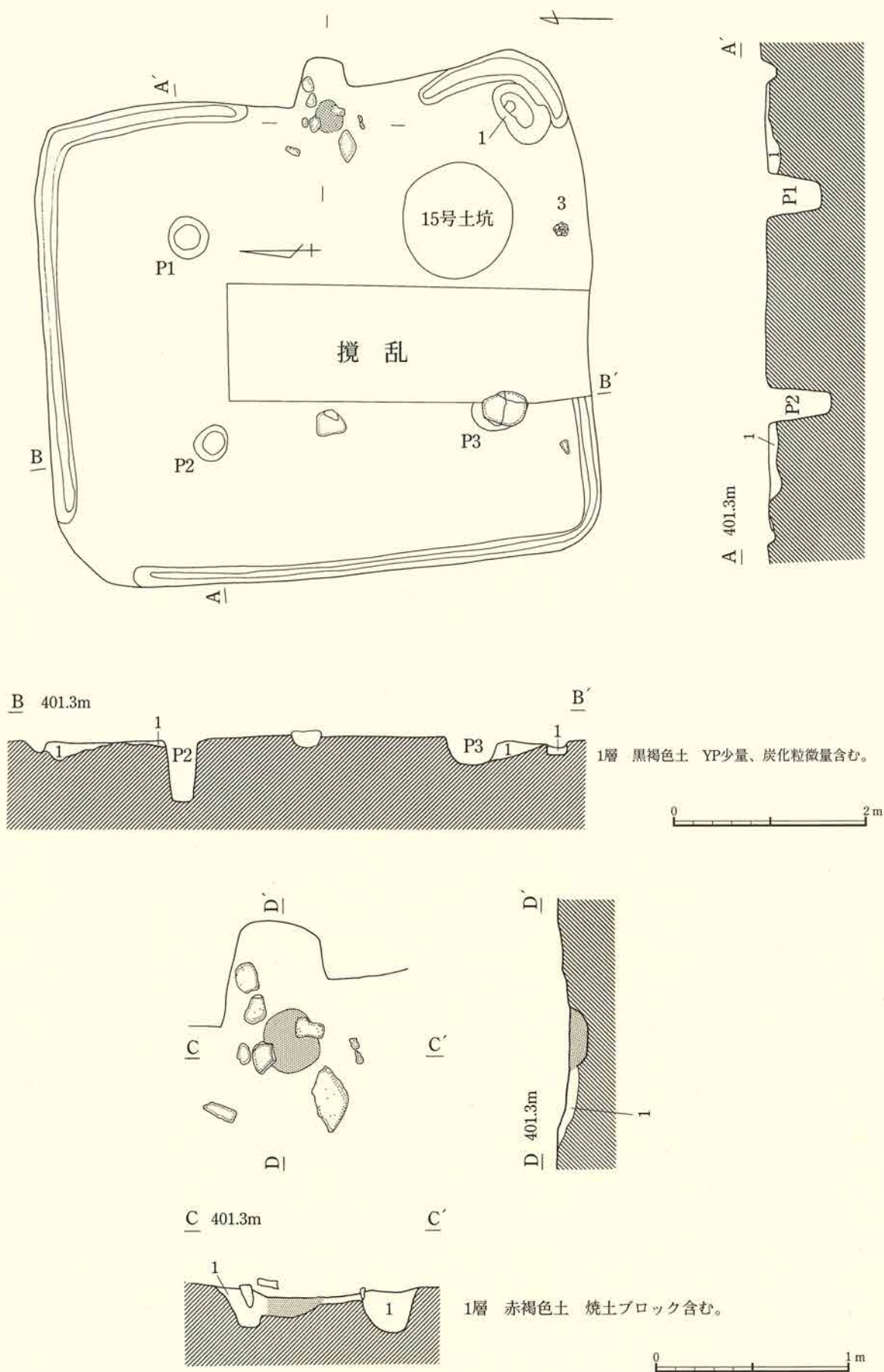
0 2m



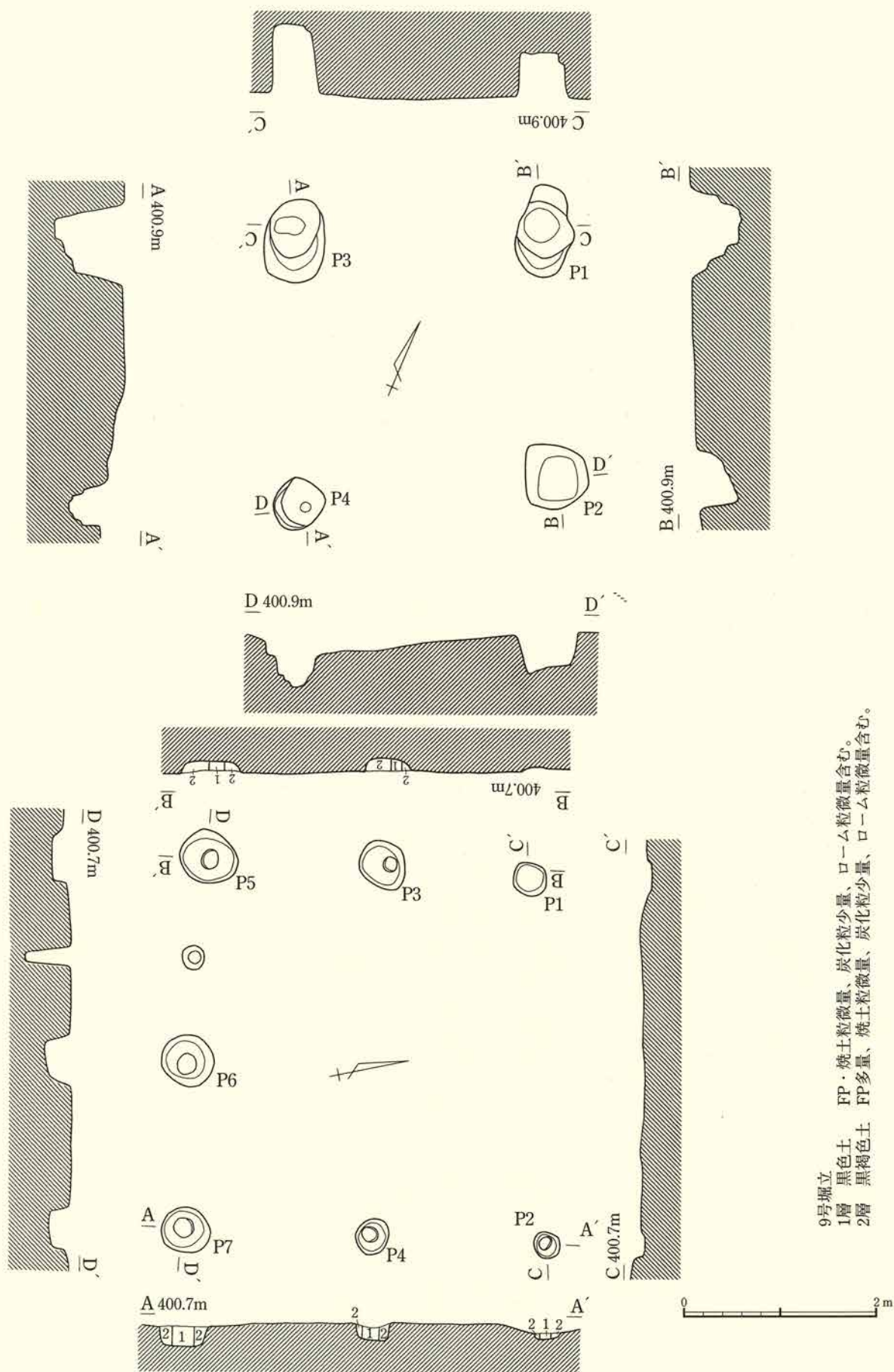
- | | | |
|----|---------|--------------------|
| 1層 | 極暗褐色土 | FP・焼土・炭化粒少量含む。 |
| 2層 | にぶい黄褐色土 | FP・焼土微量含む。 |
| 3層 | にぶい黄褐色土 | FP微量含む。 |
| 4層 | 赤褐色土 | FP微量、焼土多量、炭化物少量含む。 |

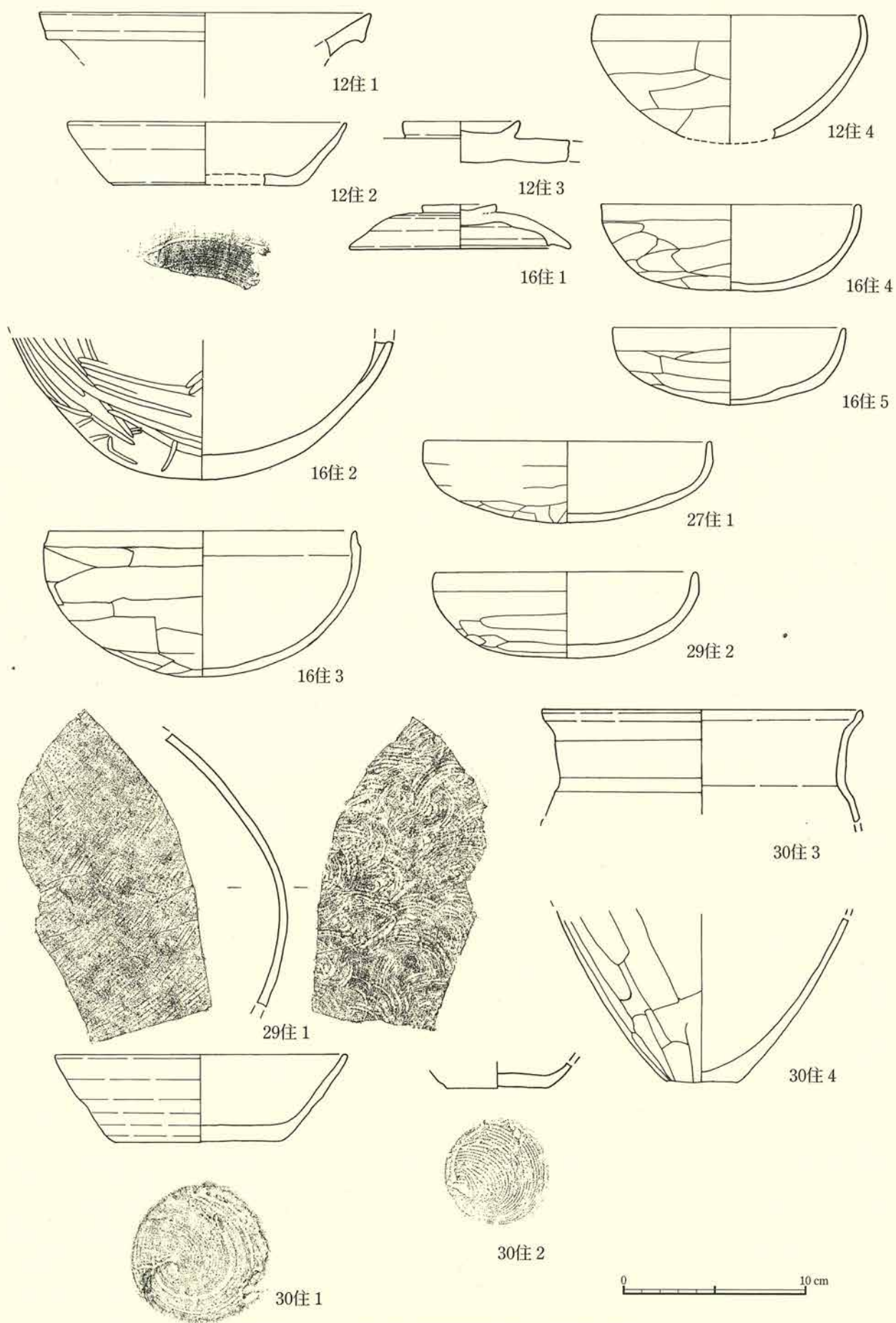
0 1m

第70図 29号住居跡実測図



第71図 30号住居跡実測図





第73図 12・16・27・29・30号住居跡出土遺物実測図

4 時期不明

平成14年度調査においては、径50cm以上を土坑とし、50cm未満を小ピットとして扱うことにした。土坑・小ピットにはF Pを混入するものとし、ないものがある。

15号住居跡（第74図 写図30）

位置 調査区中央部D 5グリッド。
重複 古墳時代前期の17号住居に切られる。時期不明の9・10号土坑、小ピットに切られる。
形状 隅丸方形
規模 3.54×3.30m
方位 不明
床面 面積10.02m²。確認面で方形の硬化面を検出したが明瞭な貼床は認められない。部分的に被熱痕がみられた。
柱穴・周溝・炉 なし。
その他 掘方はサブトレンチのみを入れたので全容は明らかではないが、南壁側に窪みがみられた。

5号土坑（第75図 写図32）

位置 調査区西側B 5グリッド。北東1 mに6号土坑がある。
重複 なし。
形状 楕円形
規模 82×62cm 深さ14cm。

6号土坑（第75図 写図32）

位置 調査区中央部B 5グリッド。
重複 南西に1 mに5号土坑がある。
形状 一部攪乱を受けているが隅丸方形であったと推定される。
規模 83×60cm 深さ43cm。
遺物 古墳時代前期の土師器甕破片。

7号土坑（第75図 写図32）

位置 調査区中央区C 5グリッド。東側1 mに8号土坑がある。
重複 なし。
形状 楕円形
規模 55×48cm 深さ15cm。

8号土坑（第75図 写図32）

位置 調査区中央部D 5グリッド。西側1 mに7号土坑がある。
重複 時期不明の15号住居と重複するが、新旧不明。
形状 楕円形
規模 51×50cm 深さ15cm。

10号土坑（第75図 写図32）

位置 調査区中央部C 5グリッド。東側3 mに7号土坑がある。
重複 古墳時代前期の18号住居跡に切られる。
形状 不明
規模 145×—cm 深さ33cm。

11号土坑（第75図 写図33）

位置 調査区中央部D 4グリッド。西側2 mに12号土坑がある。
重複 なし。
形状 円形
規模 62×58cm 深さ43cm。

12号土坑（第75図 写図33）

位置 調査区中央部D 4グリッド。東側2 mに11号土坑がある。

重 複 なし。

形 状 円形

規 模 92×66cm 深さ49cm。

13号土坑 (第75図 写図33)

位 置 調査区中央部E 5 グリッド。西側の14号土坑とはほぼ隣接している。

重 複 なし。

形 状 円形

規 模 113×112cm 深さ40cm。

14号土坑 (第75図 写図33)

位 置 調査区中央部E 5 グリッド。東側の13号土坑とはほぼ隣接している。

重 複 なし

形 状 円形

規 模 109×106cm 深さ39cm。

15号土坑 (第75図 写図33)

位 置 調査区東側C 7 グリッド。西側10mに20号土坑がある。

重 複 平安時代の30号住居を切る。

形 状 円形

規 模 110×107cm 深さ33cm。

16号土坑 (第75図 写図33)

位 置 調査区東側E 9 グリッド。北西18mに15号土坑がある。

重 複 なし。

形 状 南縁が攪乱を受けているが本来は円形であったと推定される。

規 模 196×182cm 深さ17cm。

17号土坑 (第75図 写図34)

位 置 調査区西側C 3 グリッド。南西7mに18号土坑がある。

重 複 なし。

形 状 楕円形

規 模 105×102cm 深さ50cm。

18号土坑 (第75図 写図34)

位 置 調査区東側C 3 グリッド。北西7mに17号土坑がある。

重 複 なし。

形 状 隅丸方形。断面形状に柱痕と思われる痕跡がみられる。

規 模 74×72cm 深さ22cm。

19号土坑 (第76図 写図34)

位 置 調査区中央部D 6 グリッド。南西3mに21号土坑がある。

重 複 古墳時代前期の13号住居を切る。

形 状 楕円形

規 模 106×85cm 深さ20cm。

遺 物 土師器坏などの破片少量。

20号土坑 (第76図 写図34)

位 置 調査区西側D 6 グリッドに位置する。

重 複 なし

形 状 楕円形。底部は不定形で凹凸が著しい。

規 模 206×113cm 深さ50cm。

21号土坑 (第76図 写図34)

位 置 調査区中央部D 6 グリッド。南東3mに19号土坑がある。

重 複 なし。

規 模 54×52cm 深さ17cm。

22号土坑 (第76図 写図34)

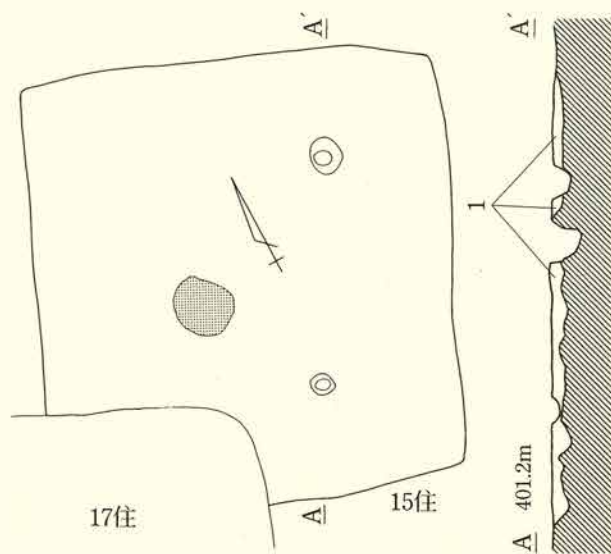
位 置 調査区中央部B 4 グリッド。

重 複 なし。

形 状 円形

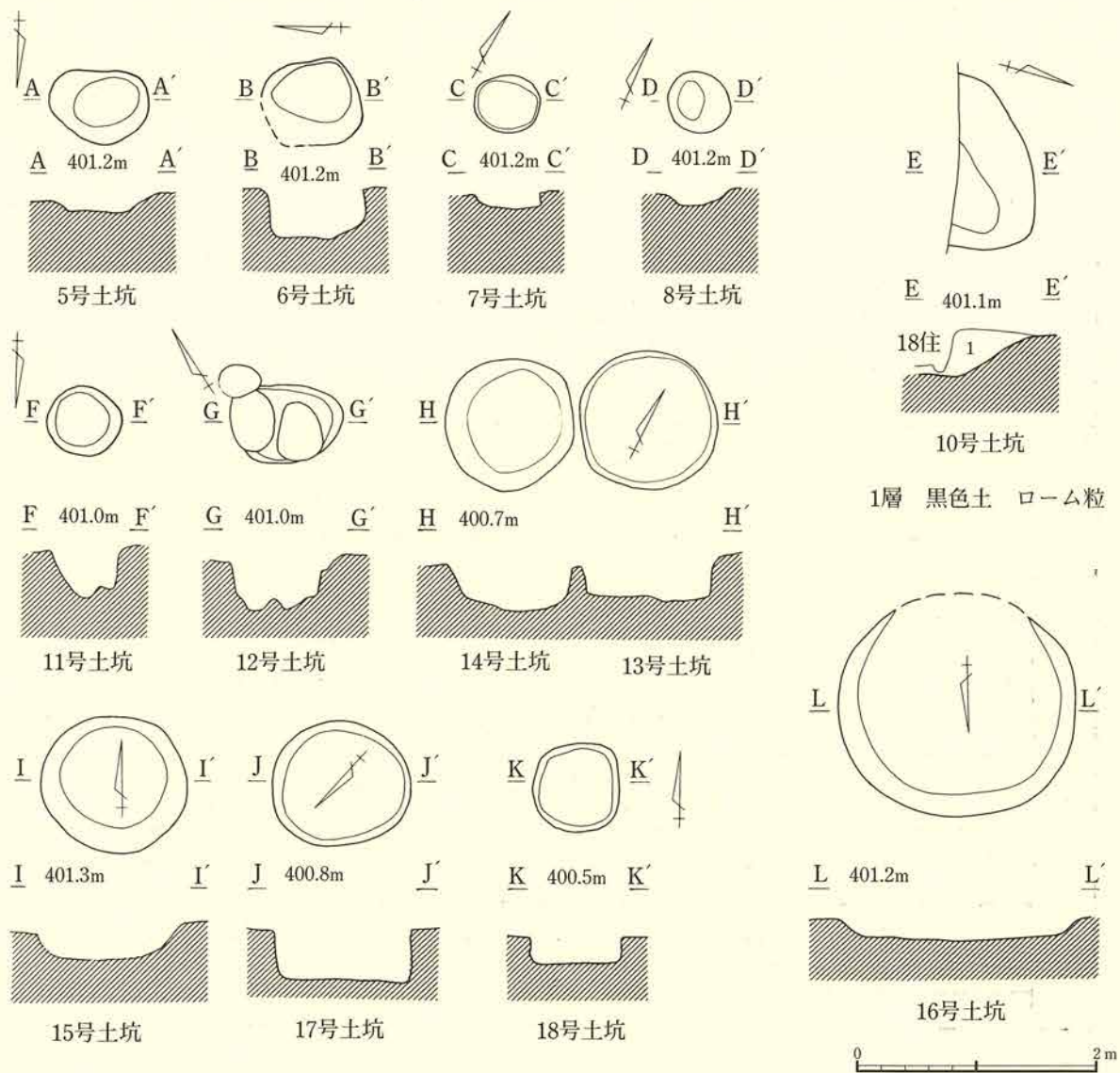
形 状 円形

規 模 133×121cm 深さ14cm。

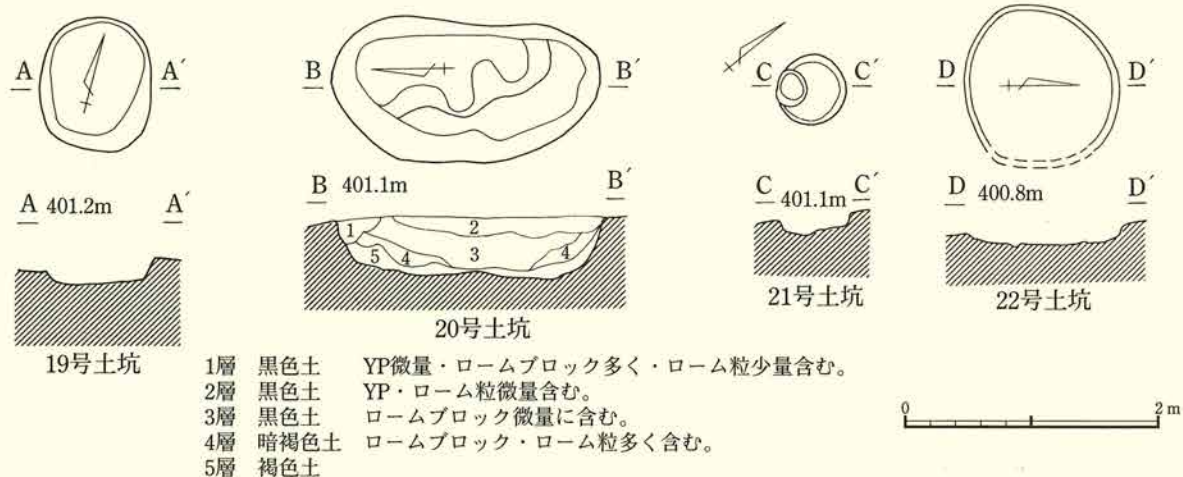


1層 黒褐色土

第74図 15号住居跡実測図



第75図 5~18号土坑実測図



第76図 19～22号土坑跡実測図

表5 遺物観察表5 / 縄文・弥生時代(平成14年度調査)

遺構	挿図 図版	種別・器種	出土位置	①遺存状況 ②法量(cm・g) ③胎土・焼成・色調 ④調整 ⑤器形の特徴・文様 ⑥備考
24住	1	壺	東・P1	①口縁部 ②口23.4・胴13.③細砂粒含む。酸化焰。浅黄橙④口縁部:外面刷毛整形、内面ヘラミガキ ⑤口唇部・頸部:簾状文
	2	台付甕	北東・床	①4/5 ②口14.1・胴8.0 ③細砂粒含む。酸化焰。にぶい黄橙④胴部:外面篋磨き ⑤口縁部・胴部上位にかけて波状文、頸部:簾状文
	3	高坏	南・床	①脚部 ②一 ③細砂粒・良好・赤 ④脚部:外面篋磨き
9土	1	高坏	底部	①口縁部 ②口14.6 ③微細粒多量・良好・赤 ④坏部:内外面篋磨き ⑤一 ⑥赤彩
遺構外	1	深鉢	14住	①胴部 ②③砂粒・良好・灰褐色 ④一 ⑤沈線文:地文は無節L、U字状の懸垂文
	2	深鉢	21住	①胴部②③砂粒・良好・にぶい橙 ④一 ⑤三角区画内:鋸歯状の刺突を充填する ⑥
	3	深鉢2	17住	①胴部 ②一 ③砂礫少量・良好・にぶい橙 ④一 ⑤単節RL→結節浮線文
	4	甕	11住	①口縁～頸部 ②口21.6 ③細砂粒多量・良好・黒褐 ④一 ⑤口唇～頸部:3段の波状文、頸部:横方向の櫛描文を縦方向の櫛描文で区画
	5	甕	17・26住	①口縁部 ②一 ③細砂粒含む。良好。灰褐 ④一 ⑤外面:波状文。簾状文。2個1単位で5～9の刺突文の施されたボタン状貼付文
	6	高坏	13住	①口縁部 ②口26.0 ③砂粒と雲母・良好・赤 ④一 ⑤坏部:内外面赤彩
	7	凹石	D6グリッド	①完形 ②重36.7 ③長10.8 幅6.7 厚3.5 ④磨→凹 ⑤一 ⑥石英閃緑岩
	8	凹石	26住	①1/2 ②長7.8・幅6.9・厚3.3・重215.0 ③一 ④磨→凹 ⑤一 ⑥デイサイト質凝灰岩
	9	凹石	14住	①1/2 ②幅6.6・厚2.3・重117.0 ③一 ④凹→磨 ⑤一 ⑥デイサイト質凝灰岩
	10	磨り石	26住	①完形 ②長92.0・幅5.0・厚6.2・重475.0 ③～⑤一 ⑥閃緑岩
	11	打製石斧	11住	①完形 ②長11.8・幅8.1・厚2.3・重230.1 ③・④一 ⑤分銅形 ⑥表面に自然面。黒色頁岩
	12	打製石斧	23住	①基部 ②長6.4・幅3.3・厚1.5・重34.0 ③・④一 ⑤撥形 ⑥一。珪質頁岩
	13	磨製石斧	19住	①完形 ②長14.2・幅5.9・厚4.0・重589.5 ③一 ④基部付近は粗い調整。刃部付近は丁寧な調整。⑤一 ⑥変はんれい岩
	14	石鏃	D6グリッド	①ほぼ完形 ②長2.2・幅1.7・厚0.4・重2.0 ③・④一 ⑤凹基形 ⑥細粒輝石安山岩

表6 遺物観察表6/古墳時代(平成14年度調査)

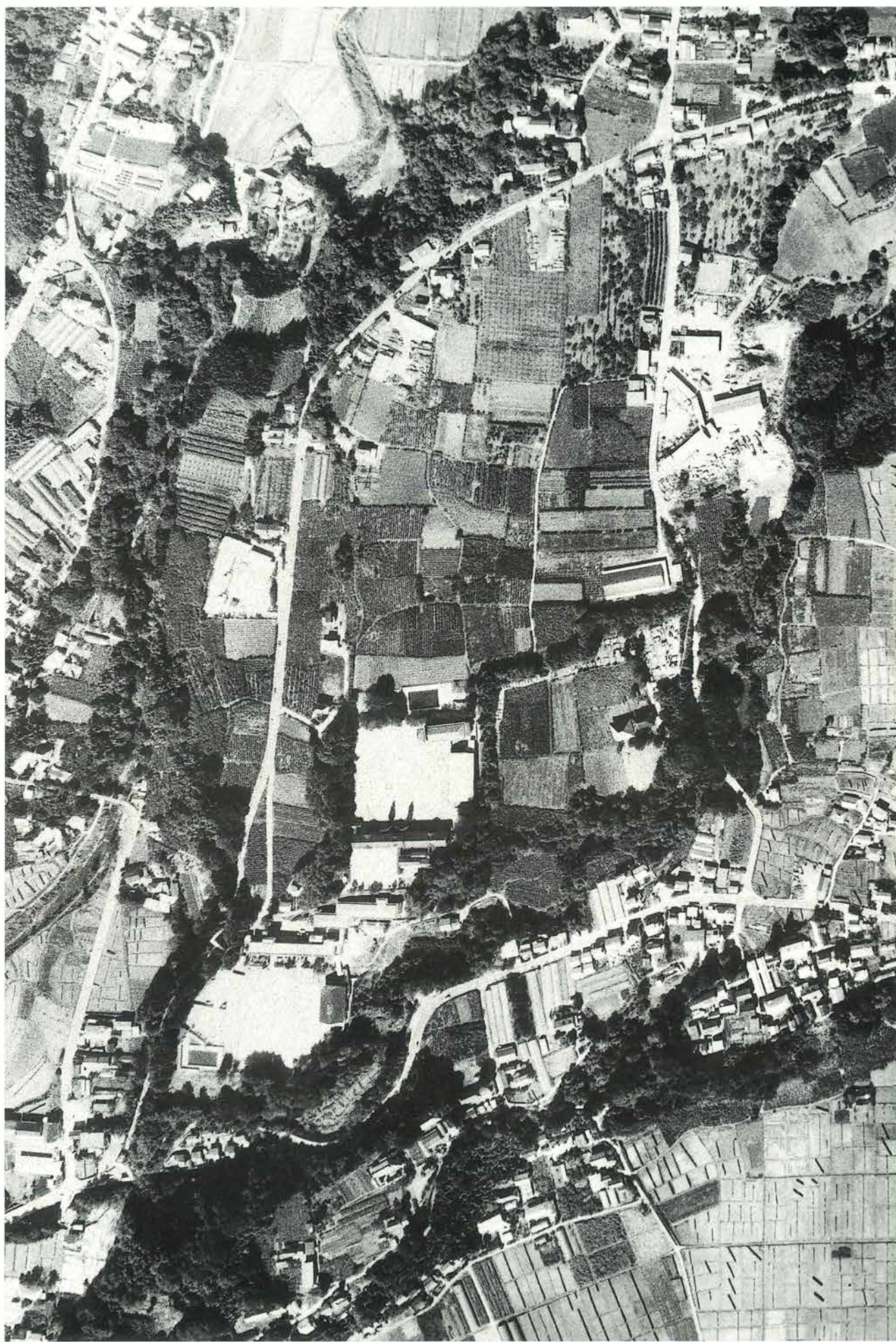
遺構	遺物 番号	種別・器種	出土位置	①遺存状況 ②法量(cm・g) ③胎土・焼成・色調 ④調整 ⑤器形の特徴・文様 ⑥備考
11住	1	台付甕	貯蔵穴P5	①口縁部 ②口16.0 ③微細粒・堅緻・にぶい褐色 ④口唇部:内面に弱い沈線、横ナデ
	2	甕	中央・床	①1/2 ②高17.8 ③微砂粒・良好・浅黄橙 ④口縁部:輪積痕、外面:胴部ハケメ
	3	甕	覆土	①1/5 ②口13.5 ③細砂粒・良好・にぶい橙 ④外面:胴下半部ヘラケズリ
	4	甕	中央・床	①口縁部 ②21.6 ③砂粒・良好・にぶい橙④口縁部:内外面磨き
	5	埴	西・覆土	①完形 ②口11高15 ③細砂粒・良好・にぶい橙 ④内外面:口縁部ミガキ、内面:体・胴部ナデ
	6	埴	北東・覆土	①1/3 ②口8.6・高12.7 ③白色微粒・良好・にぶい橙 ④口縁部内外面ヘラミガキ、胴部:外面ヘラミガキ、内面ナデ
	7	小形埴	南・床	①1/4 ②口9.6・高4.6 ③細粒・良好・橙 ④胴部:内外面丁寧な横位ヘラミガキ
	8	器台	北西・床	①完形 ②口8.2・高2.6 ③細砂・良好・浅黄橙 ④外面:浅いハケメの残るナデ、内面:ナデ
	9	高坏	中央西・床	①完形 ②口15.6・高8.0 ③砂粒多く含む。良好。にぶい橙④坏部内面・脚部外面ヘラミガキ
	10	小形高坏	主柱穴P1	①ほぼ完形 ②口10.4・高3.8 ③砂粒・良好・にぶい橙 ④坏部:内外面ヘラミガキ
	11	不明土製品	北東・床	①一 ②口1.8・高4.5 ③微砂粒・良好・にぶい褐 ④外面:縦位のヘラミガキ
	12	台石	北東・床	①完形 ②長36.8・幅34.6・厚10.5・重1850 ③- ④扁平な自然礫を利用し、両面にわずかに敲打痕 ⑤- ⑥粗粒輝石安山岩
13住	1	甕	南・床	①胴部 ②口15.3 ③砂粒・酸化焰・浅黄橙 ④口縁部:外面輪積・内面ハケメ、胴部:外面ハケメ
	2	明	北東・床	①口縁部 ②口17.4 ③- ④口縁部:内外面ヘラナデ
	3	甕	南・床	①口縁部 ②口17.4 ③砂粒多量・良好・浅黄橙 ④口縁部:内外面ハケメ
	4	埴	南・床	①完形 ②口10.3底2.6高5.5 ③砂粒多量・酸化焰・にぶい黄橙 ④外面:胴部ヘラナデ・口縁部ナデ・口唇部横ナデ。⑤口唇部・内傾する平坦面
	5	器台	北西・床	①脚部 ②底12.5 ③細砂粒・酸化焰・にぶい黄橙 ④-、⑤脚部:径1.0mmの円孔3箇所
	6	器台	貯蔵穴P5	①脚部 ②底10.0 ③④- ⑤脚部:径1.2cmの円孔3箇所
	7	小形高坏	南西・床	①坏部 ②口12.6 ③砂粒少量・酸化焰・橙 ④坏部:内外面ヘラミガキ
14住	1	甕	北・床	①胴部 ②胴23.3・底7.8 ③砂粒・酸化焰・にぶい黄橙 ④胴部:外面ヘラミガキ
17住	1	台付甕	南・床	①胴部 ②- ③微砂粒・良好・褐灰 ④外面:胴部ハケメ
	2	甕	中央・床	①底部 ②底6.4 ③細砂粒・良好・橙 ④胴部:外面ヘラミガキ、内面ナデ
	3	台付甕	南東・床	①胴部 ②- ③細砂粒・良好・橙 ④頸部:外面ヘラミガキ・内面横位のヘラミガキ
	4	鉄製鎌	西・床	①ほぼ完形 ②長9.7・幅2.2・厚2.0・重20.0
18住	1	甕	覆土	①口縁部 ②口14.8 ③微砂粒・良好・浅黄橙 ④口縁部:外面刷毛整形
	2	壺	1号炉	①口縁部 ②口15.6 ③微砂粒・良好・浅黄橙 ④口縁部:内外面ヘラミガキ
	3	小形高坏	覆土	①1/2 ②口11.6 ③細砂粒・良好・浅黄橙 ④体部:外面縦方向のヘラミガキ、底部:ヘラケズリ
	4	砥石	南・床	①完形 ②長11.7・幅3.6・厚3.3・重225.0 ③④- ⑤著しく使用 ⑥端部片側に煤が付着。デイスait
	5	台石	北東・床	①側縁部の大半が破損 ②長(残)34.8・幅(残)34.0・厚8.0・重1420 ③- ④扁平な自然礫を利用し、両面に弱い敲打痕 ⑥側縁部に煤が付着。粗粒輝石安山岩
19住	1	台石	北東・床	①完形 ②長42.0・幅43.5・厚8.2・重1800.0 ③- ④扁平な自然礫を利用し、両面に弱い敲打痕 ⑤- ⑥側縁部の一部に煤が付着。粗粒輝石安山岩
20住	1	高坏	北西・床	①坏部 ②口4.1・底6.3 ③微砂粒・堅緻・明赤褐 ④坏部:外面ヘラミガキ
21住	1	甕	覆土	①底部 ②底8.2 ③砂粒多量・良好・橙 ④胴部:内外面ヘラミガキ
	2	埴	北・床	①完形 ②口18.9・底4.0・高7.4 ③細砂・酸化焰・橙 ④口縁部:縦位磨き、体部:横位ミガキ
	3	小形器台	北・床	①胴部 ②- ③砂粒・良好・にぶい黄橙 ④脚部:外面磨き、内面:ナデ ⑤4孔が開く
	4	高坏	中央・床	①脚部 ②高11.0 ③砂粒・酸化焰・橙 ④脚部:外面ミガキ
	5	小形埴	東・床	①1/3 ②稜6.8 ③砂粒・酸化焰・にぶい橙 ④体部:内外面ミガキ
25住	1	台付甕	貯蔵穴P1	①口縁部 ②口14.4 ③砂粒・良好・褐灰 ④口縁部:胴部、外面ハケメ
	2	小形埴	貯蔵穴P1	①2/3 ②口11.6 ③細砂粒と礫・酸化焰・灰褐 ④胴部:内外面磨き
	3	小形埴	貯蔵穴P1	①完形 ②口11.3・高7.3 ③微砂粒・良好・暗褐 ③口縁部:内外面ミガキ ④体部:外面ミガキ、内面摩耗
26住	1	台付甕	南東・床	①口縁部 ②口12.8 ③細砂粒・良好・褐灰 ④胴部:外面刷毛整形 ⑤S字状口縁
	2	大形埴	西・床	①口縁部 ②口13.4 ③微砂粒・良好・黄橙 ④胴部:外面ミガキ
	3	有段鉢形土器	南西・床	①完形 ②口15.6・高6.6 ③細砂粒・やや不良・にぶい橙 ④外面:ミガキ・一部摩耗、内面:口縁部:横ナデ・体部ミガキ
28住	1	石製管玉	覆土	①完形 ②径0.56・長2.3・孔0.3 ③オリーブ黒 ④⑤- ⑥滑石
遺構外	7	高坏	調査区中央部 確認面	①脚部 ②砂粒・良好・橙 ③外面:ミガキ

表7 遺物観察表7/奈良・平安時代(平成14年度調査)

遺構	挿図 図版	種別・器種	出土位置	①遺存状況 ②法量(cm・g) ③胎土・焼成・色調 ④調整 ⑤器形の特徴・文様 ⑥備考
12住	1	須恵器壺	南・床	①口縁部 ②口18.4 ③白色微粒・堅緻・灰
	2	須恵器坏	覆土	①1/4 ②口15.6・高3.5 ③微砂粒・良好・にぶい黄褐 ④底部:回転ヘラケズリ
	3	須恵器蓋	床	①口縁部②口6.2・高2.3③微粒・良好・明褐灰 ④環状つまみ
	4	坏	覆土	①口縁部 ②口14.6・高6.8 ③礫極少量・微粒子・良好・にぶい褐 ④口縁部:横ナデ、体部:ヘラケズリ
16住	1	須恵器蓋	竈	①完形 ②口12.2・高2.7 ③微砂粒・良好・灰 ④天井部:回転ヘラケズリ、端部:内面短い返りが付く
	2	甗	竈	①完形 ②- ③細砂粒・良好・橙 ④胴部:外面ヘラミガキ
	3	坏	竈	①ほぼ完形 ②口17.0・高8.0 ③砂粒・良好・にぶい橙 ④外面:ヘラケズリ
	4	坏	竈	①完形 ②口14.6・高4.8 ③微砂粒・良好・灰褐〜にぶい褐 ④口縁部:横ナデ、体部:ヘラケズリ
	5	坏	東・床	①完形 ②口12.6・高4.3 ③微砂粒・良好・褐 ④体部:外面ヘラケズリ
27住	1	坏	覆土	①胴部 ②口16・高4.4 ③微砂粒・良好・にぶい橙 ④体部:外面ヘラケズリ
29住	1	須恵器甗	竈	①胴部 ②- ③砂礫少量・堅緻・灰 ④外面:平行叩き、内面:同心円文
	2	坏	竈	①4/5 ②口14.5・高4.7 ③細砂粒・良好・にぶい橙 ④体部:外面篋削り
30住	1	須恵器坏	覆土	①1/4 ②口16.2・高4.8灰 ③白色礫・白色砂粒・良好・灰(外)灰褐(内) ④底部:回転系切り離し
	2	須恵器坏	覆土	①底部 ②底5.6 ③微粒子と礫少量・良好・灰白 ④底部:回転系切り離し
	3	甗	覆土	①口縁部 ②口18.0 ③微砂粒・堅緻・明赤褐 ④口縁部:コの字 ⑤胴部:外面ヘラケズリ
	4	甗	覆土	①底部 ②底3.8 ③微細砂粒・良好・明赤褐 ④胴部:外面ヘラケズリ

表8 住居跡一覧表/1~30号住居跡(弥生~平安時代)

遺構	床面積 ㎡	方位	時期	遺構	床面積 ㎡	方位	時期	遺構	床面積 ㎡	方位	時期
1住	10.91	N-69° -E	奈良平安	11住	18.39	N-9° -E	古墳時代	21住	13.60	N-17° -E	古墳時代
2住	6.98	N-115° -E	奈良平安	12住	22.53	N-8° -E	奈良平安	22住	16.30	N-21° -E	古墳時代
3住	27.77	N-19° -E	古墳時代	13住	18.79	N-13° -W	古墳時代	23住	14.81	-	古墳時代
4住	48.82	-	古墳時代	14住	24.14	N-12° -W	古墳時代	24住	-	-	弥生時代
5住	17.78	N-14° -W	古墳時代	15住	10.03	-	時期不明	25住	-	N-8° -W	古墳時代
6住	29.22	N-8° -E	古墳時代	16住	13.38	N-19° -E	奈良平安	26住	19.89	-	古墳時代
7住	14.44	N-5° -E	古墳時代	17住	20.21	-	古墳時代	27住	9.72	N-18° -W	古墳時代
8住	36.35	N-0°	古墳時代	18住	23.63	N-15° -E	古墳時代	28住	9.37	-	古墳時代
9住	12.62	N-3° -E	古墳時代	19住	16.43	N-1° -E	古墳時代	29住	5.05	N-6° -W	奈良平安
10住	6.16	N-0°	古墳時代	20住	19.91	-	古墳時代	30住	24.82	N-8° -W	奈良平安



遺跡遠景 上空から



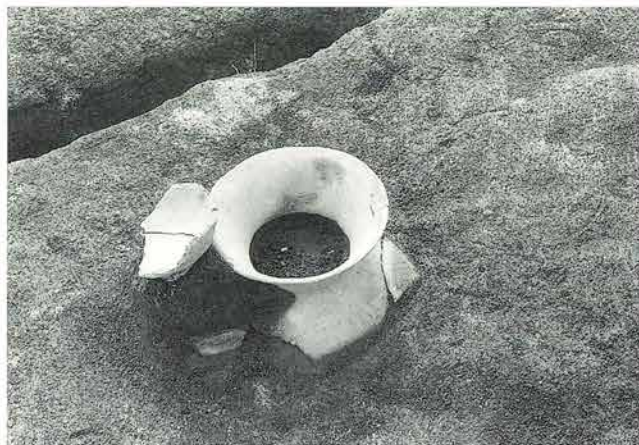
調査区域全景（遺構確認段階・西側から）



調査区域全景（調査終了段階・東側から）



3号住居跡遺物出土状況全景（東側から）



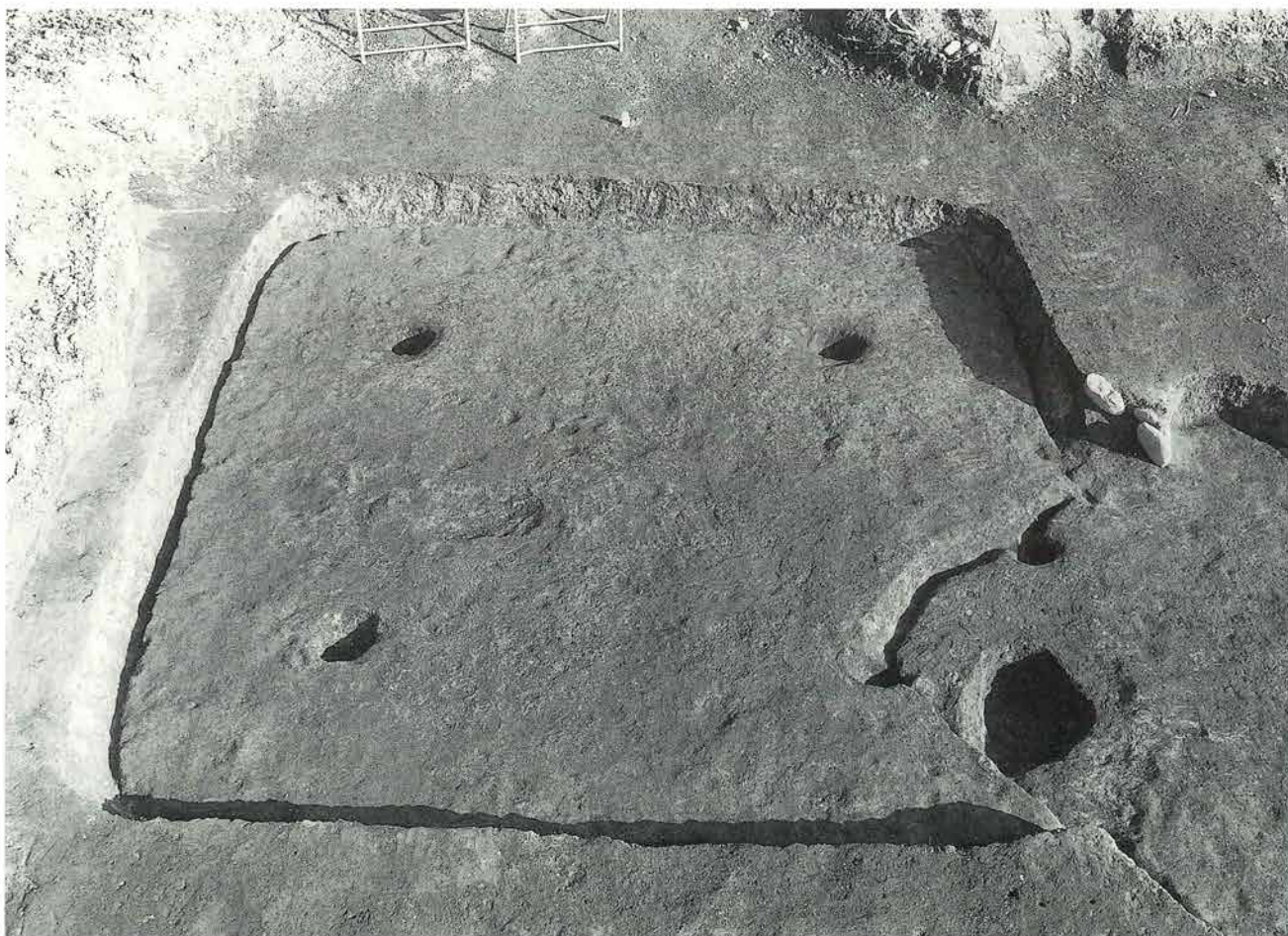
3号住居跡遺物出土状況部分



3号住居跡遺物出土状況部分



3号住居跡炉全景



3号住居跡全景（西側から）

写真図版 4



4号住居跡遺物出土状況全景（北側から）



4号住居跡遺物出土状況部分



4号住居跡遺物出土状況部分



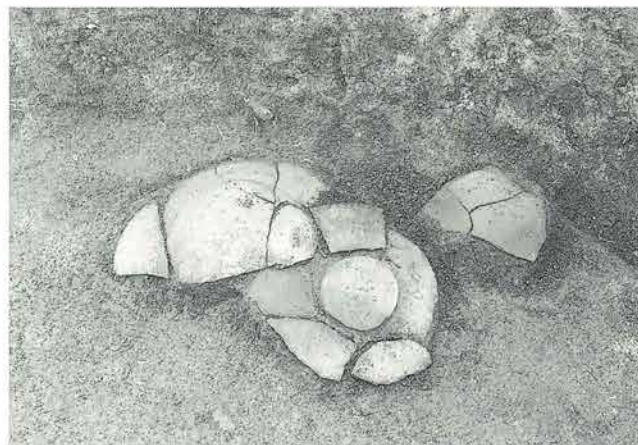
4号住居跡炉全景



4号住居跡全景（東側から）



5号住居跡遺物出土状況全景（西側から）



5号住居跡遺物出土状況部分



5号住居跡遺物出土状況部分



5号住居跡炉全景



5号住居跡全景（西側から）

写真図版 6



6号住居跡遺物出土状況全景（南側から）



6号住居跡遺物出土状況部分



6号住居跡全景（南側から）



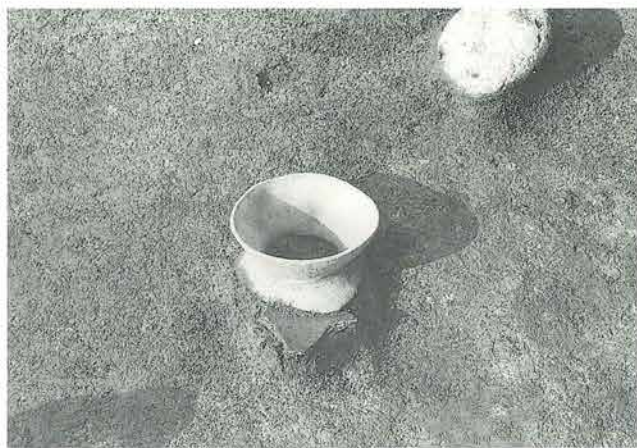
6号住居跡覆土埋没状況



7号住居跡全景（東側から）



8号住居跡遺物出土状況全景（南側から）



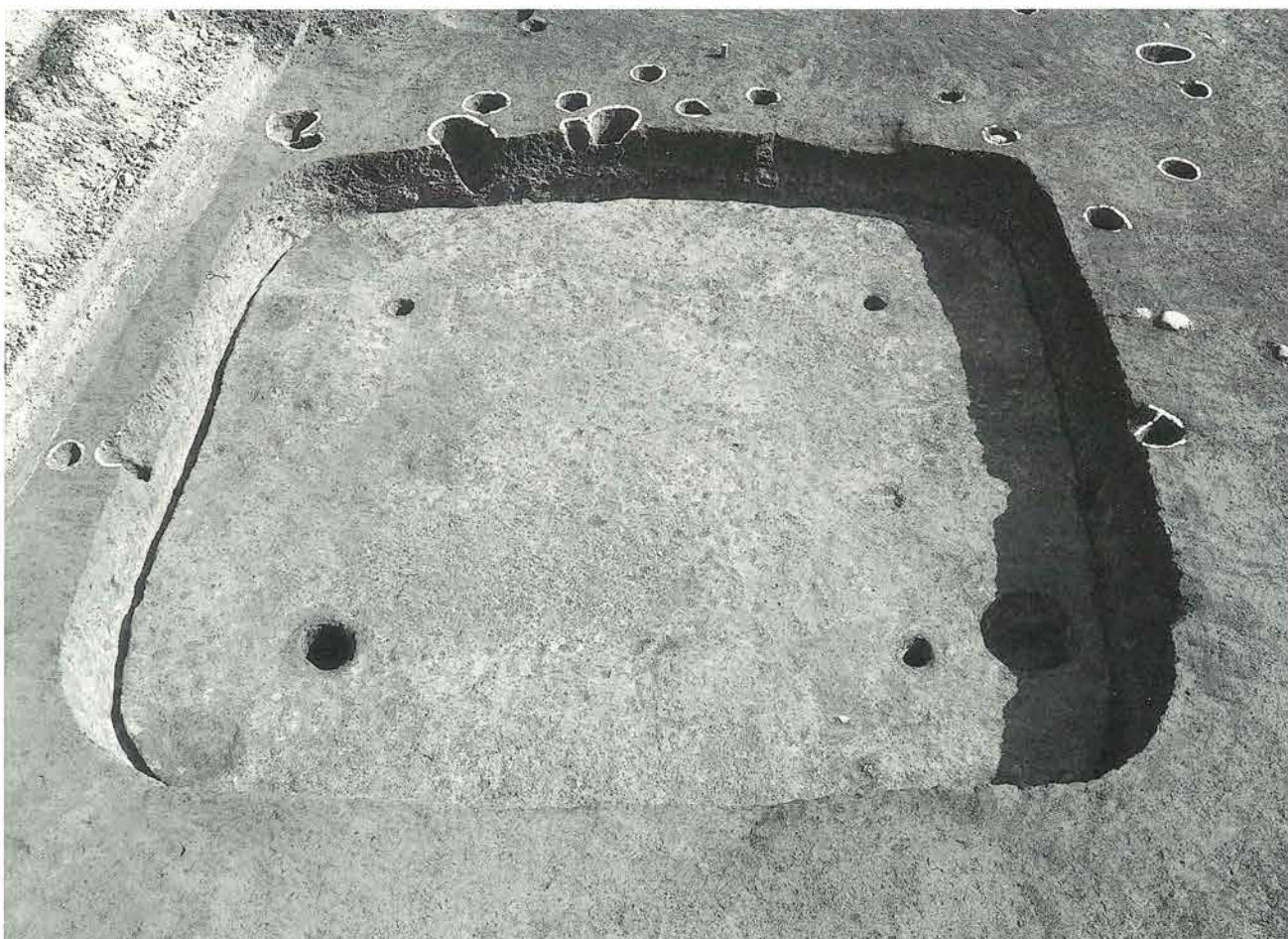
8号住居跡遺物出土状況部分



8号住居跡遺貯蔵穴全景

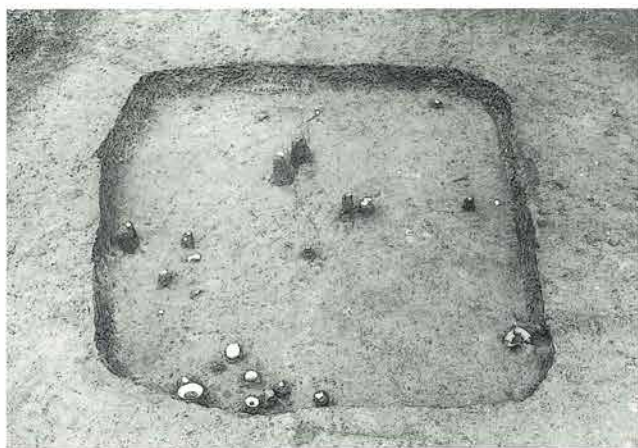


8号住居跡炉全景



8号住居跡全景（西側から）

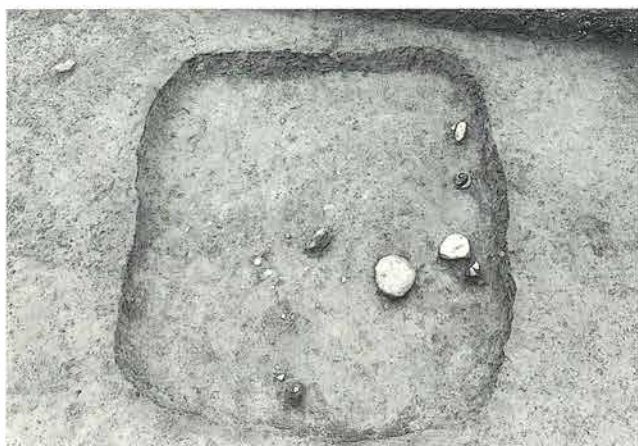
写真図版 8



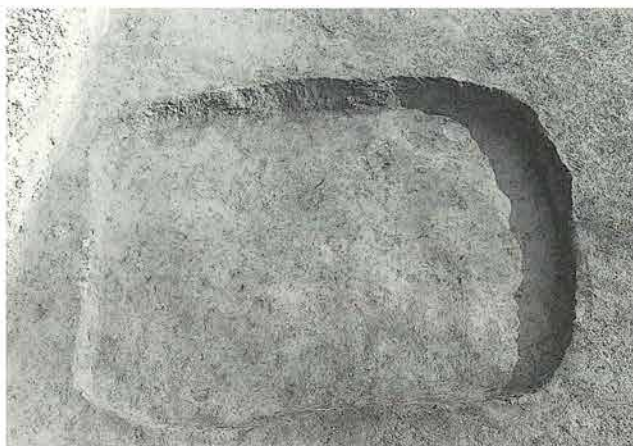
9号住居跡遺物出土状況全景（北側から）



9号住居跡遺物出土状況部分



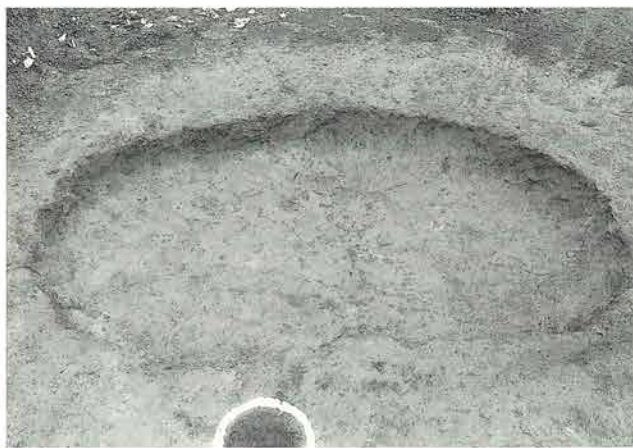
10号住居跡遺物出土状況全景（南側から）



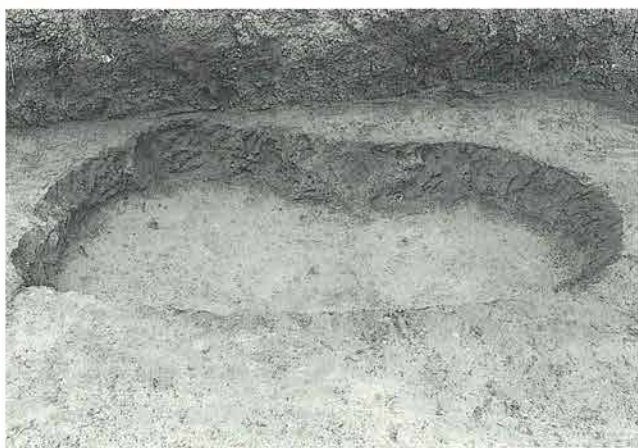
10号住居跡全景（西側から）



1号土坑全景



2号土坑全景



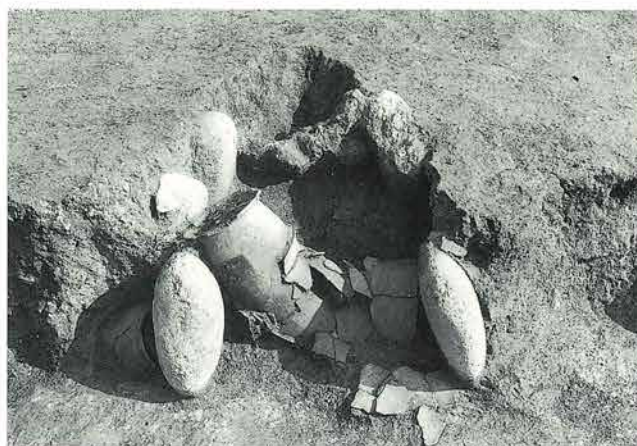
3号土坑全景



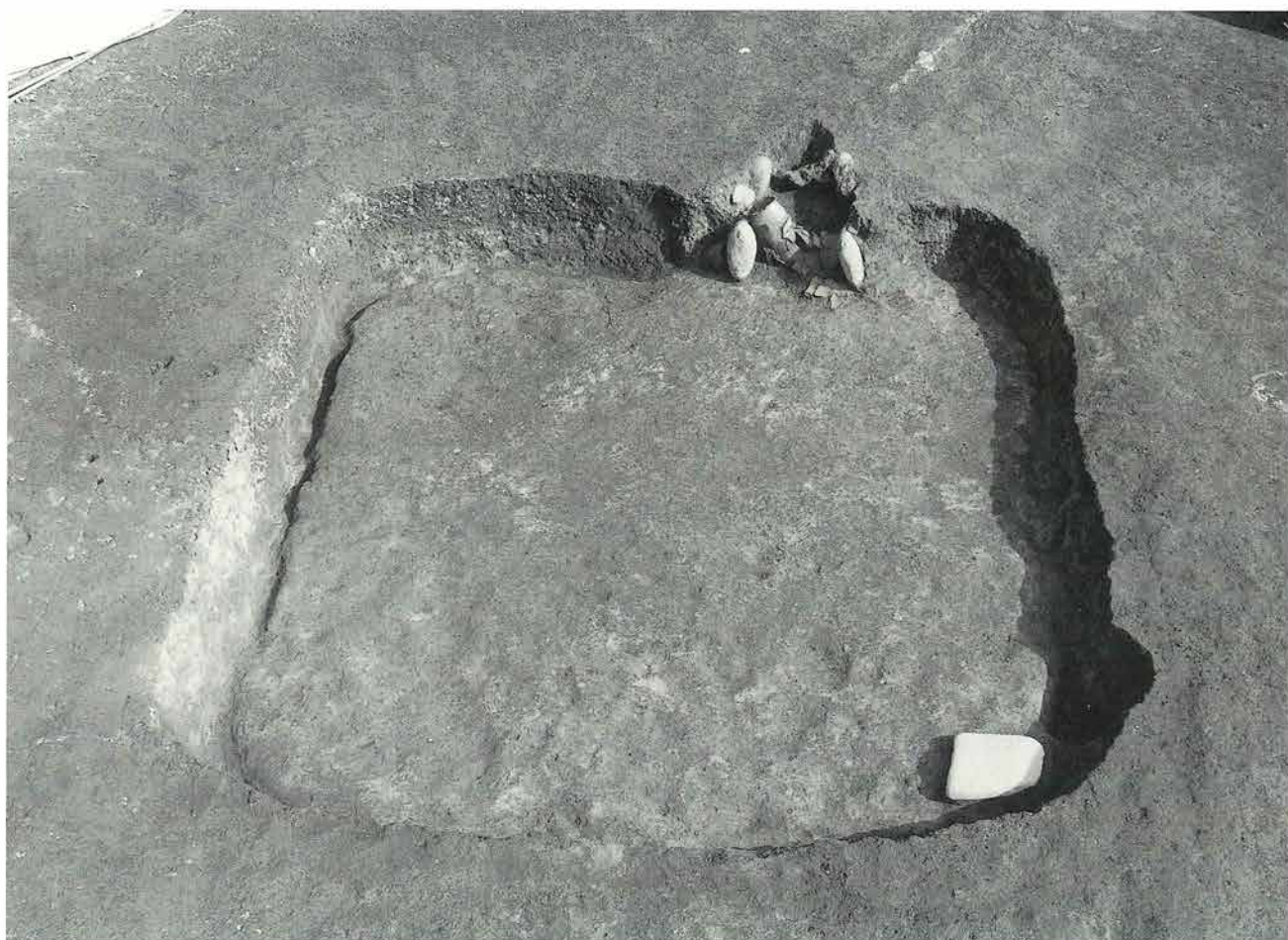
4号土坑全景



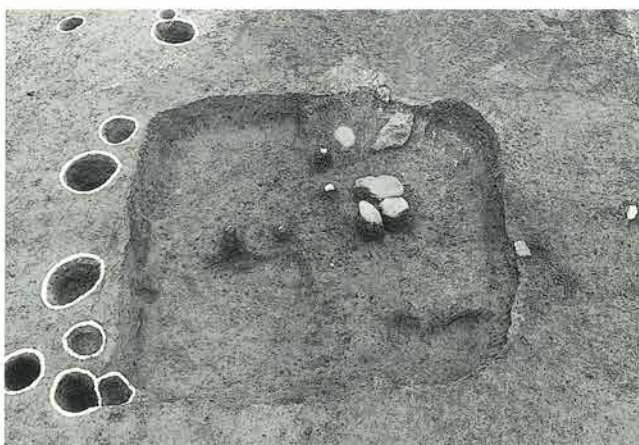
1号住居跡遺物出土状況全景（西側から）



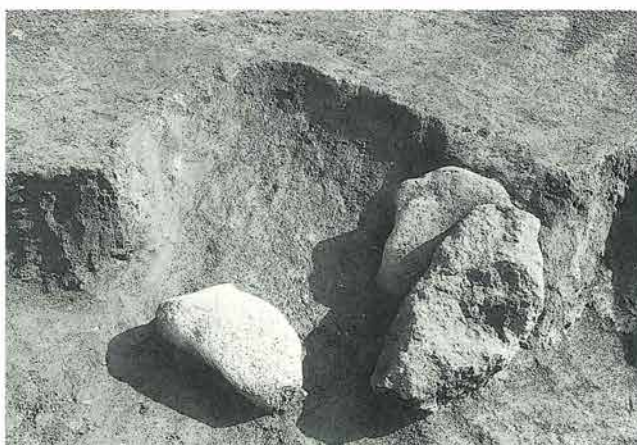
1号住居跡カマド遺物出土状況



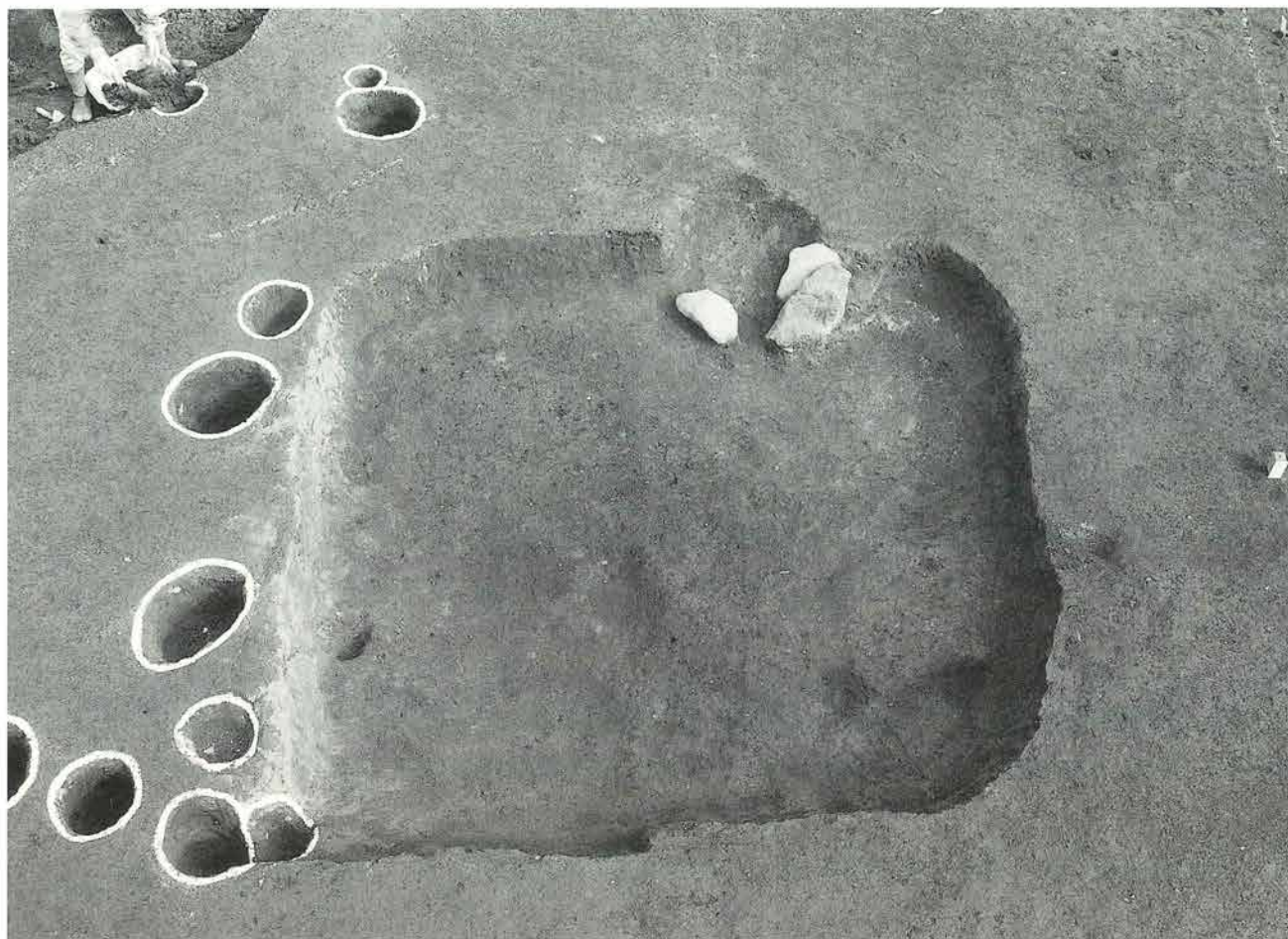
1号住居跡全景（西側から）



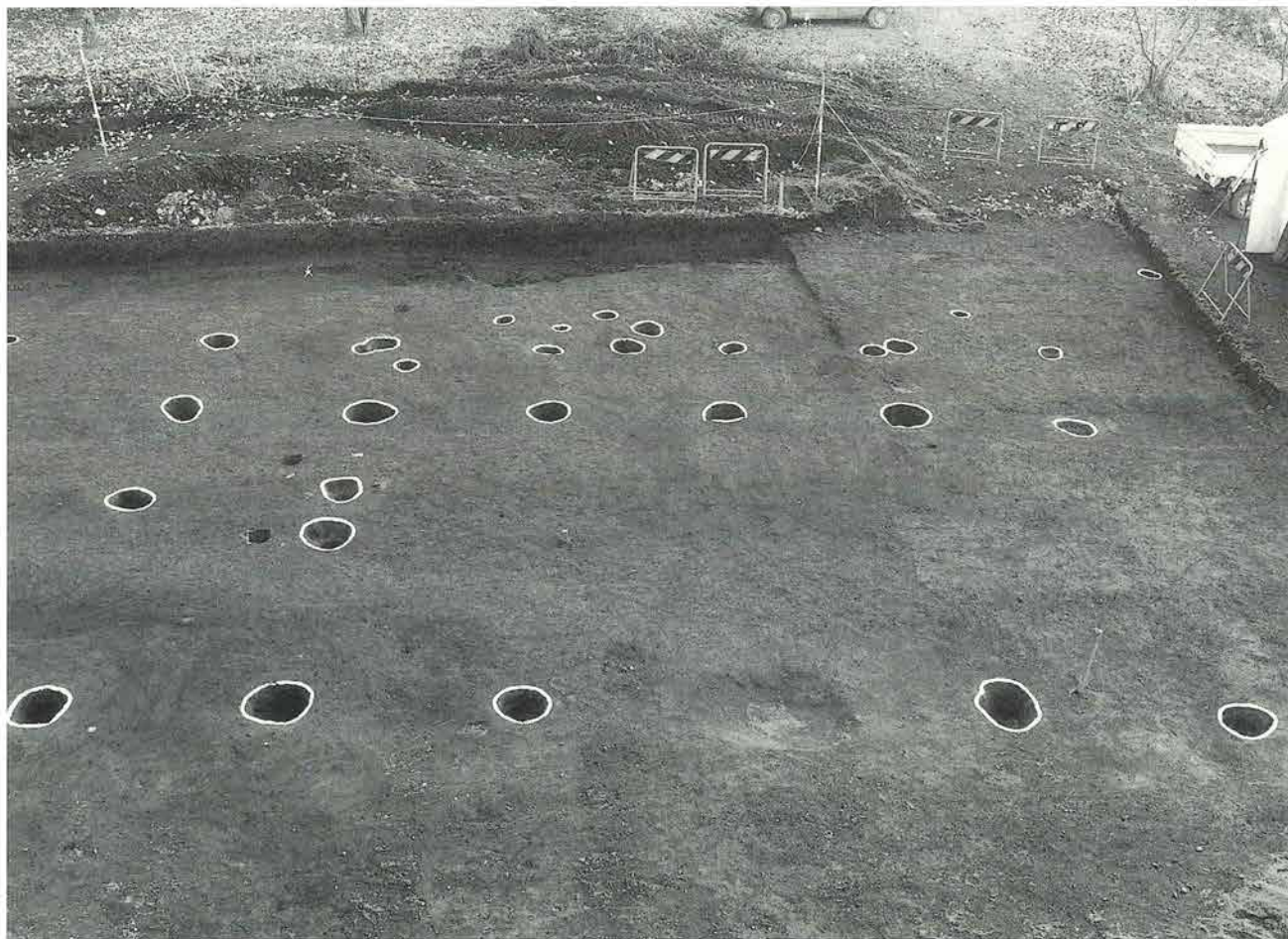
2号住居跡遺物出土状況全景（西側から）



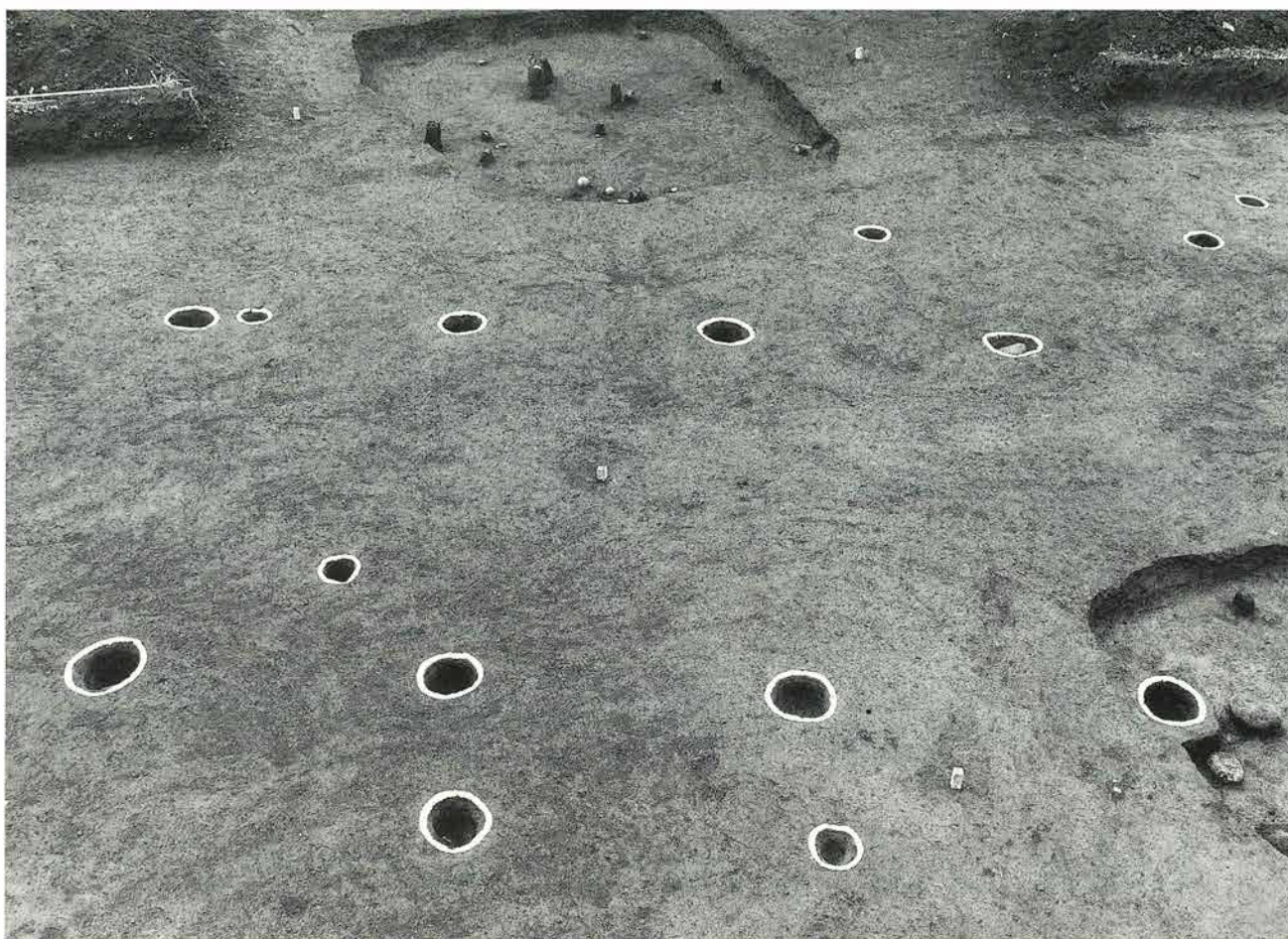
2号住居跡カマド全景



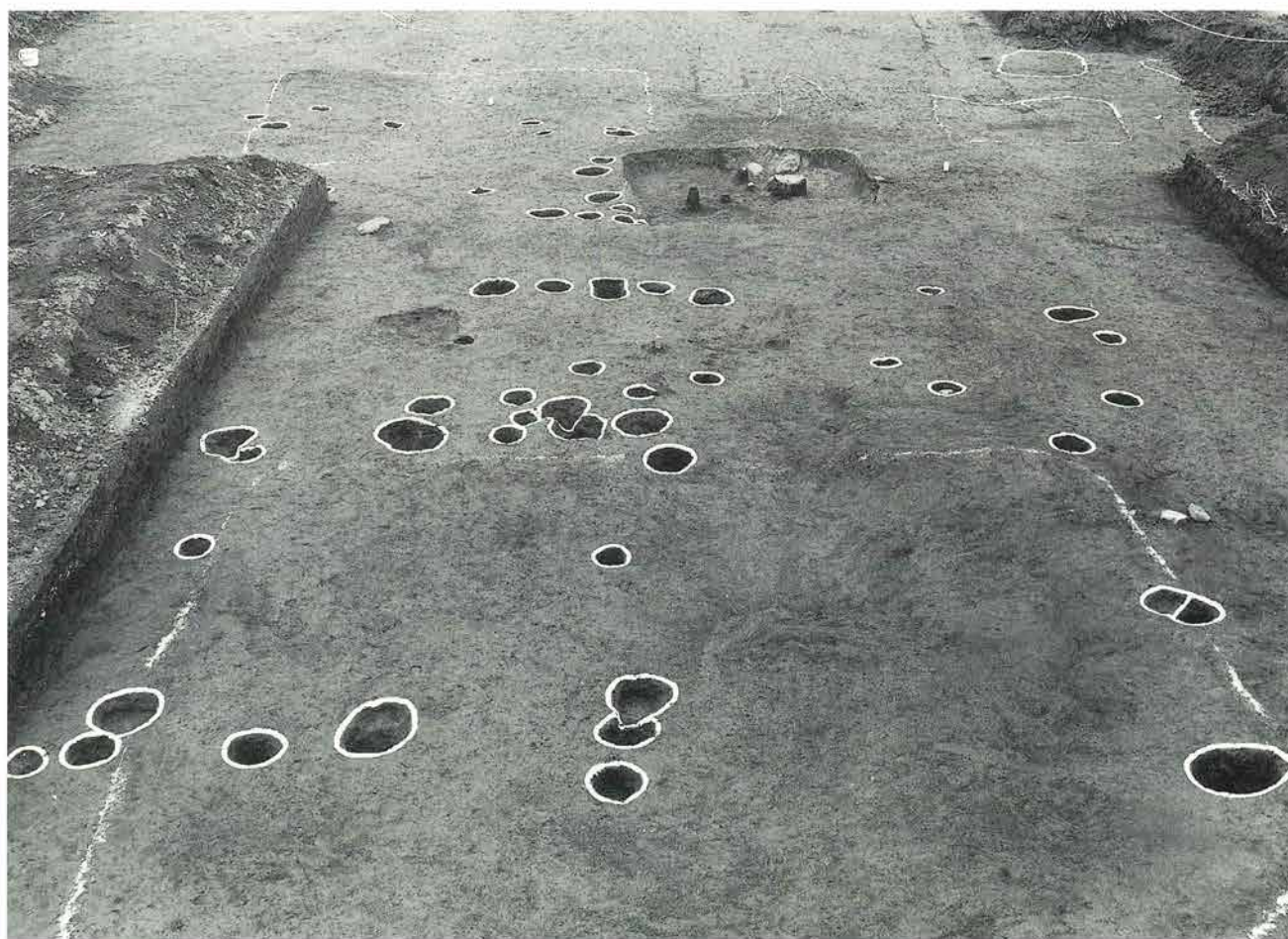
2号住居跡全景（西側から）



1号掘立柱建物跡全景（北側から）



2号掘立柱建物跡全景（北側から）



3～7号掘立柱建物跡全景（西側から）



外1



外2



外3



外4



外5



外6



外7



外8



外9



外10



外11



外13



外14



外12



外15



外16



外17



外18



3住3



3住2



3住1



3住4



3住5



3住6



3住7



3住8



3住9



3住10



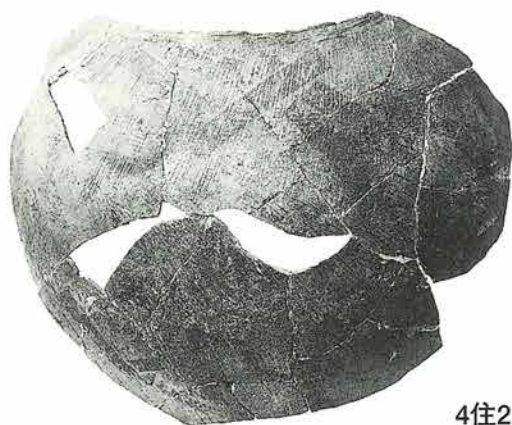
3住11



4住1



4住3



4住2



4住4



4住5



4住6



4住7



4住8



4住9



4住10



4住11



4住12



4住13



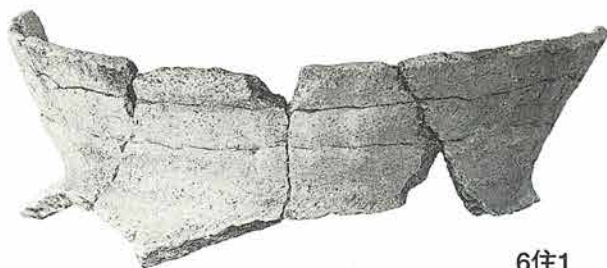
5住1



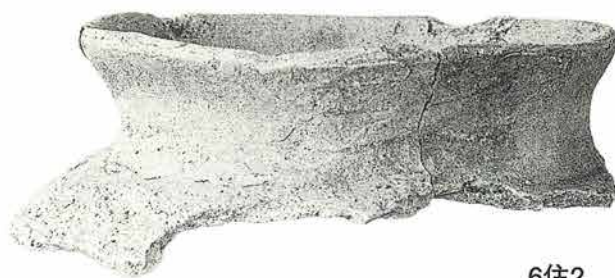
5住3



5住2



6住1



6住2



6住3



6住4



6住5



6住6



6住7



6住8



6住9



6住10



6住11



6住13



6住12



6住14



6住15



8住1



8住2



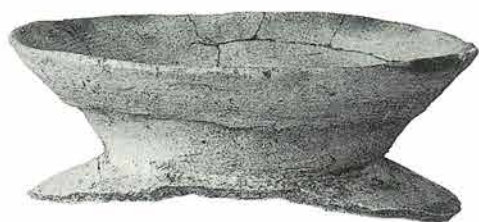
8住3



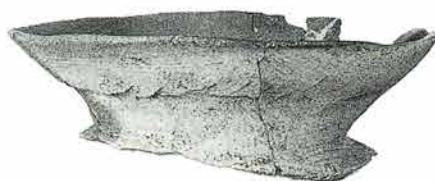
8住4



8住5



9住1



9住2



9住4



9住3



9住6



9住5



10住1



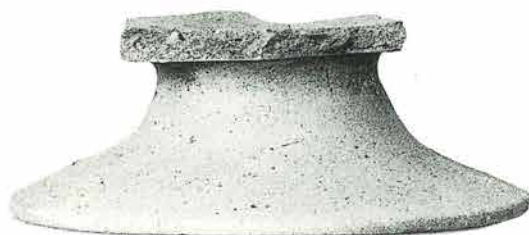
10住2



古墳-外 1



1住1



1住2



1住3



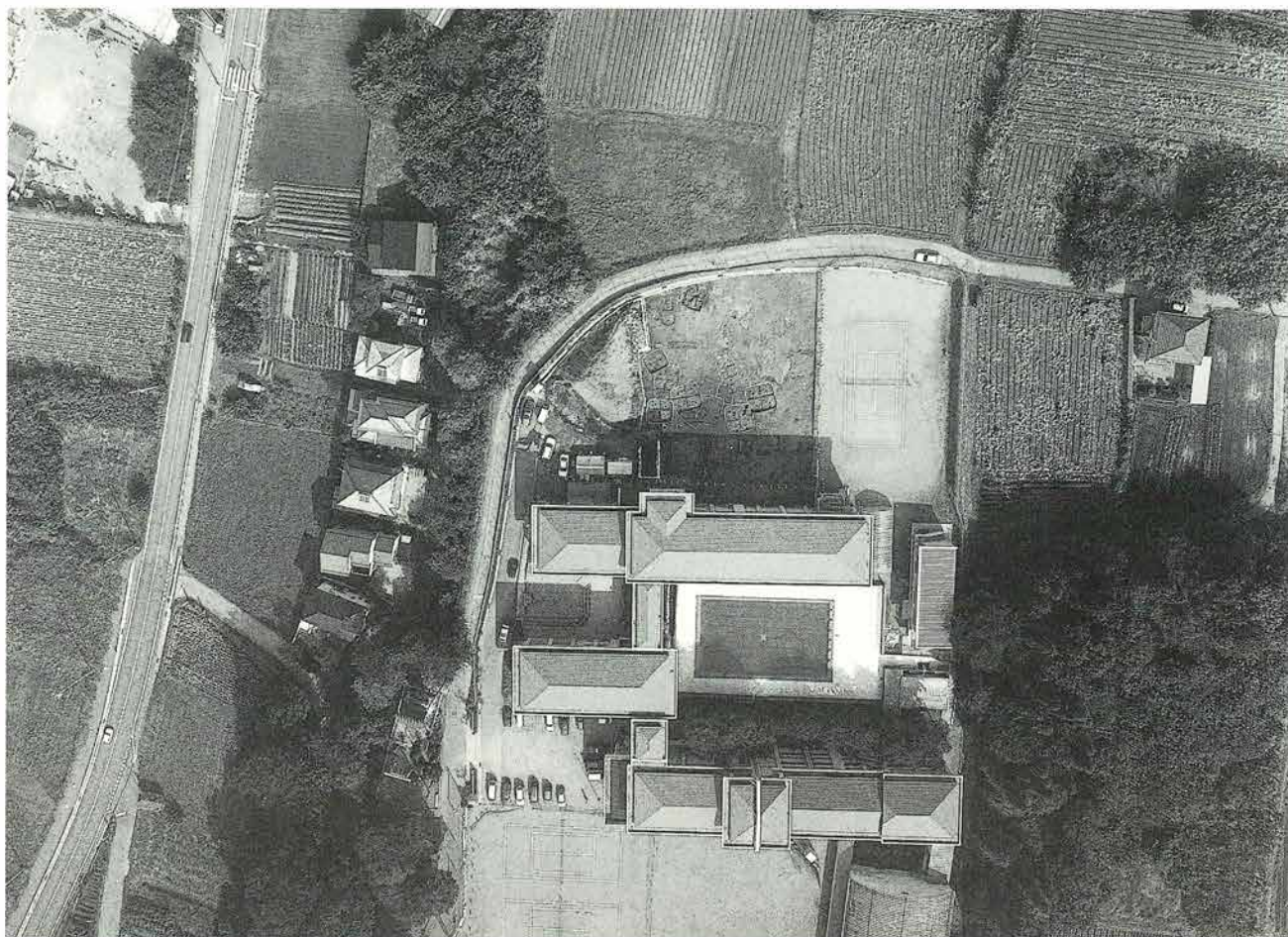
1住4



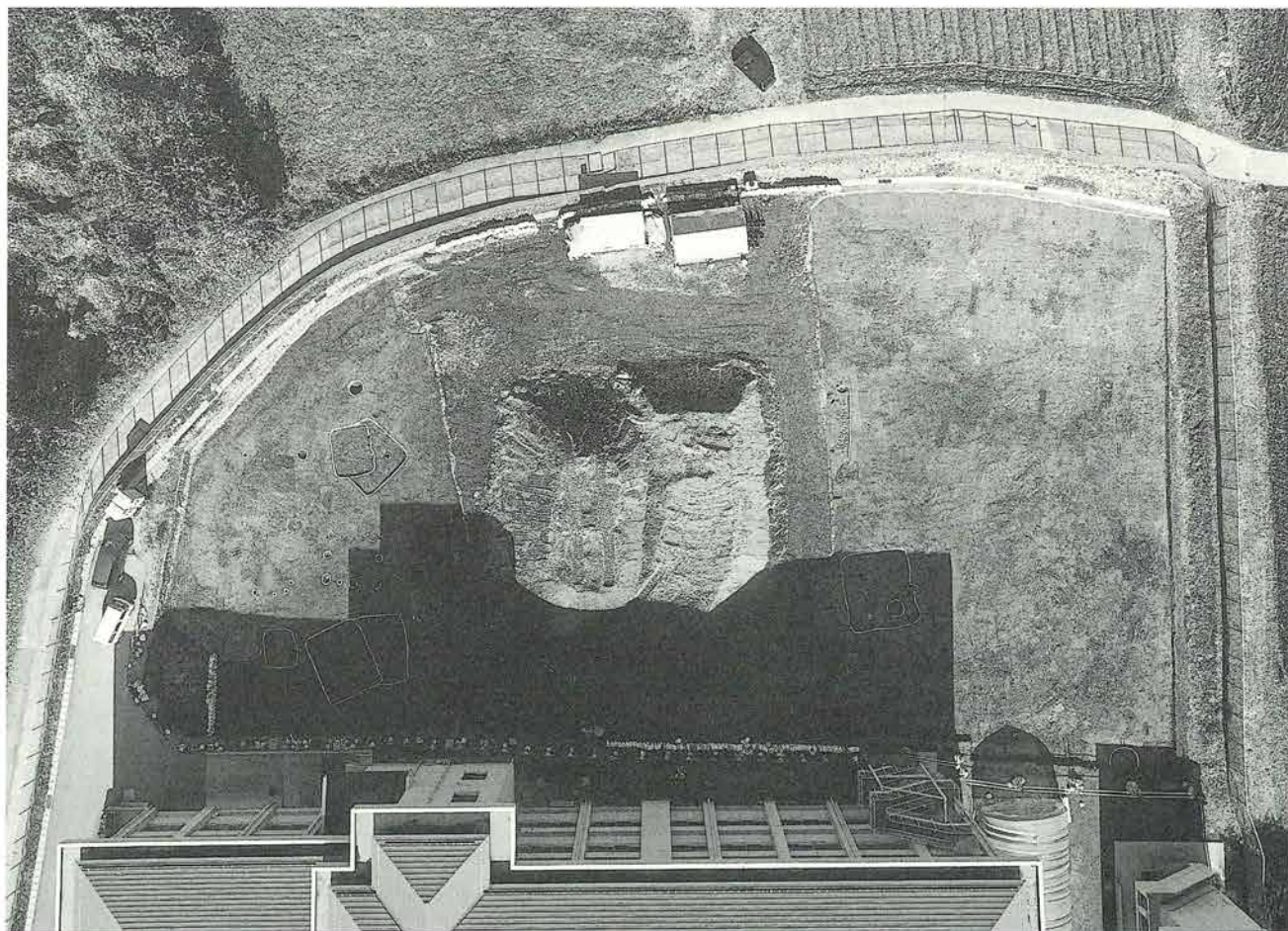
1住5



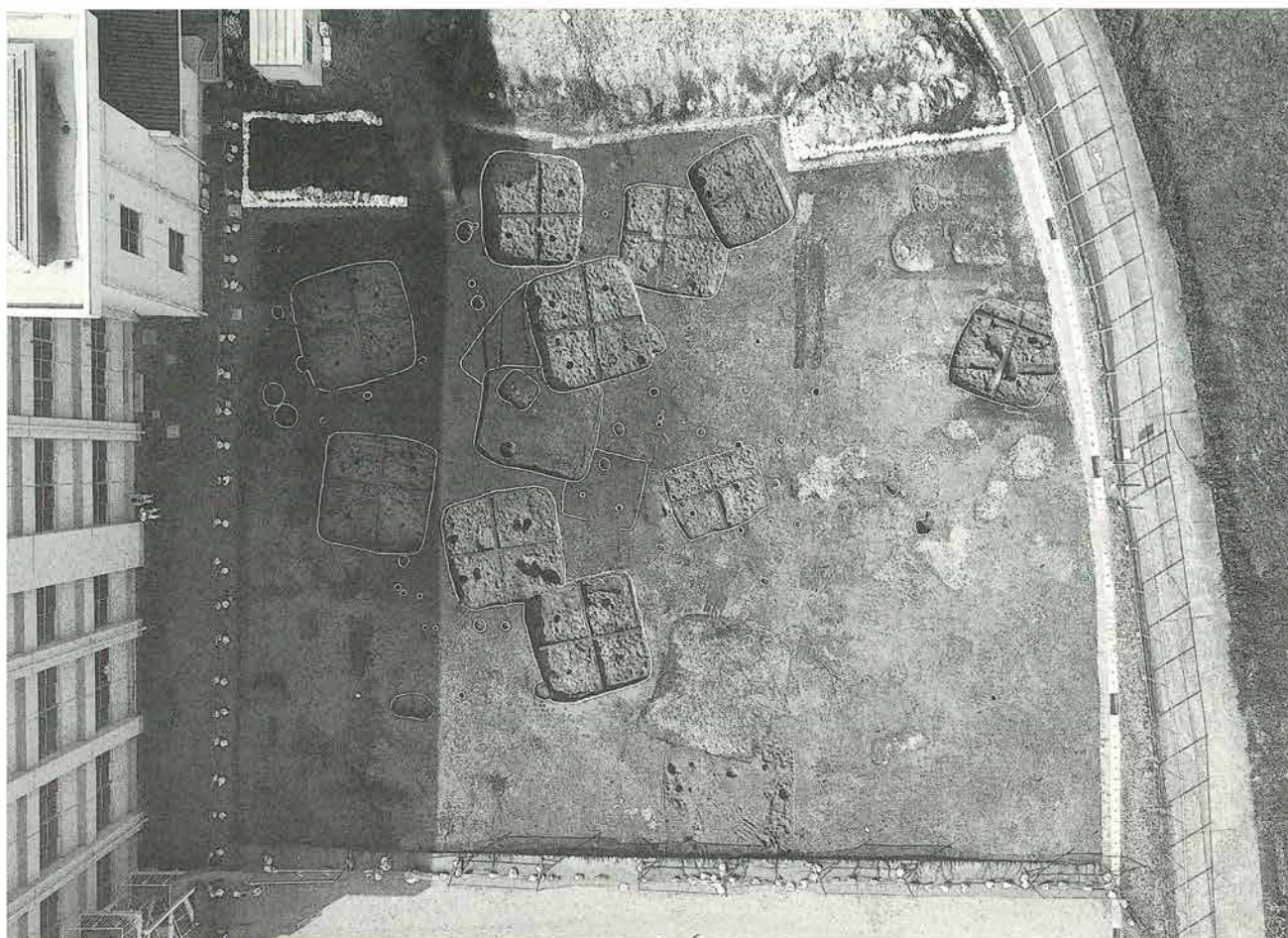
1住6



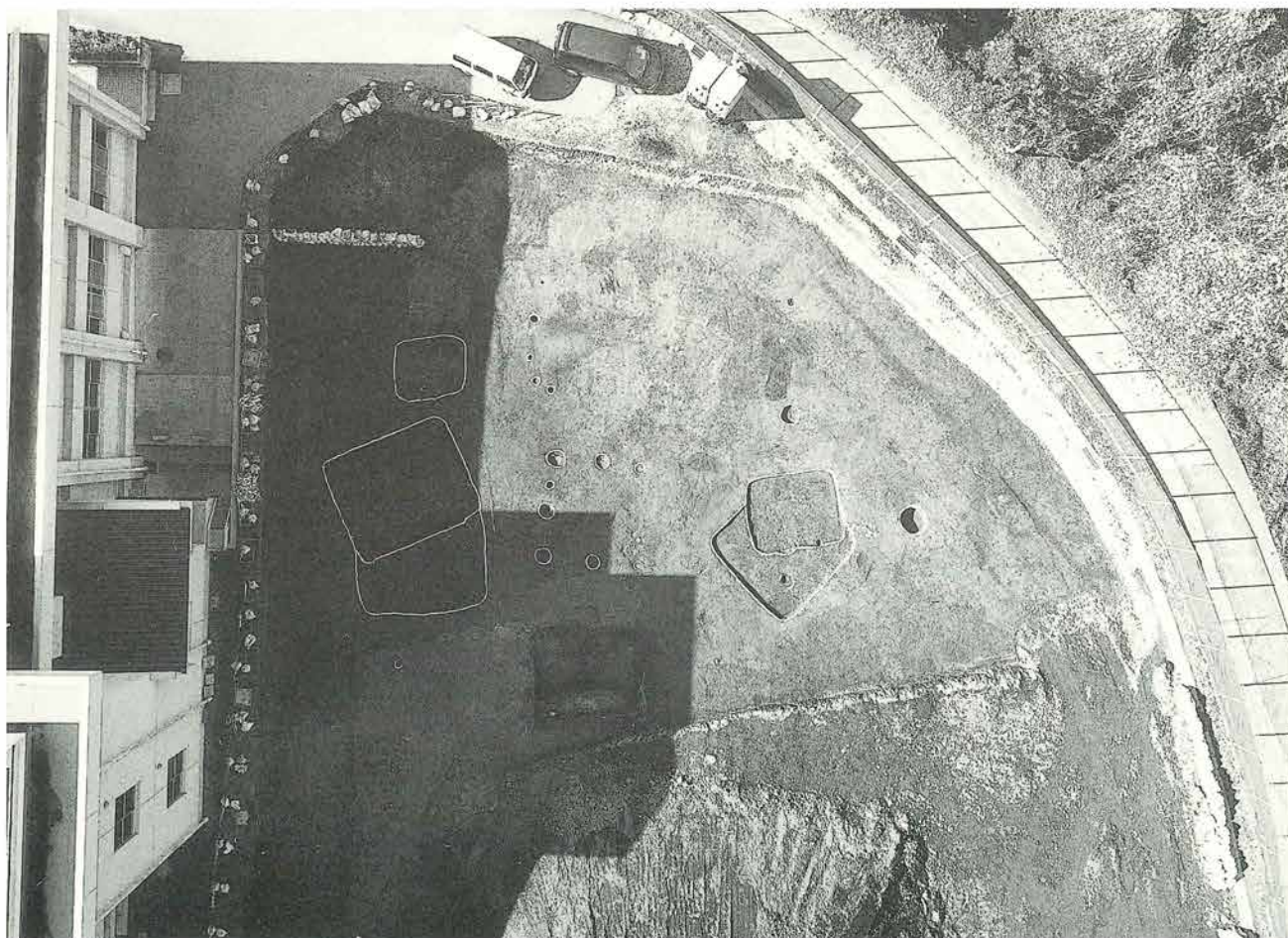
遺跡全景（薄根中学校全景）上空から



調査区域全景 1（調査終了段階）上空から



調査区域全景 2 (調査終了段階) 上空から



調査区域全景 3 (調査終了段階) 上空から



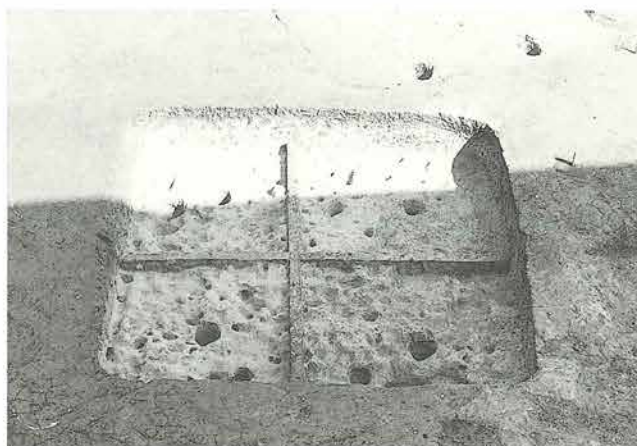
24号住居跡遺物出土状況全景 南から



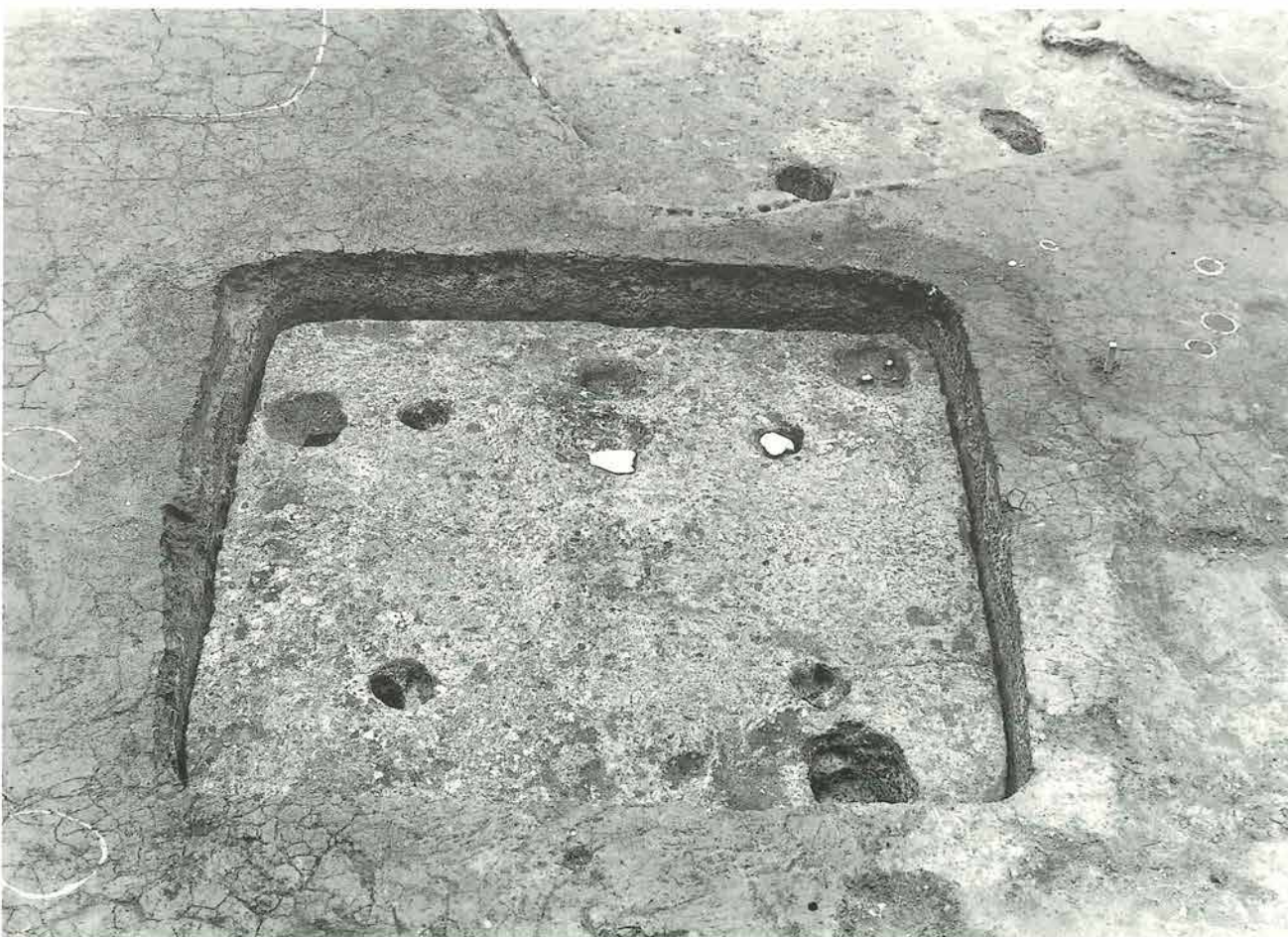
24号住居跡遺物出土状況部分



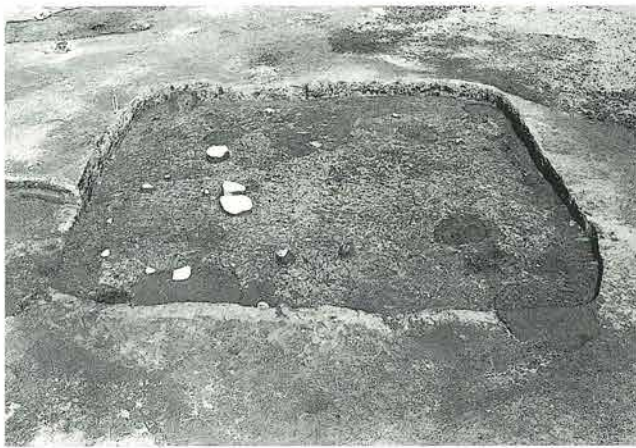
11号住居跡遺物出土状況全景 南から



11号住居跡掘方全景 南から



11号住居跡全景 南から



13号住居跡遺物出土状況全景 南から



13号住居跡遺物出土状況部分 東から



13号住居跡炉全景 南から



13号住居跡掘方全景 南から



13号住居跡全景 南から



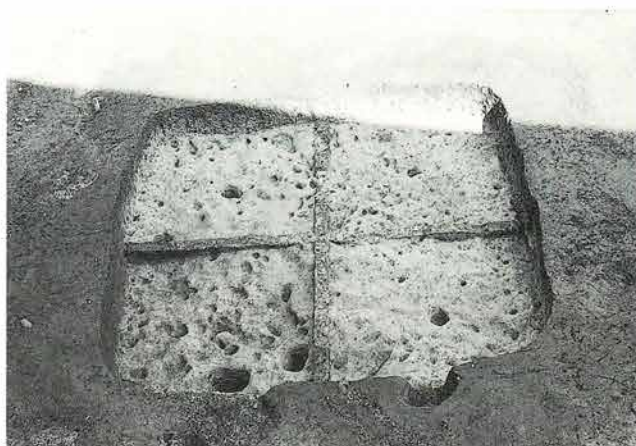
14号住居跡1号炉全景 南から



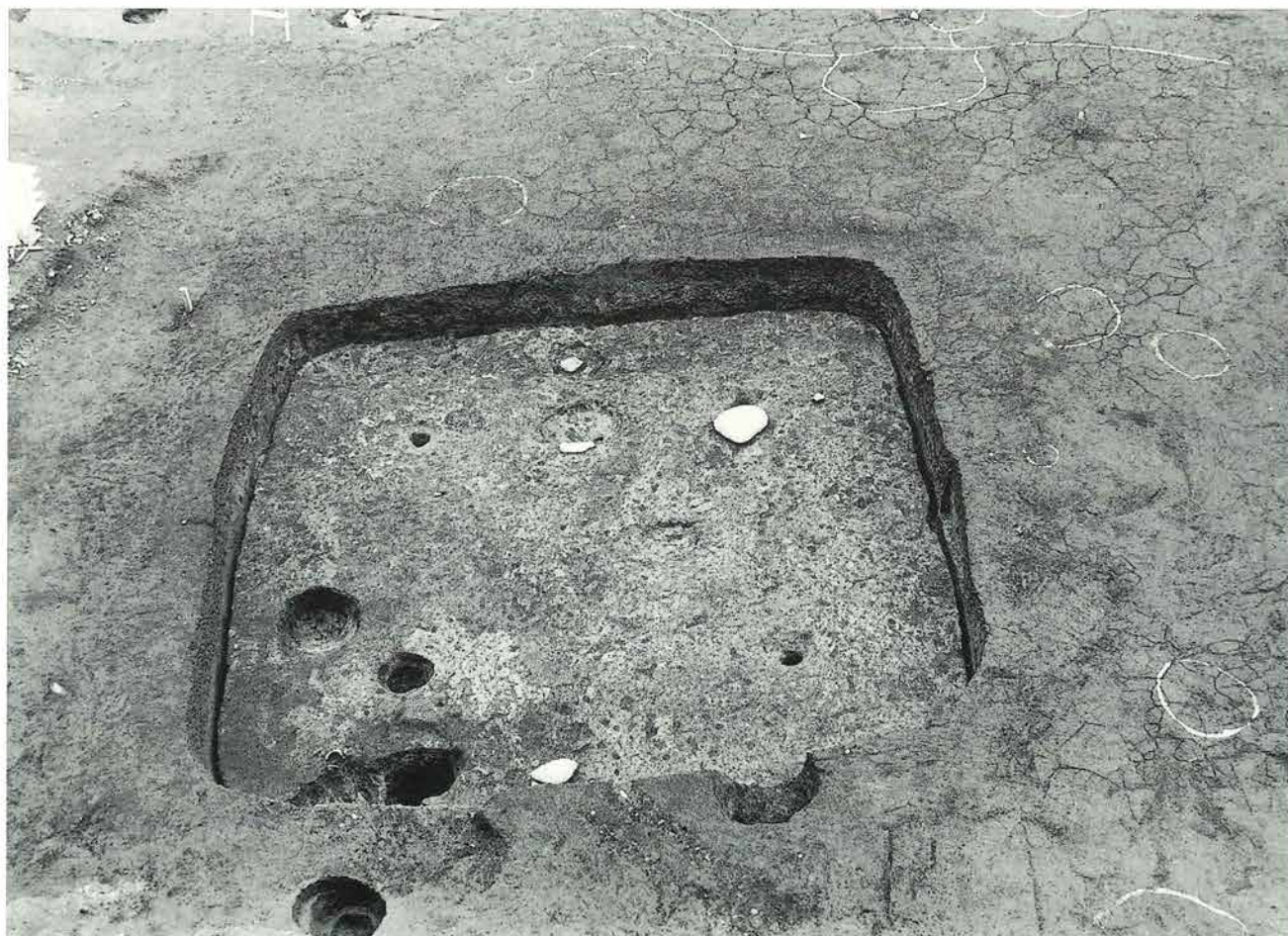
14号住居跡2号炉全景 西から



14号住居跡3号炉全景 西から



14号住居跡掘方全景 南から



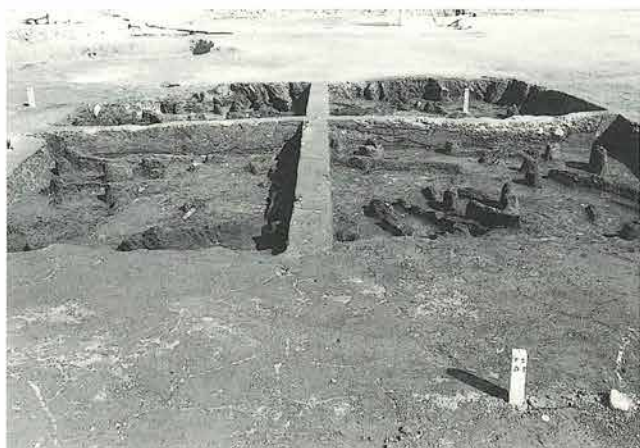
14号住居跡全景 南から



17号住居跡全景 南から



17号住居跡遺物出土状況近景



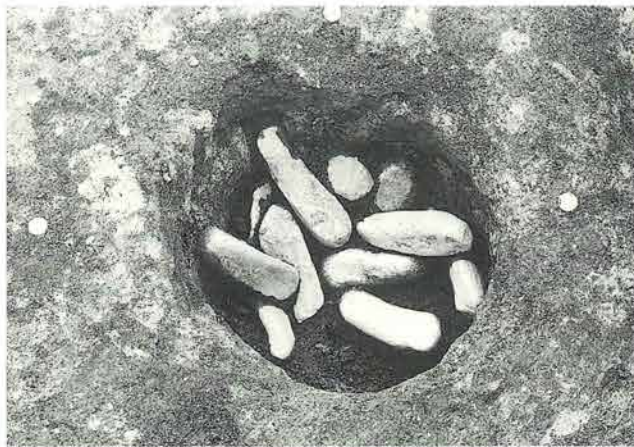
18号住居跡覆土埋没状況



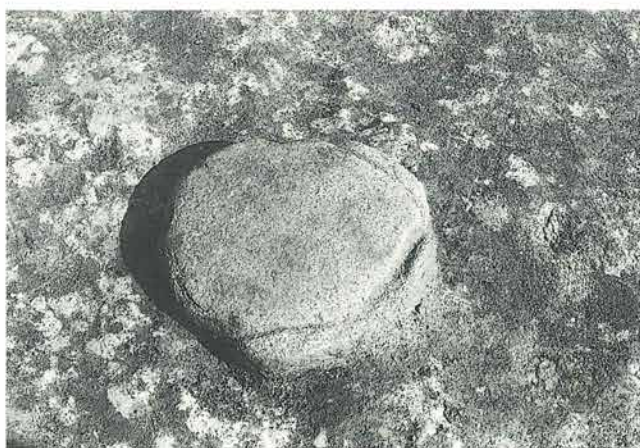
18号住居跡遺物出土状況全景



18号住居跡炉全景



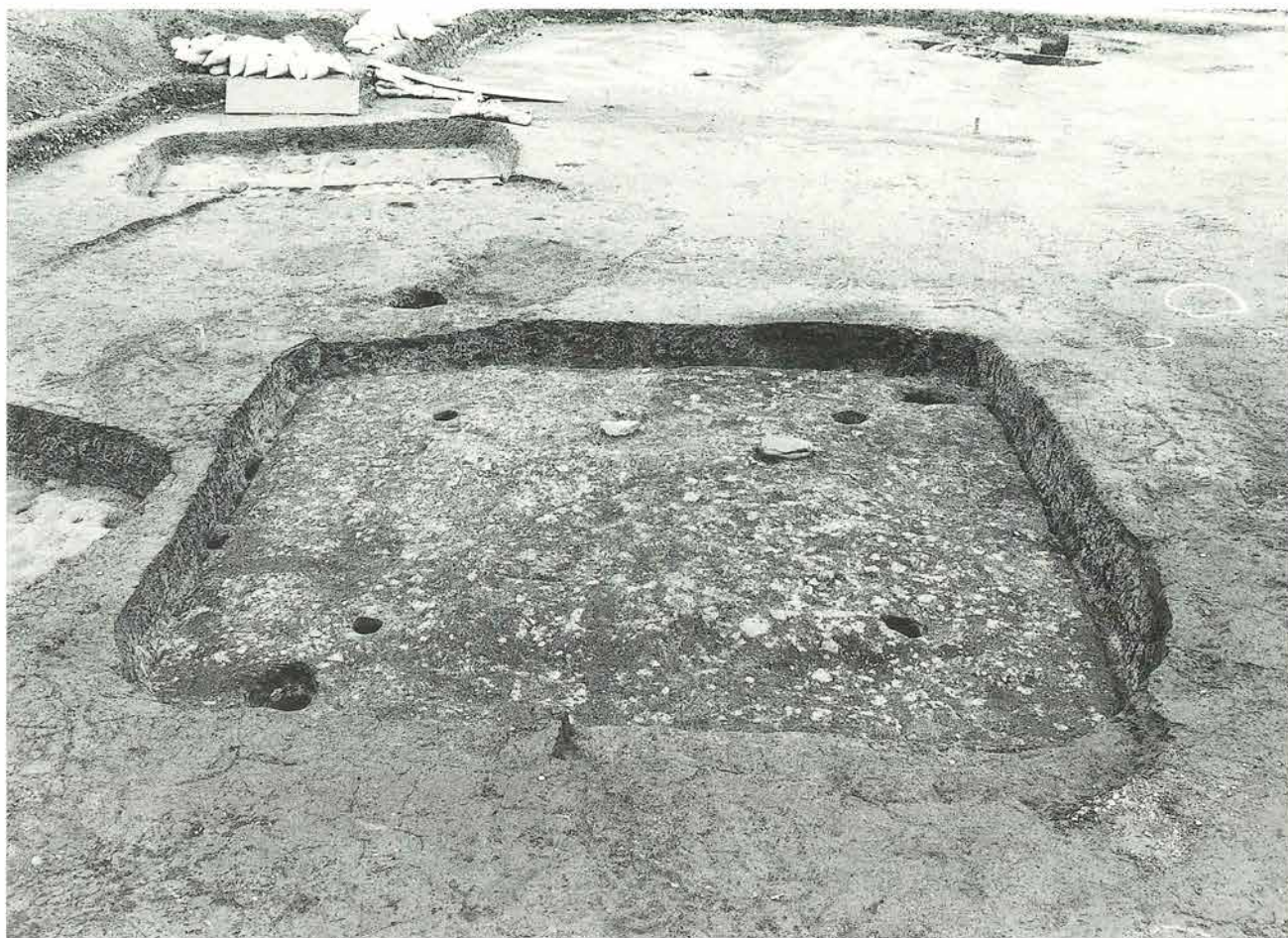
18号住居跡貯蔵穴全景



18号住居跡遺物出土状況近景



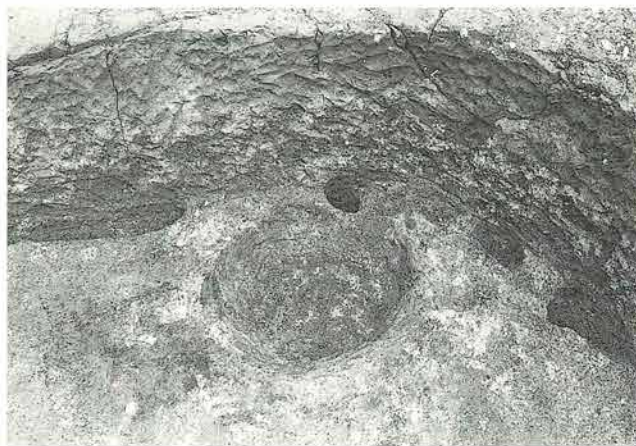
18号住居跡掘方全景 南から



18号住居跡全景 南から



19号住居跡覆土埋没状況 北から



19号住居跡貯蔵穴全景 南から



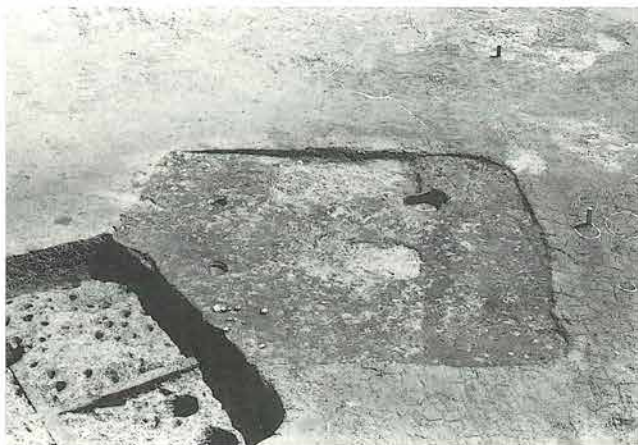
19号住居跡炉全景 南から



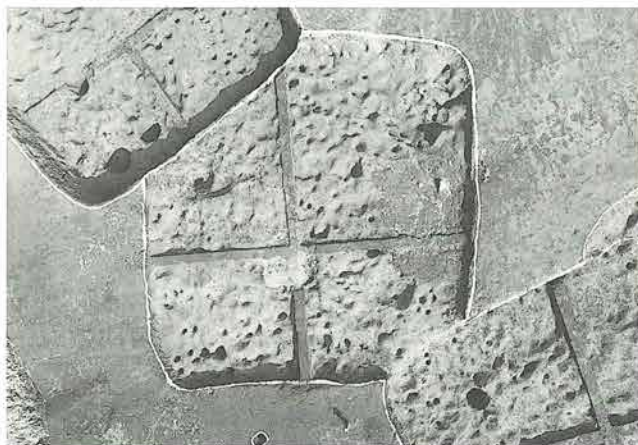
19号住居跡掘方全景 南から



19号住居跡全景 西から



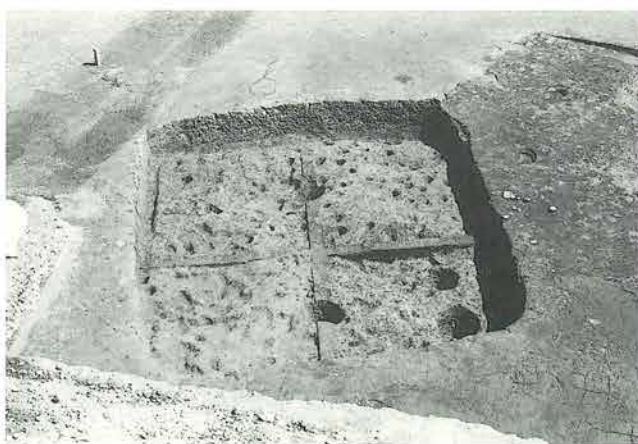
20号住居跡全景 西から



20号住居跡堀方全景 上空から



21号住居跡全景 西から



21号住居跡堀方全景 西から



22号住居跡全景 南から



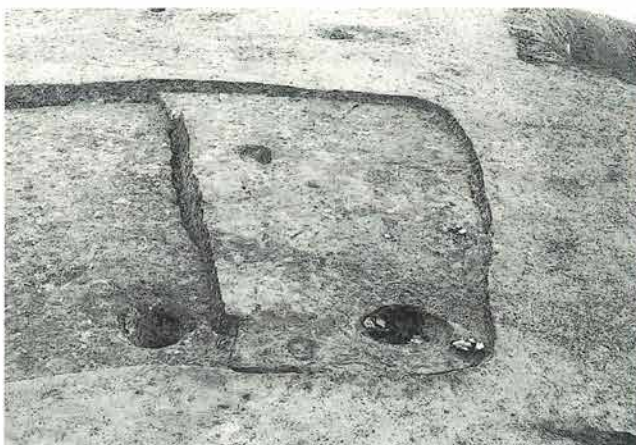
22号住居跡掘方全景 南から



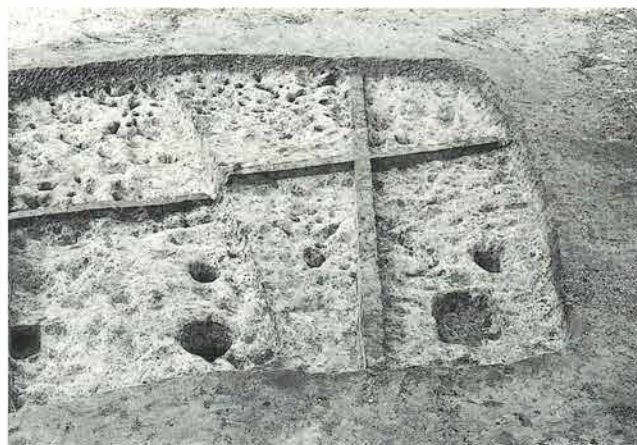
23号住居跡掘方全景 (西側)



23号住居跡掘方全景 (東側)



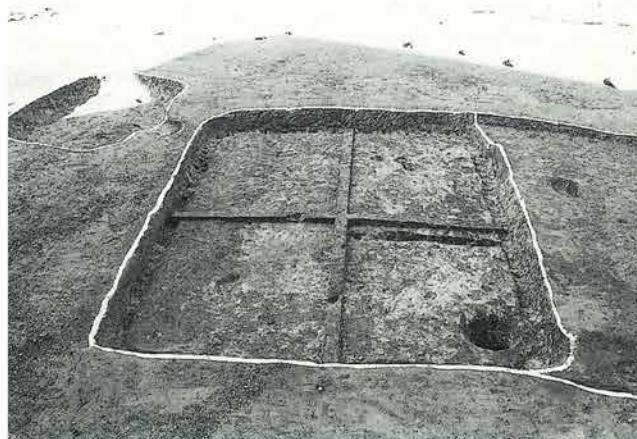
25号住居跡全景 南から



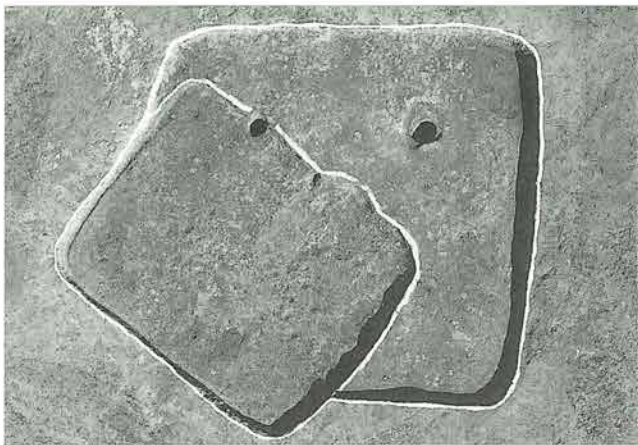
25号住居跡掘方全景 南から



26号住居跡全景 東から



26号住居跡掘方全景 南から



28号住居跡全景 上空から



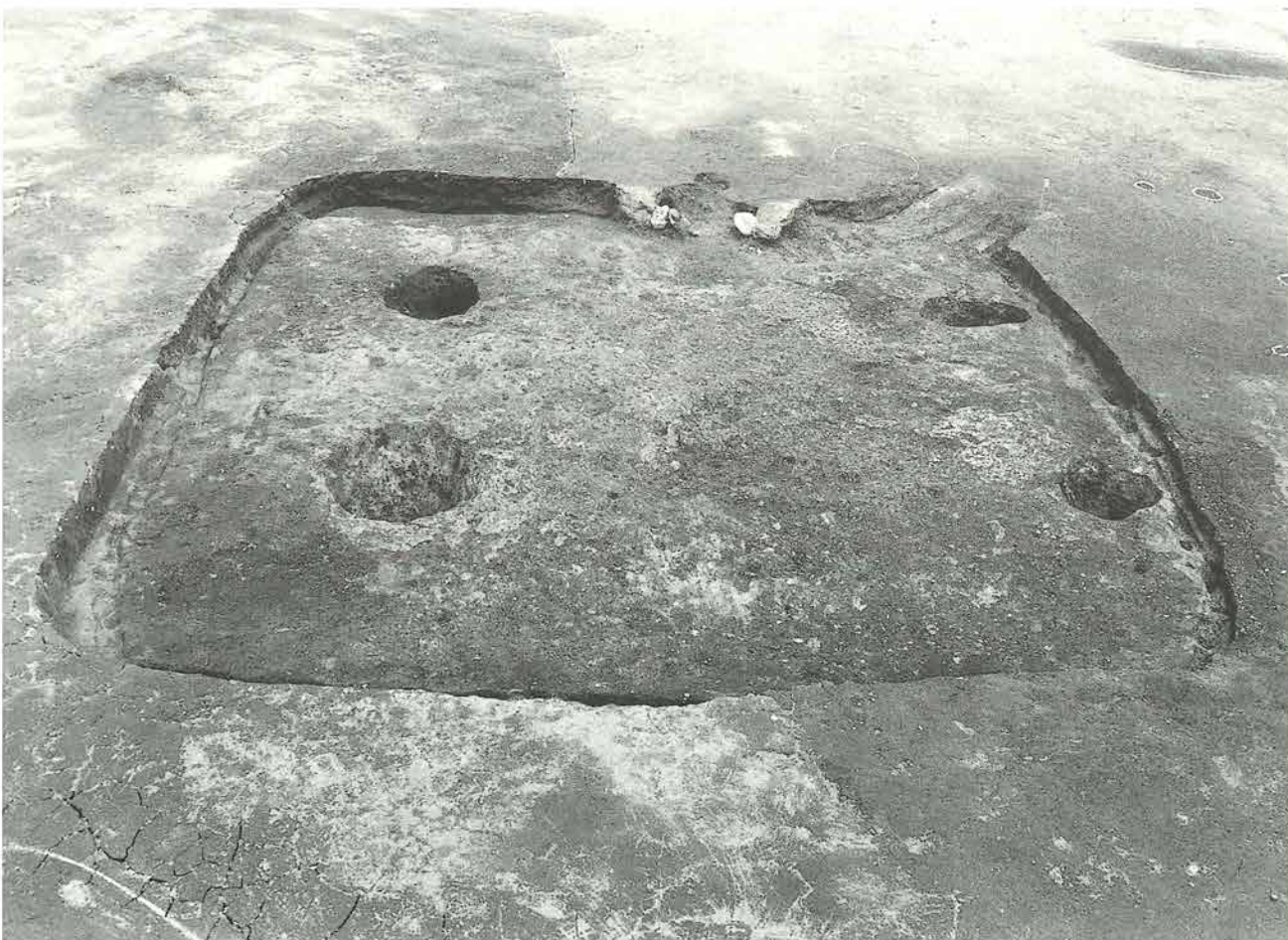
28号住居跡掘方全景 南から



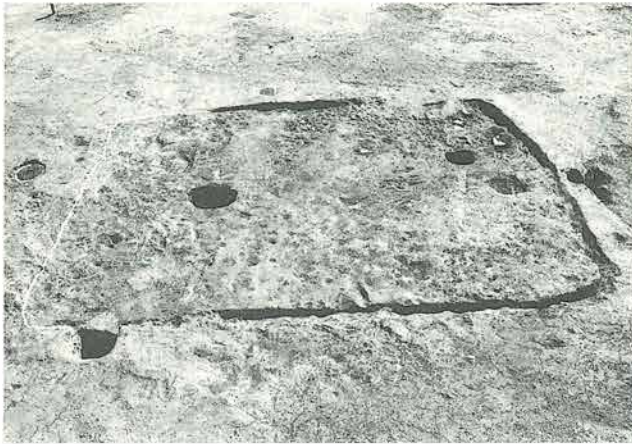
12号住居跡カマド全景 西から



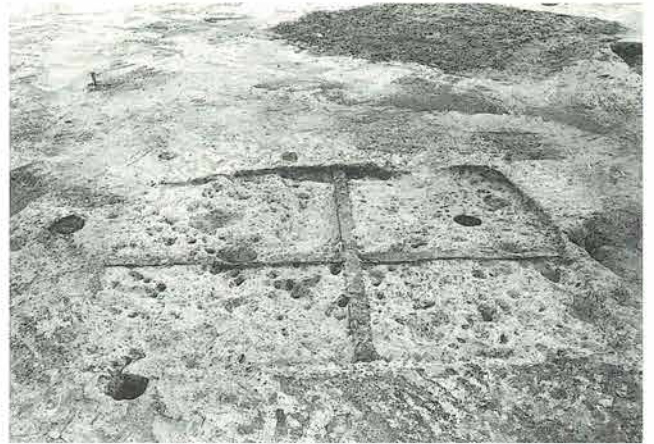
12号住居跡掘方全景 南から



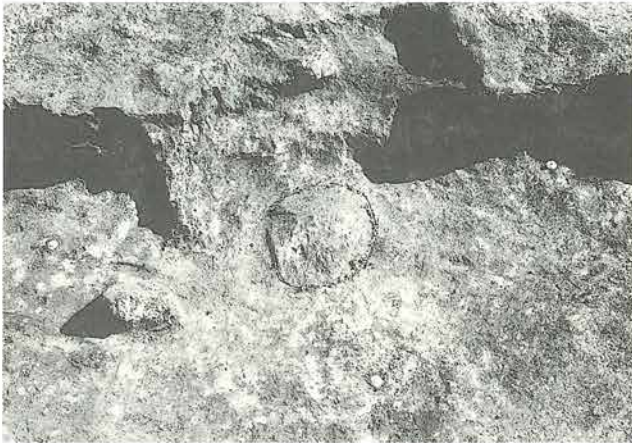
12号住居跡全景 西から



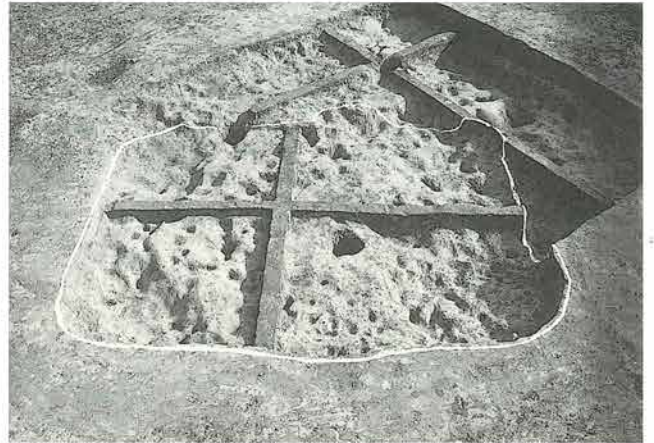
16号住居跡全景 西から



16号住居跡掘方全景 西から



27号住居跡カマド全景 西から



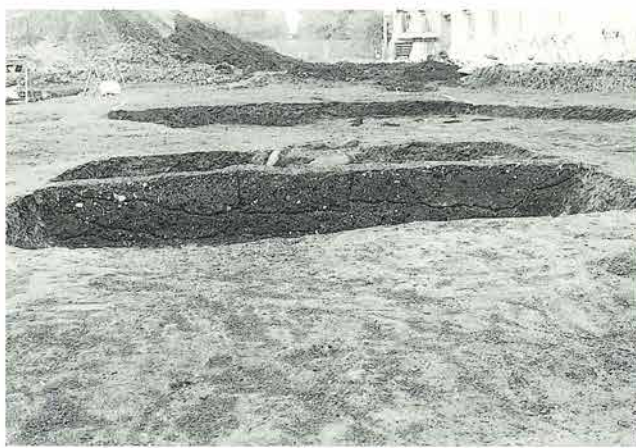
27号住居跡掘方全景 西から



27号住居跡全景 西から



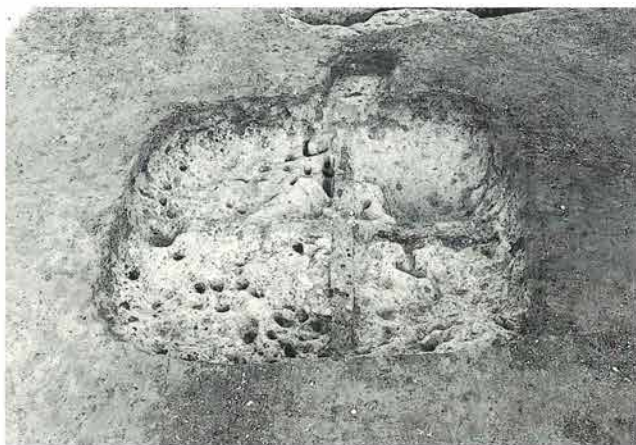
29号住居跡カマド全景 西から



29号住居跡覆土埋没状況 南から



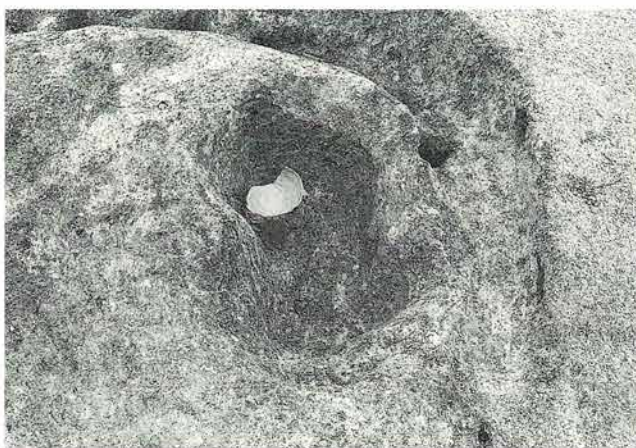
29号住居跡全景 南から



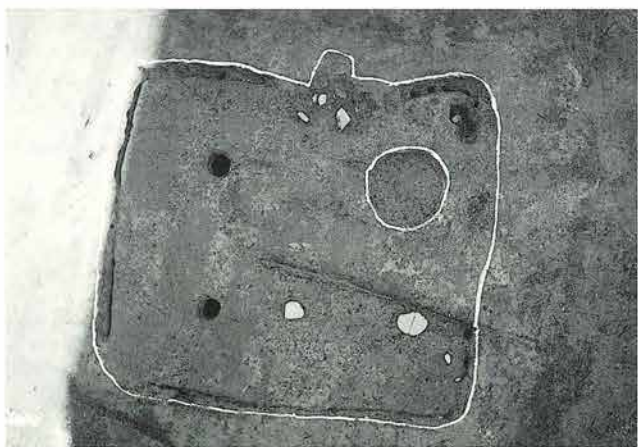
29号住居跡掘方全景 西から



30号住居跡カマド全景 西から



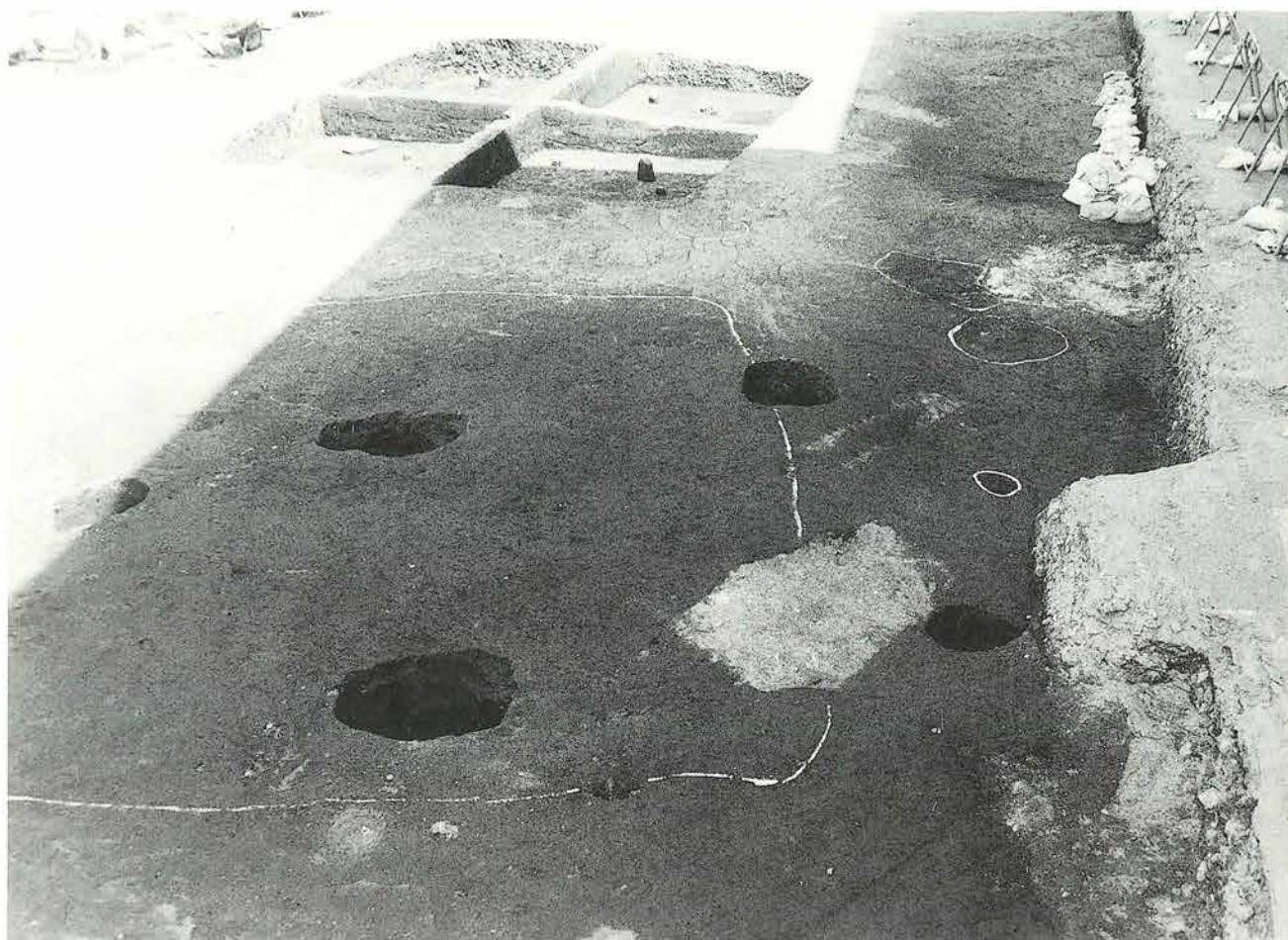
30号住居跡遺物出土状況近景 西から



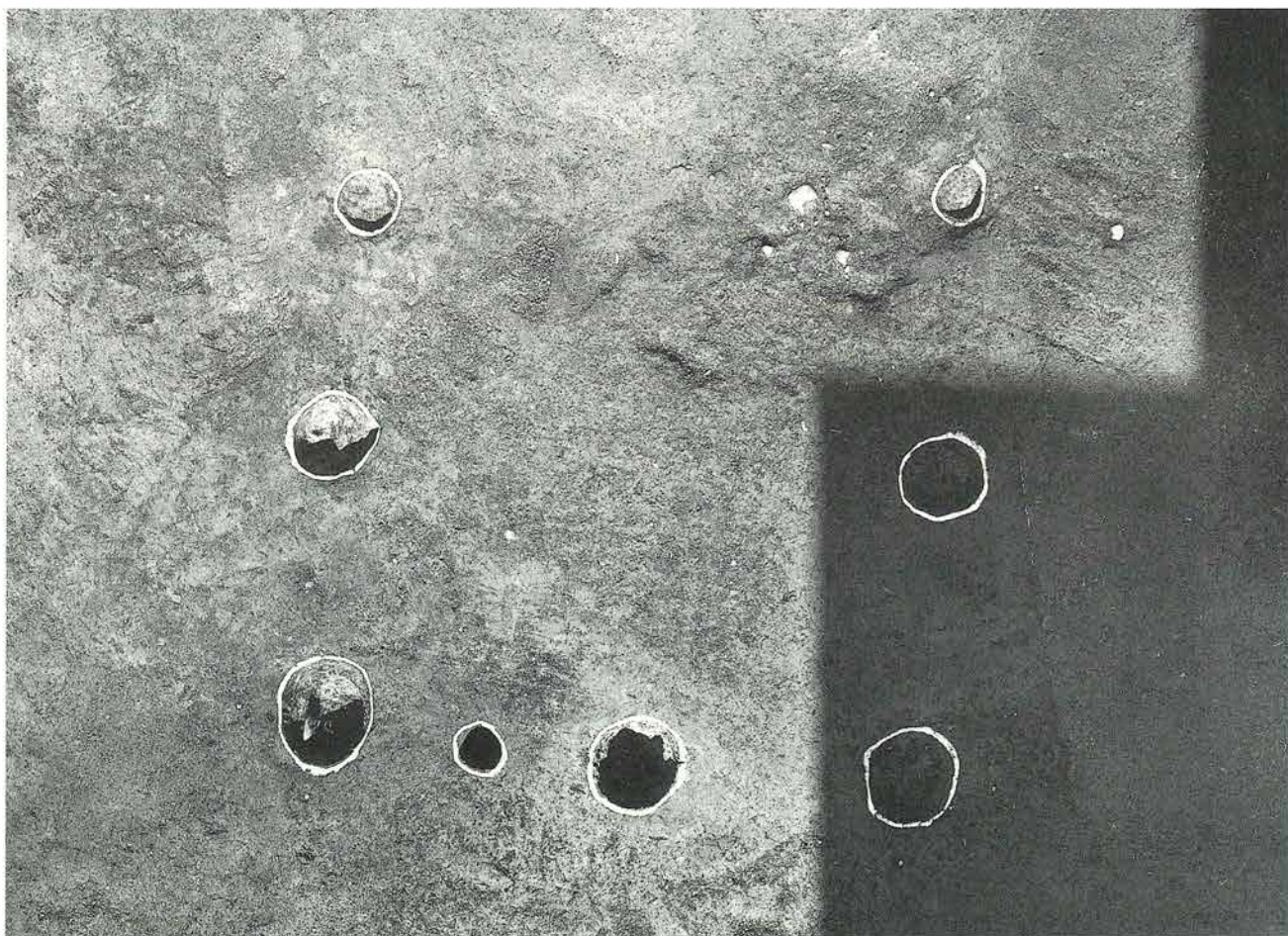
30号住居跡全景 上空から



15号住居跡全景



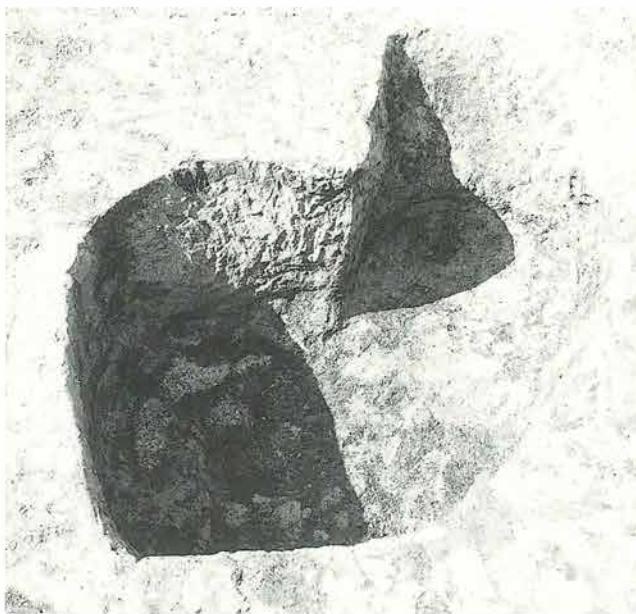
8号掘立柱建物跡全景 西から



9号掘立柱建物跡全景 上空から



5号土坑全景 東から



6号土坑全景 南から



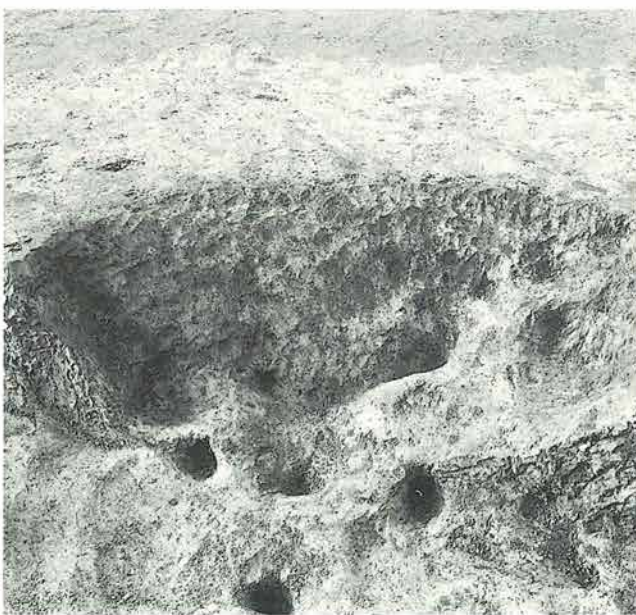
7号土坑全景 東から



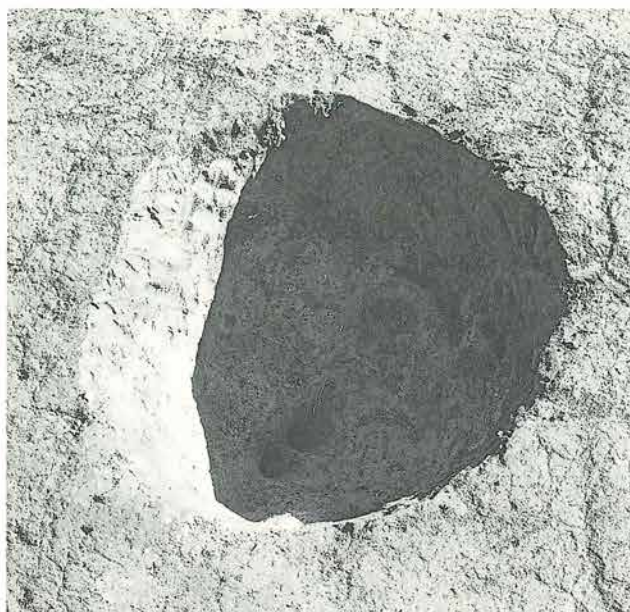
8号土坑全景 東から



9号土坑全景 南西から



10号土坑全景 南から



11号土坑全景 南西から



12号土坑全景 南西から



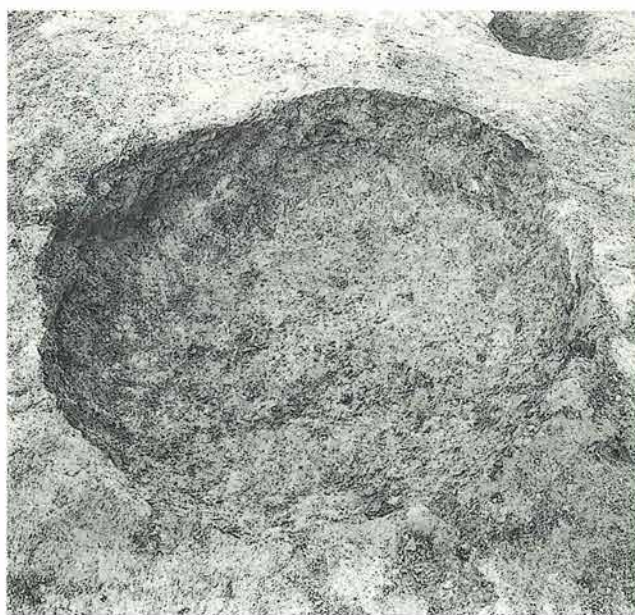
13号土坑全景 南から



14号土坑全景 南から



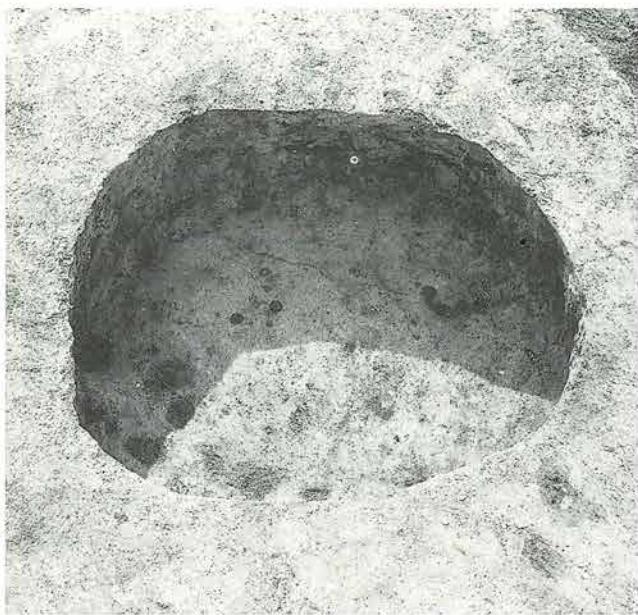
15号土坑全景 南から



16号土坑全景 北から



17号土坑全景 北から



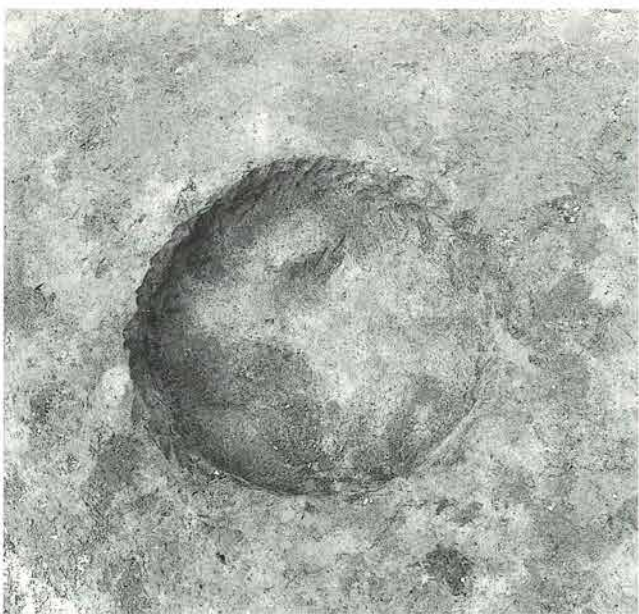
18号土坑全景 北から



19号土坑全景 東から



20号土坑全景 東から



21号土坑全景 南から



22号土坑全景



24住1



24住2



24住3



9±1



縄・弥一外1



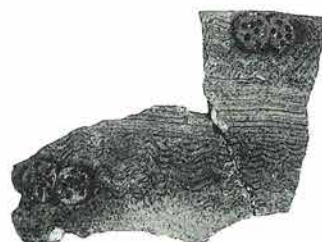
縄・弥一外2



縄・弥一外3



縄・弥一外4



縄・弥一外5



縄・弥一外6



縄・弥一外7



縄・弥一外8



縄・弥一外9



縄・弥一外10



縄・弥一外11



縄・弥一外12



縄・弥一外14



縄・弥一外13



11住1



11住2



11住3



11住4



11住5



11住6



11住7



11住8



11住9



11住10



11住11



11住12



13住2



13住1



13住3



13住4



13住5



13住6



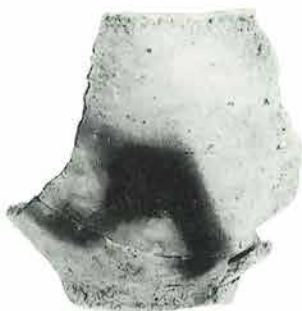
13住7



14住1



17住1



17住2



17住3



17住4



18住1



18住2



18住3



18住4



18住5



19住1



20住1



21住1



21住2



21住3



21住4



21住5



25住1



25住2



25住3



26住1



26住2



26住3



28住1



古墳-外1



12住1



12住2



12住3



12住4



16住1



16住2



16住3



16住4



16住5



27住1



29住1



29住2



30住1



30住2



30住3



30住4

抄 録

フリガナ	ムカイダイセキ
書名	向田遺跡
編著者名	小池雅典・茂木良子・大越直樹・土生朗治
発行機関	沼田市教育委員会 〒378-8601 群馬県沼田市西倉内町780番地 TEL 0278-23-2111
発行年月日	2003年3月28日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 遺跡所在地	コード		調査期間	北緯	東経	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
ムカイダイセキ 向田遺跡	(平成4年度)	群馬県沼田市大 カマチョウアザムカイダ 釜町字向田746- 1・747番地	10206	19921019～ 19921124	36° 38′ 40″	139° 1′ 15″	1,000 m ²	薄根中学校 普通教室棟 建設
	(平成14年度)			20020806 ～20021129			2,724 m ²	薄根中学校 屋内運動場 建設

遺跡名	種別	時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
向田遺跡	集落	縄文時代	土坑3	土器：早期～前期土器破片、 石器：石鏃・石錐・石匙・打製 石斧・石鏃・凹石・剥片・石核	遺構は古墳時代集落を主体 としている。 遺物は同時代の3号住居跡 出土土製紡錘車の形状が特 筆される。
		弥生時代	土坑1	土器：後期樽式土器壺	
		古墳時代	竪穴住居跡8	土師器・土製品：壺・甕・台付 甕・器台・埴・高坏・土製紡錘 車、石製品：磨き石	
		奈良・平安 時代以降	住居跡2 掘 立柱建物跡7 土坑1 欄列	土師器：甕、須恵器：高坏	
	集落	縄文時代		土器：中期深鉢、石器：石鏃・ 打製石斧・凹石・剥片	遺構は古墳時代集落を主体 としている。 遺物は同時代の17号住居跡 出土の鉄製鎌が特筆される。 また11・14・18・19号住居 跡の北東側柱穴付近に配置 される台石が特徴的である。
		弥生時代	竪穴住居跡1 土坑1	土器：樽式土器壺・甕・台付 甕・高坏、石器：磨製石斧	
		古墳時代	竪穴住居跡1 2	土師器：甕・台付甕・埴・高坏・ 有段形土器、石製品：管玉	
		奈良・平安 時代以降	竪穴住居跡5	土師器：甕・坏、須恵器坏・蓋	
		時期不明	竪穴住居跡1 土坑17		

向 田 遺 跡

沼田市立薄根中学校校舎等建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 平成 15 年 3 月 27 日

発行 平成 15 年 3 月 28 日

編 集 沼田市教育委員会・山武考古学研究所

発 行 沼田市教育委員会

沼田市西倉内町780番地

TEL 0278-23-2111

印 刷 荒瀬印刷株式会社

高崎市上小堀町733番地

TEL 027-343-4132
